

教室年報 2025

岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2025

巖刀会 (外科学講座同門会)



三ツ石神社(盛岡市)

外科学講座の歴史

本学は昭和3年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校が設立され、昭和26年に学校法人岩手医科大学が発足するに至った。

外科学講座の歴史は古く昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和三十五年に三宅徳三郎、昭和三十三年には永松之幹、そして昭和三十一年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和三十一年に外科学第一講座と名称を変え、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和五十四年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授であった森昌造が教授に赴任。昭和六十一年に東北大学第2外科教授へ転任となるまで、疾患別のグループ制度を導入することで各分野の専門性を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和六十二年六月に斎藤和好が外科・内科において初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術など外科学の更なる進歩に貢献した。

平成十七年に斎藤の退職後、同年九月慶應義塾大学外科学専任講師であった若林剛が教授に就任、患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として北東北での肝移植を実現した。

平成二十七年八月に同科准教授の佐々木章が教授に就任。肥満外科手術の指導的施設として国内外に情報を発信するとともに、各分野の内視鏡外科手術を中心とした患者様に低侵襲で良質な治療を提供できるよう研究、教育そして診療に取り組んでおります。



こちらのQRコードを読み取ってホームページにアクセスできます

外科学講座の 広報活動

当講座では、診療・研究・教育における取り組みを広く発信するため、ホームページを中心とした広報活動を行っています。ホームページでは、各診療分野の紹介に加え、腹腔鏡手術やロボット支援手術をはじめとした低侵襲手術の取り組み、スタッフ紹介、診療体制などを掲載し、「主治医の顔が見える医療」を目指しています。

また、市民公開講座や研究会、学会活動などの情報を随時更新するとともに、現在ホームページを刷新中であり、より新しく、分かりやすい情報の提供に取り組んでいます。今後も、患者さん、医学生・研修医、医療関係者の皆さまに向けて外科学講座の現在の姿を的確に発信し、私どもと皆さまをつなぐ架け橋となるよう努めてまいります。

教室年報 (2025年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

教室年報2025 発刊にあたって…………… 外科学講座教授 佐々木 章

教室の今年1年

教室の一年…………… 外科学講座教授 新田 浩幸

小児外科における医療安全の再構築と未来への責任

…………… 外科学講座准教授 鈴木 信

患者さんに対峙する時に思うこと外科学講座准教授 梅邑 晃

012 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

015 チーム紹介

上部消化管チーム/下部消化管チーム/肝胆膵・内分泌代謝外科チーム/
乳腺チーム/小児外科チーム/高度救命救急センター(救急・災害・総合医学講座 救急医学分野)

026 2025年診療状況

入院患者分類/手術件数/関連病院手術件数/
関連病院発表業績件数/外科専門医制度修練指定施設・関連施設/
日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設(認定施設)

028 新教室員紹介

児玉 琢

029 表彰の栄誉

厚生労働大臣感謝状を賜って…………… 新田 浩幸

令和7年度へき地医療貢献者表彰を受賞して…………… 佐藤 一

令和7年度 岩手県営医療貢献賞を受賞して…………… 葛西 敏史

第18回地域医療貢献奨励賞・岩手県保険医療功労者表彰を受賞して…………… 吉田 徹

国民健康保険中央会表彰を受賞して

岩手県国民健康保険団体連合会理事長表彰を受賞して…………… 佐々木 章

第87回日本臨床外科学会選考医セッション最優秀賞を受賞して…………… 口田 脩太

巖刀会 学術賞を受賞して…………… 熊谷 秀基

034 学位取得者(博士)

学位論文報告…………… 棚橋 洋太/岩崎 崇文/下沖 美里

036 学会報告

第23回日本ヘルニア学会学術集会…………… 川村 英伸

東日本肥満症・糖尿病チーム医療セミナー2025…………… 佐々木 章

第48回日本死の臨床研究会年次大会…………… 木村 祐輔

【海外学会報告】

The 38th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association,

Japan Chapter (PPSA-JC)にに参加して

…………… 川島 到真/小山 亮太/菊地 晃司/琴畑 洋介/徐 光仁

22nd Congress of the European Society for Organ Transplantation

(ESOT) 2025に参加して…………… 井原 欣幸

30th ESPEN Course in Clinical Nutritionに参加して…………… 梅邑 晃

21st World Congress of Endoscopic Surgery in conjunction

with the 17th Asia-Pacific Congress of ELSAに参加して…………… 安藤 太郎

044 メディア紹介

053 2025年アルバム紹介

061 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・

盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・北上済生会病院・

岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・能代厚生医療センター・

八戸赤十字病院・かづの厚生病院

073 開業紹介

074 外科紹介医療機関

079 研究業績

092 スタッフ名簿

094 お知らせ

095 協賛広告



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

教室年報2025 発刊にあたって

岩手医科大学外科学講座の教室年報2025をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

1928年（昭和3年）、岩手医学専門学校設立と共に外科学講座の歴史が始まりました。1929年（昭和4年）に副島鎮雄教授（九州大学）が初代教授に就任されて以来、外科学講座は間もなく開講100周年という歴史的な節目を迎えようとしています。副島教授、三宅徳三郎教授（九州大学）、永松之幹教授（九州大学）、瀬田孝一教授（東北大学）、森昌造教授（東北大学）、齊藤和好教授（岩手医科大学）、若林剛教授（慶應義塾大学）といった偉大な先達が築き上げ、受け繋いでこられた伝統があります。私達はいま、そのバトンを手に、2025年という変革のただ中に

立っています。かつて外科の世界には「Big surgeon, big incision（名医は大きく切る）」と言われた時代もありました。しかし、私達はその価値観を更新する挑戦を続けてきました。1990年代の内視鏡外科手術への転換を経て、現在はロボット支援手術の普及により、手の可動域拡大、手振れの補正、深部での緻密な操作が可能となり、多くの領域で標準的治療として定着しつつあります。そして、その先にあるAIの活用こそが、次の100年を切り拓く鍵になると確信しています。ロボットが外科医の手の延長であるならば、AIは脳の拡張です。術中ナビゲーションをはじめとする進展は、熟練医の暗黙知を可視化し、医療をより高い安全性の次元へと押し上げています。私達は、歴史に

k i r a S A S A K I

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

裏打ちされた技を大切にしながらも、最新のデジタル知見を自在に操るサイエンティストとしての外科医を目指さなければなりません。一方で、技術がどれほど高度化しても、外科医の本質は、病に苦しむ患者さんに直接手を差し伸べるといふ献身にあります。特に広大な岩手において、地域医療の最後の砦を守る覚悟を、今こそ改めて胸に刻むべき時代です。

本年度の大きなトピックスは、診療報酬における「外科医療確保特別加算」の新設です。これは長時間かつ高難度の手術に挑む外科医の勤務環境改善と人材確保を目的とした画期的な施策です。本加算の算定要件には、加算額の30%以上を別途手当として支給することが明確に定められています。私が果たすべき最大の使命は、この制度を最大限に活用し、若手外科医が誇りと希望を持って働ける環境を盤石にすることにあると考えております。現場で尽力する外科医に正当な対価が還元される仕組みを整えることは、単なる処遇改善に留まりません。それは、外科という厳しくも尊い道を志す次世代に向けた、私達世代からの確かな投資でもあります。本院において本制度が適切に運用され、一人でも多くの若者が外科の道を志してくれるよう、関係者各位の積極的な対応を期待します。

2028年4月の定年退職まで、残すところあと2年となりました。開講100周年という大きな節目を目前に控え、私がなすべきことは、この世紀をまたぐ伝統と情熱を次世代へと確実に継承し、本講座がさらなる高みへと飛躍するための強固な土台を築き上げることだと

考えています。岩手の地で地域医療の最後の砦を守り抜いてきた私達の歩みは、この年報の一頁一頁に刻まれています。

本年報を紐解けば、若手教室員から熟練の指導医に至るまで、それぞれが目の前の患者に真摯に向き合い、たゆまぬ研鑽を積み重ねてきた軌跡が鮮明に浮かび上がります。日々の診療、研究、そして教育活動の積み重ねは、本講座の歩みを支える礎であり、未来を照らす道しるべでもあります。

現在、医療を取り巻く環境は目まぐるしく変化していますが、私達が常に大切にすべきことは、患者さんにとっての最善を追求する姿勢です。いかにテクノロジーが進歩しようとも、最後に執刀医を支えるのは、自らの手で生命を救うという強い意志と、地道な鍛錬に裏打ちされた確かな技術です。そして、こうした外科学の使命と魅力を、次の世代へと確かに伝えていくことも、私達に課せられた重要な責務です。

教室員一人ひとりが先達の足跡を糧とし、さらに高い志を持って研鑽を重ねるとともに、若い仲間を一人でも多く迎え入れ、外科学の魅力に心を動かされる学生がさらに育ってくれることを切に願っています。外科学の未来は、まさにその志ある若者たちの中にあります。教室員には、その未来を担う人材を育みながら、自らもまた世界へ、そして未来へと羽ばたいてほしいと願っています。

最後になりますが、平素より多大なるご支援を賜っております巖刀会の先生方、ならびに各関連病院の皆様に深く感謝申し上げます。



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

新田 浩幸

Hiroyuki Nitta, M.D., Ph.D.
Professor

教室の一年

2025年は、大きな事故もなく、診療・教育ともに安定して実施することができた1年でありました。上部消化管、下部消化管、内分泌代謝、肝胆膵・移植、乳腺、小児といった大所帯であり、診療内容も多岐にわたりますが、各チームが連携を取りながら、安全に診療を行うことができたと考えております。

一方で、若手外科医の確保は2025年においても大きな課題でした。外科に興味を持つ学生は一定数存在するものの、岩手県外で研修を行った場合、地元あるいは都市部で外科医を志す傾向が強く、岩手に残るメリットを十分に伝えきれていないことも一因と考えています。

そこで、外科学講座ではリクルート戦略の一環として、外科に興味を持つ学生を対象とした「外科手術手技同好会」を立ち上げました。本同好会では、糸結び

や縫合、内視鏡手術シミュレーターを用いた実技練習などを経験できる場を提供しています。活動後には食事会を開催し、若手医局スタッフとの交流を通じて、岩手医科大学で外科修練を行うメリットや将来展望について語り合う機会を設けています。

また、今回の診療報酬改定で新設された「外科医療確保特別加算」は、外科医の処遇改善という点で非常に意義の大きいものです。時間的拘束が多く、専門医取得までに長期間を要する消化器外科領域において、このような制度は外科を志す学生や若手医師への重要なアピールポイントとなります。実際に学生と接する中で、外科に興味を持つ学生は想像以上に多いと感じており、現在のサークル活動と制度の後押しが、今後の入局者増加につながることを期待しています。

肝胆膵・移植領域においては、ロボット支援下肝切除が定型化され、今後はいかに教育へ展開していくかが課題となっています。2025年末までにロボット肝切除は160例に達し、胆管切除を伴わない肝切除における術式の内訳は、ロボット70%、腹腔鏡20%、開腹10%でした。ロボット手術枠の制約により腹腔鏡で施行した症例も多く、本来は80～90%がロボット手術の適応であったと考えられます。

もちろん、すべての症例においてロボット手術が最適というわけではなく、改善の余地も残されています。しかしながら、ロボット手術は今後確実に進化していく分野であり、AIや画像支援技術の発展を見据えると、現時点で導入・定型化を進めることは、中堅・若手スタッフにとって大きな意義があります。

台数や手術枠、コストといった課題はあるものの、今回の診療報酬改定で「内視鏡手術用支援機器加算」が設定されたことを踏まえ、膵切

除においてもロボット手術のさらなる推進を図っていきたいと考えています。現在では、ロボットによる部分切除の多くを中堅・若手が担当しており、ダビンチのデュアルコンソールは教育面で有用であると実感しています。今後は画像支援技術を活用しながら、大肝切除においても無理なく執刀経験を積める体制を整えていきたいと考えています。

また、病院内では副院長としての職務にも従事しました。外来化学療法へのシフトや、DPC機能評価係数向上を目的とした在院日数の短縮などに取り組み、医局スタッフの協力のもと、病院収益の向上に大きく貢献することができました。

研究を大切にする大学の方針のもと、今後も外科学講座における臨床・教育・研究のすべてにおいて貢献できるよう、引き続き尽力していきたいと考えております。



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

鈴木 信

Makoto Suzuki, M.D., Ph.D.
Associate Professor

小児外科における医療安全の再構築と未来への責任

2024年の「働き方改革」関連法の施行から1年が経過し、医療現場には新たな労働環境が定着しつつあります。医師の健康を守るための労働時間短縮が進む一方で、外科医特有の課題である技術習得の機会確保や、限られた人員での診療体制維持といった問題は依然として山積しています。特に、症例の集約化と若手教育の効率化は、我々が直面している最も急務な課題といえます。

このような時代の転換点において、私たちが改めて真摯に向き合わなければならないのが「医療安全」の在り方です。2025年末、名古屋大学小児外科において、腹腔鏡手術に関連する事故や薬剤使用時の倫理的手続きの不備などが相次いで報道され、同科の手術が原則中止に追い込まれるという、小児外科界にとって極めて衝撃的な事態が発生しました。こ

の事案は、小児外科という繊細な領域における安全管理の難しさと、その社会的責任の重さを改めて我々に突きつけました。私自身、かつて群馬大学における医療事故の検証および外科学講座の組織改編の最前線に立ち、失墜した医療安全体制をゼロから再構築するという責務に携わりました。その過程で痛感したのは、個人の技量に依存する「職人芸」としての外科医療から、多職種による重層的なチェックと透明性の高いガバナンスを備えた「組織の医療」への脱却の必要性です。少子化により一症例の重みが増す中、希少疾患や難易度の高い手術の安全性をいかに担保するか、名古屋大学の事例から学ぶべきは、個人のスキルに頼るのではなく、多職種によるチェック機能、風通しの良いチームビルディング、そしてインシデントを組織の糧とする「心理的

k o t o S U Z U K I

M.D., Ph.D. Associate Professor

安全性」の確立です。

小児外科を取り巻くもう一つの厳しい現実
は、加速する少子化です。出生数の減少は症例
数の低下を招き、若手医師のトレーニング機会
の減少、ひいては専門性の維持を困難にしてい
ます。東北地域のように患者数および医師数が
限られた地域では、施設の集約化は避けられな
い議論となりつつあります。現在、岩手医科学
大学小児外科は、東北地域で唯一、新生児に対
する内視鏡手術（胸腔鏡・腹腔鏡）を実施でき
る体制を維持しております。私たちは、この「特
色ある診療」をさらに深化させるとともに、群
馬での教訓を活かした「強固な安全文化」を土
台に据えなければなりません。今後、地域にお
ける施設の集約化が進む中で、我々は「最も安
全で、かつ高度な医療を提供する最後の砦」で
ある必要があります。AIや遠隔医療といった
最新技術の活用も、その根底にあるのは、一人
ひとりの子どもたちに最善の結果をもたらすと

いう安全への情熱と考えます。

最後になりますが、2027年6月には盛岡（ア
イーナ）にて、「第63回日本小児放射線学会学
術集会」を主催予定です。小児の画像診断は外
科診療の安全性を担保する要であり、本学会の
成功は小児医療全体の質の向上に直結いたし
ます。巖刀会会員の皆さまにおかれましては、
本集会の成功に向けた多大なるご支援とご協力
を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

薄学菲才の身ではございますが、次年度も臨
床・研究・教育、そして何より「医療安全の徹
底」に誠心誠意努力してまいる所存です。岩手
医科大学外科学講座および巖刀会会員の皆さま
におかれましては、今後ともさらなるご指導ご
鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

教室の今年1年



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

梅邑 晃

Akira Umemura, M.D., Ph.D.
Assistant Professor

患者さんと対峙する時に思うこと

2025年は岩手医科大学附属病院にとっても、外科学講座にとっても様々なtry and errorを経ながら変革を迎えた1年となりました。そのような変革の中にあっても、院内のスタッフや学内の教職員の皆様に多くの支援を頂きながら臨床・研究・教育に従事することができました。学内・学外に関わらず巖刀会の先生方には常々お力添えを頂きまして、多くの場面で支えて頂き改めまして感謝申し上げます。

自分自身の2025年を再度見つめ直してみますと、自分自身の未熟さを痛感することが多々ありました。医療には「絶対」という言葉はなく、特に外科医が対峙する患者さんの多くは手術リスクを御承知頂いた上で手術に臨まれます。書面上のインフォームドコンセントでは、合併症発生率や周術期死亡率につ

いては一般的にはパーセント表示や具体的な確率（交通事故の遭遇率など）と比較して提示することが多いですが、このような料簡は医療者視点での事象に対する評価であることをあたかも常識のように考えてしまいます。合併症など全く起こらない手術など存在しないことを外科医は分かりきっているがゆえに、周術期合併症を発症した患者さんの視点からすれば何度も同じ手術や疾病を思うわけではないので、合併症発生率100%になるということまで慮ることを怠るようになってしまっているのではないかと自分自身に問いかけるようになりました。自分自身は今後も常にこの気持ちを持って患者さんと対峙し、自分が導きうる最善の治療を提示させて頂き、責任を持って提供するという姿勢として示して参る所存です。

Akira UMEMURA

M.D., Ph.D. Associate Professor

また、川村英伸先生が開催されました第23回日本ヘルニア学会学術集会に先立って、2025年5月22日に第22回日本ヘルニア内視鏡外科手術手技研究集会の当番世話人を務めさせて頂きました。本研究会は、2012年4月に腹腔鏡下鼠径部ヘルニア治療における安全な手術手技の普及を目指して、代表世話人である早川哲史先生によって設立され、現在は日本内視鏡外科学会と日本ヘルニア学会の公認研究会として通例年2回開催されています。沢山の巖刀会の先生方にもご発表やご聴講頂きまして、全国のヘルニア手術のエキスパートの先生方に岩手のヘルニア熱というものを少しはお伝えできたものと考えております。ヘルニア診療の手術手技では昨今多くのbreakthroughが起こっており、本年も大きな一歩を踏み出す可能性があります。外科学講座として、世界のヘルニアの潮流に乗りながらも、ヘルニアを学問として成り立たせることができるよう引き続き精進してまい

りたいと存じます。

最後になりますが、自分が専門としている減量・代謝改善手術の領域で佐々木章教授の御指導と巖刀会の先生方のバックアップにより多くの大学院生が優秀な英語論文を発表してもらっていることにつきまして改めまして感謝申し上げたいと存じます。今後とも、色々な局面で巖刀会の先生方には御指導・御鞭撻を頂きまして精進してまいる所存です。何卒宜しくお願い致します。



助教
天野

総
〔平成25年卒〕

助教
川島

到真
〔平成26年卒〕

助教
菊地

晃司
〔平成29年卒〕

岩手県高度救命
救急センター助教
藤澤

良介
〔平成29年卒〕

助教
高橋

真人
〔平成29年卒〕

専門研修医
兎玉

琢
〔令和2年卒〕

助教
瀬川

武紀
〔平成25年卒〕

教授
新田

浩幸
〔平成5年卒〕

助教
武田

大樹
〔平成20年卒〕

講師
井原

欣幸
〔平成10年卒〕

准教授
梅邑

晃
〔平成17年卒〕

臨床腫瘍学講座
特任教授
岩合

岳
〔平成7年卒〕

緩和医療学科
教授
木村

祐輔
〔平成6年卒〕

医療安全学講座
教授
肥田

圭介
〔平成元年卒〕

教授
佐々木

木章
〔昭和63年卒〕



助教
屋成 信吾
〔平成29年卒〕

助教
小山 亮太
〔平成27年卒〕

助教
木村 拓
〔平成29年卒〕

助教
天野 怜
〔平成26年卒〕

専門研修医
石井 勇吾
〔平成31年卒〕

大学院
嶋田 拓明
〔令和3年卒〕

岩手県高度救命
救急センター助教
佐々木 秀策
〔平成22年卒〕

助教
安藤 太郎
〔平成24年卒〕

准教授
鈴木 信
〔平成12年卒〕

講師
藤野 順子
〔平成11年卒〕

講師
馬場 誠朗
〔平成16年卒〕

講師
石田 和茂
〔平成17年卒〕

臨床腫瘍学講座
講師
遠藤 史隆
〔平成18年卒〕

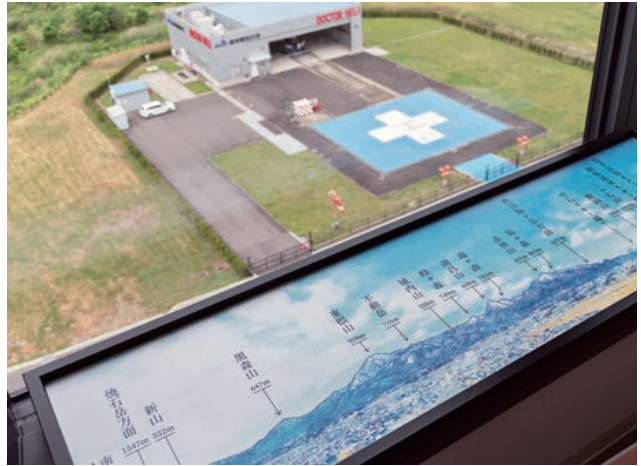
講師
八重樫 瑞典
〔平成21年卒〕

助教
佐々木 教之
〔平成21年卒〕

病棟風景



東10階緩和ケア病棟ラウンジ

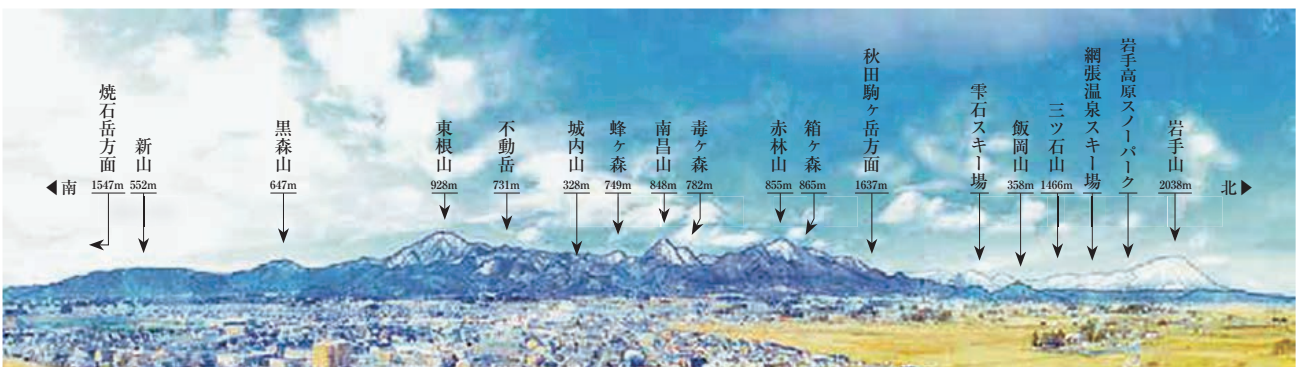


西8階一般入院病棟ラウンジ

■東側眺望サイン



■西側眺望サイン





チーム紹介

上部消化管チーム

下部消化管チーム

肝胆膵・内分泌代謝外科チーム

乳腺チーム

小児外科チーム

高度救命救急センター

《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

上部消化管チーム

STAFF: 馬場誠朗、二階春香、藤澤良介、高橋真人

附属病院 (矢巾)
食道・胃疾患
木曜
8時30分～17時
(矢巾病院)



上部消化管チームでは、食道癌・胃癌を中心に、食道・胃疾患の治療を担当しています。毎週木曜日の専門外来では、新患患者さんの診察をはじめ、治療後の定期フォローアップや外来化学療法を担当しております。外来化学療法室や放射線科と連携し、癌の集学的治療を行っております。手術予定患者様には入退院サポートセンターの多職種が介入し、治療の安全性や周術期医療の質の向上に努めております。矢巾病院での入院は、化学療法と手術治療を当科が中心となり消化管・肝臓内科や放射線科と連携して集学的な治療にあたっております。手術に際しては、定型的な手術に対してはより低侵襲な手術を追求しております。高齢者にも安全に定型的な根治手術を受けていただけるよう、リハビリテーションや栄養のサポートなどに関して周術期の取り組みを行い、術後の機能温存を重視した手術を心掛けております。大学病院特有の困難症例や高度進行癌に対する高難度手術に対しては、根治を目指してこれまでの経験や専門性を発揮して治療にあたっております。食道癌に対して胸腔鏡下手術を、胃癌に対しては腹腔鏡下手術に加えてロボット支援下胃切除術を行っております。それぞれの患者さんに適した治療をともに考え、化学療法、放射線療法、手術を組み合わせた集学的治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。胃癌と食道癌は日本臨床腫瘍グループ(JCOG)に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。治療に関する事はいつでもご相談をお受けいたしておりますので、是非お気軽にご連絡下さい。2025年の食道癌に対する胸腔鏡手術の割合は100%、胃癌・食道胃接合部癌に対する腹腔鏡手術(ロボット支援手術含む)の割合は81.0%でした。

2025年のニュース

- 1月▶がん合併 VTE Web Seminar を開催
- 2月▶岩手 Gastric Web Conference を開催
- 5月▶馬場誠朗 IBC ラジオ『健康で長生きするために』で「胃がんについて」を配信
Gastric Cancer Area Meeting を開催
- 6月▶高橋真人 第13回東北食道外科セミナーで「当院における頸部吻合の工夫」を発表
北東北低侵襲胃切除セミナー in IWATE を開催
胃癌 Web 講演会を開催
- 10月▶『胃癌治療の未来を拓く』を開催
- 11月▶食道癌 Update WEB エリアセミナーを開催
- 12月▶胃癌 Web 講演会 in 岩手を開催

2025年 診療・研究状況報告

● 上部チーム入院数：536名

● 上部チーム手術数：161名

● 食道癌新規入院数：36名

● 食道癌手術：6名

(胸腔鏡下・ロボット支援食道切除術：6例)

疾患	術式	症例数
食道癌	胸腔鏡下食道切除術	6例
他疾患	遊離空腸等	7例

《年次手術数推移》

	2023年	2024年	2025年
食道癌	13	5	6
胸腔鏡下	2	5	6
ロボット支援下	10	0	0

● 新規胃疾患入院数：153名

● 胃疾患手術数：138名

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	10例
	腹腔鏡下胃切除術	21例
	ロボット支援下胃切除術	27例
食道胃接合部癌	ロボット支援下噴門側胃切除術	6例
	胸腔鏡下食道切除術	3例
	開腹胃全摘術	1例
	開腹噴門側胃切除術	2例

《年次手術数推移》

	2023年	2024年	2025年
胃癌	67	63	70
GIST	8	15	11
計(悪性腫瘍切除数)	75	78	81

● 2025年研究報告

《教室内》

- ・切除不能・再発食道癌に対する biweekly-DCF 療法の安全性評価（データ集積中）
- ・食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング（症例集積中）
- ・血漿中遊離変異 DNA 定量による食道癌モニタリングシステムの開発（解析中）
- ・食道癌治療抵抗性と NFE2L2 遺伝子変異に関する検討（解析中）
- ・食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析（解析中）
- ・消化器癌の予後に関連する non-coding RNA FTX に関する検討（解析中）
- ・高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討（株ツムラとの共同臨床試験、データ集積中）
- ・血漿中遊離変異 DNA 定量による胃癌モニタリングによる転移・再発の検証（症例集積中）
- ・胃癌周術期のサルコペニアの検討（データ集積中）

《臨床試験》

- ・JCOG1109「臨床病期 IB/II/III 食道癌（T4 を除く）に対する術前 CF 療法 / 術前 DCF 療法 / 術前 CF-RT 療法の第 III 相比較試験」終了
- ・JCOG1301C「高度リンパ節転移を有する HER2 陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前 trastuzumab 併用化学療法の意義に関するランダム化第 II 相試験」症例追跡中
- ・JCOG1409「臨床病期 I/II/III 食道癌（T4 を除く）に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第 III 相試験」症例追跡中
- ・JCOG1507「病理学的 Stage II/III で“vulnerable”な 80 歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量した S-1 術後補助化学療法に関するランダム化比較第 III 相試験」症例追跡中
- ・JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第 III 相試験」症例追跡中
- ・JCOG1509A2「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第 III 相試験」の附随研究：全ゲノム解析に基づく局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性と安全性を評価するバイオマーカーの探索的研究 症例登録中
- ・JCOG1510「切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法と導入 Docetaxel+CDDP+5-FU 療法後の Conversion Surgery を比較するランダム化第 III 相試験」症例追跡中
- ・JCOG1704「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前 Docetaxel + Oxaliplatin + S-1 の第 II 相試験」症例解析中
- ・JCOG1711「漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第 III 相試験」症例追跡中
- ・JCOG1901「消化管・脾原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス+ランレオチド併用療法のランダム化第 III 相試験」症例解析中
- ・JCOG1904「Clinical-T1bN0M0 食道癌に対する総線量低減と予防照射の意義を検証するランダム化比較試験」症例登録中
- ・JCOG2013「臨床病期 I-IVA（T4 を除く）胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験」症例登録中
- ・JCOG2203「食道胃接合部腺癌に対する DOS or FLOT を用いた術前化学療法のランダム化第 II/III 相試験」症例登録中

- ・JCOG2204「大型 3 型・4 型胃癌に対する術前化学療法としての 5-FU + レボホリナート + オキサリプラチン + ドセタキセル（FLOT）療法とドセタキセル + オキサリプラチン + S-1（DOS）療法の有効性を探索するランダム化第 II 相試験」症例登録中
- ・JCOG2206「術前化学療法後に根治手術が行われ病理学的完全奏効とならなかった食道扁平上皮癌における術後無治療 / ニボルマブ療法 / S-1 療法のランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG2311「切除不能または再発食道癌に対するニボルマブ + イピリムマブ（Nivo + Ipi）療法と放射線治療 + Nivo + Ipi 療法を比較するランダム化第 II 相試験」症例登録中
- ・JCOG2316A「全ゲノム解析等実行計画に基づく、難治がん患者の組織と血液を用いた予後や治療効果、毒性に関するバイオマーカーの探索的研究」症例登録中
- ・JACCRO GC-11「術後補助化学療法中または終了後早期に再発した胃癌に対する CapeOX + ニボルマブ療法の第 II 相試験（FirSTAR 試験）」症例登録中

《治験》

- ・HER2 陽性胃癌の一次治療として Rilvegostomig とフッ化ピリミジン + トラスズマブ デルクステカンの併用療法をトラスズマブ + 化学療法 + ペムプロリズマブと比較するランダム化第 III 相試験（小野薬品工業株式会社）：症例登録中
- ・HER2 陰性で化学療法未治療の治癒切除不能な進行又は再発胃癌（食道胃接合部がんを含む）を有する被験者を対象とした ONO-4578、ニボルマブ、並びにフッ化ピリミジン系薬剤及びプラチナ系薬剤の化学療法（以下、化学療法）の併用療法の有効性及び安全性を、プラセボ、ニボルマブ及び化学療法の併用療法と比較する多施設共同第 II 相無作為化二重盲検比較試験（小野薬品工業株式会社）：症例追跡中
- ・MK-3475 を用いた治験で治験中又はフォローアップ中の患者を対象に、長期の安全性及び有効性を評価する多施設共同非盲検第 III 相試験（MSD 株式会社）：症例追跡中
- ・胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした術前・術後補助療法として MK-3475 及び化学療法（XP 又は FP）とプラセボ及び化学療法（XP 又は FP）を比較する二重盲検無作為化第 III 相試験（MSD 株式会社）：2025 年 4 月終了《科研費継続》
- ・「HER2 陽性胃癌における ctDNA-ERBB2 モニタリングの手法の確立」文部科学省科学研究費 若手研究（研究代表者 二階春香）
- ・「ctDNA モニタリングを用いた食道癌根治治療後サーベイランスの開発」文部科学省科学研究費 若手研究（研究代表者 藤澤良介）

● 今後の課題

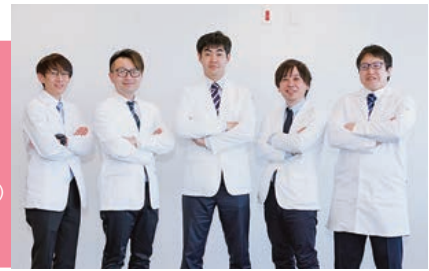
- ・切除不能進行食道癌症例に対する Salvage 手術, conversion 手術の増加。
- ・高齢者に対する食道切除術のさらなる低侵襲化の探求。
- ・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断・治療法の開発。
- ・切除不能進行胃癌症例に対する conversion 手術の増加。
- ・高度進行胃癌症例に対する腹腔鏡下胃切除の有用性の検証。
- ・胃癌化学療法に関する基礎的研究の推進。
- ・腹腔鏡下胃癌手術技術認定医の育成。
- ・胸腔鏡下食道癌手術技術認定医の育成。
- ・ロボット支援腹腔鏡下胃癌・食道癌手術プロクターの育成。

下部消化管チーム

STAFF:八重樫瑞典、佐々木教之
瀬川武紀

附属病院（矢巾）

術後外来：月曜8時30分～16時
新患外来（他院の紹介）：月・火曜9時～11時、
新患外来（院内の紹介）：月・火曜11時～14時
外来化学療法：月曜9時～16時、水曜・金曜9時～13時
ストーマ外来：千葉勸子（WOCN）、佐藤雅恵（WOCN）
月曜8時30分～16時、水曜8時30分～12時



2025年は八重樫・佐々木教之・瀬川武紀先生が専従スタッフとして、ローテーターを含めて6名の体制で日々の診療にあたりました。外来診療に関しましては、総数として5000人を超えました。その中でも2000件に迫る化学療法をこなせたことはチームとして病院に貢献できたものと考えております。外来を始めとするスタッフの皆様にご感謝申し上げます。

今年の全身麻酔下による手術は290例を超え、大腸癌の手術件数も例年通り約170例でした。

2025年の下部消化管グループの手術は、2024年に始めたことを安定化させる年であったと思います。腹腔鏡下骨盤内臓全摘術や他臓器合併切除を伴うような拡大手術は2チームで行い、大幅な手術時間の短縮が見込めるようになりました。2チームでは腹部操作と経肛門/会陰操作（Ta/Tp:transanal/transperineal）が必要になりますが、まだまだTa/Tp操作は難しく修練が必要と感じています。hinotoriによるロボット手術は少しずつ慣れてきており、2025年後半においてはロボット2台同時稼働での手術も行えるようになってきました。ロボット支援下による結腸悪性腫瘍手術も目標症例数に到達し、2026年においては幅広く手術ができるものと考えております。

化学療法に関してですが、この1-2年で大腸癌治療はまた大きく変わろうとしております。2023年にRAS遺伝子野生型の切除不能進行再発大腸癌に対して抗EGFR抗体薬併用のmFOLFOX6療法を1stラインに使用する有効性を証明した世界初の前向き試験（PARADIGM試験）が日本から発信されたことはまだ最近のことのように感じておりましたが、2024年後半に3rd line以降で「フルキンチニブ」が使用可能になるとともに2025年もいくつか新しい薬剤とレジメンが承認されました。KRAS G12C 遺伝子変異陽性例（全大腸癌の3%）に対してKRAS G12C変異タンパク質の選択的阻害薬である「ソトラシブ」とパニツムマブ（抗EGFR抗体）の併用療法が9月に承認され、予後が悪いとされるBRAFV600E変異陽性例の1st lineとして、「BRAF阻害剤であるエンコラフェニブ+セツキシマブ（抗EGFR抗体）+ mFOLFOX6療法」がBREAKWATER試験の結果を受け11月に承認され、さらにdMMR/MSI-Highを持つ切除不能進行大腸癌例に対し免疫チェックポイント阻害薬である抗PD-1抗体薬のニボルマブと抗CTLA-4抗体薬のイピリムマブとの併用療法が1st Lineで使用することにより大きくOSを延長させることがCheckMate 8HW試験で示されました。希少な遺伝子変異ではありますが今後切除不能な大腸癌患者さんにとっては有益な治療法が追加されたものと考えております。今年は大腸癌治療ガイドライン2026年版として改訂される予定であり、注目すべき年だと思っております。近年、治療計画に難渋する進行大腸癌が増えているとともに、新しいレジメンや重粒子線といった先進医療も進んできております。いつも多くのご紹介をいただいております関連病院及びOBの先生方におかれましては、今後とも変わらぬご厚情を賜りますとともに、お気軽にご相談いただけましたら幸いに存じます。

最後に2025年は手術に、外来に、化学療法に、これまでと違った多くの経験をさせていただき、周りの先生方や医療スタッフに支えられました。大腸グループ一同、感謝申し上げます。2026年は病院機能が矢巾に集約され、多種多様な対応が必要となりますが皆で乗り越えていけたらと思います。関連先の先生方におかれましては、引き続きご指導、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2025年のニュース

- 1月▶腹腔鏡下大腸手術 ハンズオン（県民会館）
- 5月▶瀬川先生 da Vinci certificate 取得（大腸）
- 6月▶腹腔鏡下骨盤内臓全摘術 2チーム制導入
- 8月▶ロボット支援下手術 2台同時稼働開始
- 12月▶ロボット支援結腸悪性手術保険診療のための症例集積終了

2025年 診療・研究状況報告

●手術数(全麻): 296例

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌(例)	開腹	11
	腹腔鏡	78
	ロボット	10
直腸癌(例)	開腹	5
	腹腔鏡	26
	ロボット	26
	経肛門	3
大腸癌局所再発(例)	腹腔鏡	3
	ロボット	1
拡大手術: 骨盤内臓全摘 (2臓器以上合併切除)	開腹	0
	腹腔鏡	2
	ロボット	1
拡大手術: 他臓器合併切除 (膀胱、尿管、精嚢、子宮等: 1臓器)	開腹	1
	腹腔鏡	2
	ロボット	0
多発大腸癌	腹腔鏡	5
Crohn病(例) (癌を含む)	開腹	0
	腹腔鏡	6
潰瘍性大腸炎/FAP(例)	開腹	0
	腹腔鏡	4
肛門腫瘍 (SCC、メラノーマ、NET等: 希少がん含む)	腹腔鏡	2
	ロボット	1
	経肛門	2
大腸憩室	開腹	1
	腹腔鏡	10
他全麻手術(ストーマ造設・ 閉鎖、良性)		69
他科手術応援(婦人科、泌尿 器科等)		27

●外来診療数(延総数): 5360件

・外来診療(新患、Follow等) 3456件(288件/月)

・化学療法(外来、入院含) 1904件(159件/月)

●2025年研究報告

《教室内》

- 「Impact of sensitive circulating tumor DNA monitoring on CT scan intervals during postoperative colorectal cancer surveillance」: Ann Surg Open 掲載(佐々木智子)
- 「StageIV大腸癌の転移巣別 ctDNA 検出に関する研究」: 論文執筆中(大塚観喜)
- 「ctDNAを用いた大腸癌転移巣切除適応症例層別化に関する研究」: 症例解析中(大学院3年嶋田拓明)
- 「希少がんにおけるデジタルPCRを用いた ctDNA モニタリング」: 症例集積中(瀬川武紀)

5. 「アイトラッキング技術を用いた腹腔鏡手術の教育に関する研究」: 研究準備中

6. 「腹腔鏡下直腸癌における Ileostomy による outlet obstruction のリスク因子の検討」: 症例収集及び解析終了(八重樫瑞典)

《他施設共同》

- JCOG2014 試験「標準化学療法に不応・不耐な切除不能進行再発大腸癌患者を対象とした Trifluridine/Tipiracil 単剤療法と Bi-weekly Trifluridine/Tipiracil + Bevacizumab 併用療法のランダム化比較第 III 相試験(ROBiTS)」: 症例集積中
- 「内視鏡外科手術動画のデータベース構築」: 症例の追加集積中
- 「多領域の術式に応用可能な AI 手術技能評価システムの研究」追加集積中
- 多施設共同研究「切除不能大腸癌に対するトリフルリジン・チピラシル+ベバシズマブの従来法と隔週法の実用的ランダム化第 III 相試験(PRABITAS)」: 症例登録終了
- 初回切除可能大腸癌肝転移を対象とした術前後化学療法+手術 vs 手術先行+術後補助化学療法の治療効果の検討: 多施設共同ランダム化比較試験(PERSEUS trial) 症例集積中
- 「T-CORE2401: RAS/BRAF 野生型切除不能右側結腸癌に対する一次治療としての mFOLFOX6 + Cetuximab(q2w) 療法と mFOLFOX6 + Bevacizumab 療法の有効性と安全性を比較するランダム化前向き第 II 相試験」: 症例集積中
- 「切除不能進行・再発大腸癌に対するフルキンチニブ単剤療法のバイオマーカー探索を含めた観察
- 研究(FruBLOOM 試験)」: 症例集積中

●今後の課題

▶臨床教育面

- ・ロボット支援下結腸癌手術の取り組みと後進の指導
- ・合併症予防と対策
- ・内視鏡外科学会技術認定医取得に向けて
- ・働き方と外科医の QOL の維持に向けて

▶臨床教育面

- ・研究計画書作成への指導
- ・大学院生への研究・学位指導
- ・学会発表や論文作成への取り組み方

肝胆膵 内分泌代謝外科チーム

STAFF: 新田浩幸、梅邑 晃、井原欣幸
武田大樹、安藤太郎、天野 怜
川島到真、木村 拓、菊地晃司

附属病院 (矢巾)

火曜 / 10時30分～12時30分
(新田教授、梅邑准教授、川島助教)
木曜 / 8時30分～12時30分
(井原講師、菊地助教)
金曜 / 8時30分～12時30分
(武田助教、安藤助教)



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、腹腔鏡・ロボット手術、放射線化学療法、肝移植（生体・脳死）など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療しております。特に、腹腔鏡・ロボットによる肝切除は本邦でも症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。ロボット支援下手術は2023年からdaVinciと平行してhinotoriによる手術を開始しており、遠隔手術など今後の発展に寄与できればと考えています。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。

胆道癌や膵癌に対しては術前放射線化学療法および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。膵癌に対しては審査腹腔鏡を行い、適切な治療方針の決定に役立てております。

2025年 診療・研究状況報告

●手術数：264例

●腹腔鏡下およびロボット支援下手術の割合

肝切除（肝門部胆管癌、胆嚢癌を除く）91%（腹腔鏡22%、ロボット69%） 膵切除 25%

●2025年手術症例

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	39例
転移性肝癌	44例
肝内胆管癌	5例
胆管癌	31例（肝門部11例、肝外20例）
胆嚢癌	7例
乳頭部癌	3例
膵癌（IPMC含む）	64例
十二指腸癌	5例

▶良性

生体肝移植ドナー、IPMN、胆嚢結石、肝嚢胞など	48例
--------------------------	-----

▶その他

副腎腫瘍、後腹膜腫瘍、小腸腫瘍など	18例
-------------------	-----

《術式別》

脳死肝移植	3例
生体肝移植	5例
肝切除	93例（腹腔鏡21、ロボット64）
肝切除＋胆管切除	11例（ロボット2）
PpPD、SSPPD	49例（ロボット1）
膵体尾部切除	21例（腹腔鏡9、ロボット9）
膵全摘	6例

審査腹腔鏡	17例
胆石、胆道良性疾患手術	22例（ロボット1）
肝嚢胞天蓋切除	4例
副腎、脾臓、後腹膜腫瘍摘出	6例
消化管バイパス	9例
その他	18例

《年次手術数推移》

	2023年	2024年	2025年
肝細胞癌	37	27	39
肝内胆管癌	5	8	5
転移性肝癌	35	29	44
胆管癌	40	29	31
胆嚢癌	4	11	7
乳頭部癌	5	3	3
膵癌	89	66	64
脳死肝移植	0	0	3
生体肝移植	2	5	5

●2025年研究報告

- 1) 腹腔鏡下ドナー肝切除術の手術手技の工夫と手術成績を検査し報告した。
- 2) 腹腔鏡下肝切除術におけるスコピストのコツと重要性について報告した。
- 3) 膵癌に対する審査腹腔鏡が切除可能またはボーダーラインで有用であることを報告した。
- 4) ロボット・腹腔鏡による肝切除における4つのClamp-Crushing法での肝実質切離法を報告した。

診療では、内分泌代謝疾患(高度肥満症、副腎、甲状腺)、一般外科・消化器外科疾患(脾臓、ヘルニア)に対する内視鏡外科手術を担当しています。主な研究課題は、2型糖尿病、高血圧症、MASLD/MASH、閉塞性睡眠時無呼吸症候群などの肥満関連健康障害に対する減量・代謝改善手術の効果と改善機序の解明です。術式は、reduced port surgeryを中心とした腹腔鏡下手術を選択しています。

2025年のニュース

- 3月▶学位取得(棚橋洋太)
- 8月▶国民健康保険中央会表彰(佐々木章)
岩手県国民健康保険団体連合会理事長表彰(佐々木章)

2025年 診療・研究状況報告

- 入院数:188例
- 手術数:136例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	15
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	19
	開腹副腎摘出術(両側褐色細胞腫)	1
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺片葉切除術	3
	内視鏡下甲状腺垂全摘術	1
	頸部切開甲状腺全摘術	6
	頸部切開甲状腺片葉切除術	6
副甲状腺疾患	頸部切開副甲状腺切除術	5
腹壁癒痕ヘルニア	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術(eTEP)	12
	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術(IPOM)	14
	横隔膜ヘルニア修復術	1
鼠経ヘルニア	腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術	46
	開創鼠経ヘルニア修復術	7

《年次手術数推移》

	2023年	2024年	2025年
高度肥満症	23	16	15
鼠経ヘルニア	56	54	53

● 2025年研究報告

《教室内》

- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化(Surg Today 2026 掲載)
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除施行患者における後腹膜脂肪量・腎容積と腎機能の関連(Surg Obes Relat Dis 2025 掲載)
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術前後の心外膜脂肪と心機能の関連(Obes Surg 2025 掲載)
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の経裂孔胃管脱出が術

後減量とGERDに及ぼす影響(World J Surg 2025 掲載)
 ・大腿輪から脱出した巨大後腹膜脂肪腫の1例(Int J Surg Case Rep 2025 掲載)

《獲得研究費》

- ・肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対する外科治療の改善機序と新規バイオマーカーの検索(2023-2025年度科研費基盤研究C):データ解析中
- ・内臓脂肪細胞由来の炎症細胞プロファイルと脂質代謝からみた肝線維化メカニズムの探索(2025-2027年度科研費基盤研究C):症例集積中
- ・肥満外科手術後の腎機能の変化と肥満健康関連障害改善の機序の解明(2024-2026年度科研費若手研究):症例集積・データ解析中
- ・高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術前後における尿中メタボローム解析による慢性腎臓病のサロゲートマーカー検索と肥満関連健康障害との関連について(2025年度中外製薬研究活動支援):データ解析中

乳腺チーム

STAFF: 石田和茂、武田涼子、松井雄介、天野総
橋元麻生、對馬真緒

附属病院（矢巾）

火曜・水曜 8時30分～17時
（専門外来）



はじめに、2025年も多くの先生に支えられ無事に乳腺診療を行うことができました。乳腺専門外来の診療応援に来て下さった松井雄介先生、對馬真緒先生、2名の不在時にご負担をおかけしました岩手県立二戸病院、岩手県立千厩病院、岩手県立江刺病院、岩手県立宮古病院の先生に感謝申し上げます。そして、乳腺専門医が少ない岩手県において、各地域で乳腺診療を実践して下さいました同門の先生にも感謝申し上げます。

近年の乳腺チームのタスクの一つに勧誘があります。乳癌学会の新規会員は女性比率が高くなってきており、「外科をやりたいがオンとオフはしっかり区別したい。そういう意味で乳腺外科はちょうど良い。」という意見を学会で多く聞くようになってきました。学生や研修医の段階から自身のライフワークバランスを明確にされているのだと驚いたと同時に、興味ややりがいで診療科を選ぶものだと思っていた自分はすっかり時代遅れになったのだと痛感させられた次第です。そして、これからの若手医師は学術的興味とともにプライベートの充実を乳腺外科領域に期待していることを理解して勧誘しなければ、地方大学の乳腺外科が他科や首都圏病院より魅力的に映る事はないのだろうと自覚するに至っております。有難いことに当院の臨床実習学生には例年乳腺外科に興味を持つ方が数名おられますが、そのほとんどが女性であることは、岩手医大も例外ではないことを物語っております。他方、乳腺チームに勧誘できても次の問題があります。「奨学金利用者の地域医療従事義務」と「乳腺外科専門医カリキュラム」の同時履行が困難な現状です。乳腺外科専門医カリキュラムでは乳腺専門医が常勤する病院でカリキュラムを履行する必要がありますが、奨学金利用者に課される地域診療病院には乳腺専門医がおりません。結果として専門医取得は後回しになり、次第にモチベーションの低下による専門医不取得も懸念される状態に陥ります。この問題を解決するためには、①奨学金利用者地域医療従事を専門医取得後に延期できるような制度改革、②乳腺専門医を増やし地域診療病院に在籍する状況を作っていく、などの取り組みが必要となります。いずれも短期的には難しい課題であり、若手医師が日々不安を抱えながら修練を積む現状に対して、岩手医大、自治体、学会、専門医機構が問題意識を持って歩み寄ることはできないのかと少しだけ腹立たしい思いを抱えております。私も微力ではありますが、今後様々な場で問題提起の声を上げ続けていく所存です。

2025年の臨床トピックスは、薬物療法で Datopotamab deruxtecan（商品名：ダトロウエイ）が発売されました。ダトロウエイは進行再発ホルモン受容体陽性乳癌に対する注射薬ですが、コンパニオン診断が不要なため使用のハードルが低く、是非とも各施設の患者さんにご検討いただきたいと考えます。唾液や涙液に移行しやすいため口腔内症状や眼症状が特徴的であり、歯科や眼科と連携しながらご使用下さい。

最後に、2026年3月7日に仙台で第23回日本乳癌学会東北地方会が開催され、岩手県立中央病院 乳腺・内分泌外科 宇佐美伸先生とともに当科 石田和茂が会長を務めさせていただきました。テーマを「東北地方における高齢者乳癌化学療法の現状」とし、東北40施設から貴重な高齢者乳癌化学療法の実臨床データを収集・発表することができました。本研究にご協力いただいた関連施設の先生に改めて御礼申し上げます。集まったデータは患者情報を追加・解析し、安全に化学療法を実施するための高齢者スコアリングを東北から発信したいと考えております。引き続きご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。また、例年1枠の若手セッションにも多数の応募をいただき、最終的に6枠を設けるといふ若返りを期待させる会でもあり、参加者も近年最多の333人を記録し盛会のうちに幕を閉じることが出来ました。当日のご参加ならびに一般演題でご発表いただいた関連病院の先生にもこの場をお借りして感謝申し上げます。

今後も医師の確保が課題となる岩手県において、そのなかから更に乳腺外科専門医を増やしていくという事は大変難しいタスクであります。自分の足元を華やかにするようなことはせず、5年後、10年後に後輩達が公私のバランスを取りながら診療活動を行えるような土壌を作るべく精進して参ります。今後ともご指導ならびにご鞭撻、地域乳腺診療支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2025年 診療・研究状況報告

● 2025年の活動

《著書》

- ・石田和茂, ここが知りたい! 乳癌診療現場のギモン, CQ 75 late line 治療はいつまで継続していますか?, 文光堂, 2025, pp.200-201.

《講演》

- ・石田和茂, 第1回岩手県がんセミナー, がん治療におけるペグフィルグラスチムの意義 ~ Relative dose intensity の維持と予後改善効果~
- ・石田和茂, 岩手乳がん講演会, 何度も言うよ ...CDK4/6 阻害薬 - 実臨床データを添えて -
- ・石田和茂, アイリスの会 30周年記念講演会, 乳癌治療と最新トピックス
- ・石田和茂, 第1回 岩手県病院薬剤師会 がん・緩和セミナー, 乳がん治療とカビバセルチブ ~ 薬薬医連携を意識して~
- ・石田和茂, 青森県乳癌講演会 ~ BConnect ~, 薬薬医連携と地域連携 - 標準治療を届けるための取り組み -
- ・石田和茂, 岩手三陸乳がん講演会, - 新規知見から学ぶ - CDK4/6 阻害薬のアップデート
- ・石田和茂, チーム医療・薬薬連携講演会, がん治療における薬薬医連携の課題と試験的取り組み
- ・石田和茂, Gilead Breast Cancer Seminar in 岩手 ~ トロデルビの適正使用を考える~, 当院におけるトロデルビの使用経験
- ・石田和茂, JCOG-NEXUS, エンハーツから考える臨床研究
- ・天野総, Breast Cancer Web Seminar, 有害事象対策~ 口内炎と角膜炎~
- ・天野総, 中外 e セミナー on Breast Cancer, 当科におけるアテゾリズマブの使用状況
- ・天野総, 第一三共オンコロジー領域担当者社内勉強会, 進行・再発乳癌の”私的”方針
- ・天野総, 第13回病薬連携研修会, 当院における乳癌新規薬剤の使用経験と現状

《学会発表》

- ・石田和茂, 第23回日本乳癌学会東北地方会, 岩手県の高齢者乳癌に対する化学療法の実施状況, シンポジウム, 仙台
- ・天野総, 第125回日本外科学会定期学術集会, 肥満を伴う乳癌での体重減少による再発リスク低下に関する検討, ポスターセッション, 仙台
- ・天野総, 第33回日本乳癌学会学術総会, 肥満とOncotype DX 検査に関する検討, ポスターセッション, 東京
- ・天野総, 第23回日本乳癌学会東北地方会, 難治性癌性胸水にたいして皮下埋め込み式胸腔ポートが有用だった一例, 一般演題, 仙台

● 手術件数: 197件(うち両側乳癌手術5件)

《内訳》

術式	件数
乳房部分切除術	60
乳房全切除術	124
リスク低減乳房切除術	9
乳房再建	10
腫瘍摘出術	4
その他	4

● 2025年研究報告

《臨床試験》

1. JCOG2110 試験「オリゴ転移を有する進行乳癌に対する根治的局所療法追加の意義を検証するランダム化比較試験」
2. JCOG1806 試験「薬物療法により臨床的完全奏効が得られた HER2 陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証試験」
3. HALLOW 試験「化学療法歴のある HER2 低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツズマブ・デルクスステカンの多機関共同前向き観察研究」
4. EMBER-4 試験「2-5年間の術後内分泌療法による前治療歴を有する再発高リスクの ER+, HER2- の早期乳癌患者を対象に、術後薬物療法として imlunestrant と標準的な術後内分泌療法を比較する無作為化非盲検第 III 相試験 (J2J-MC-JZLH)」
5. NSABP B-51 試験「ネオアジュバント化学療法前の腋窩リンパ節陽性がネオアジュバント化学療法後に病理学的陰性に転じた患者を対象として、乳房切除後胸壁及び所属リンパ節の外部放射線治療、並びに腫瘍切除後所属リンパ節放射線治療を評価する第 III 相無作為化臨床試験」

《チーム研究課題》

- ・肥満関連乳癌術後再発リスクバイオマーカーの探索, 石田和茂
- ・肥満を伴うホルモン受容体陽性乳癌における再発リスクバイオマーカーの検討, 天野総

● 今後の課題

- ・論文執筆
- ・チーム研究の実践
- ・乳癌検診の啓蒙
- ・地域乳腺診療の連携協力
- ・若手医師の乳腺専門医取得
- ・乳腺専門医を目指す若手外科医の勧誘

小児外科チーム

STAFF: 鈴木信、藤野順子、小山亮太
【手術支援: 有末篤弘(八戸赤十字病院)、早野恵(盛岡市立病院)】

一般小児外科外来
 月曜午後、水曜全日
 金曜午前、土曜午前
 専門外来
 第3水曜午後
 小児ストーマ・スキンケア外来



2025年の小児外科チームの診療体制に変更はなく、小山・藤野・鈴木の3名体制での診療で、八戸赤十字病院の有末篤弘先生に第1・第4土曜日、盛岡市立病院の早野恵先生に木曜日月2回、小児外科手術研修を兼ねてお手伝いをいただきました。

外来診療は従来の水曜日全日を中心とし、患者さまの利便性を考慮し月曜日午後・金曜日午前・土曜日午前を診療日としております。手術日は従来通り木曜日全日および第1・4土曜日午前で、小児における外科診療の最後の砦として救急患児に24時間365日常に対応できる体制をとっております。対象疾患は、新生児から16歳未満の呼吸器（気管・肺・胸郭異常など）・消化器（食道から肛門までの消化管および肝胆膵）・その他腹部臓器（副腎・脾臓など）・皮膚軟部組織（皮膚・皮下組織・筋肉など）・泌尿生殖器（腎臓・尿管・膀胱・外陰部など）の疾患で、AYA世代の移行期医療にも対応しています。

手術症例は少子化の影響があり年間出生数が5000人を下回った岩手県では特に顕著に表れてきているとともに、各種感染症の季節にかかわらない蔓延の影響が強くなり、手術総数は年々減少傾向が見受けられます。2025年の新生児手術数は5例（2023年は17例、2024年は5例）と減少したままでした。手術全体としては、鼠径ヘルニア類縁疾患や全麻下検査を除く手術の45%（34例）に内視鏡手術を行っております。

教育・研究に関しては、新たな小児外科医の育成を目標に、臨床実習等の卒前教育での積極的なアプローチを行っており、興味を抱く学生を多く認めるようになっており、積極的に学会での学生発表の機会を与えることで更に興味を抱くようにするといった、多くの種を蒔いています。今後芽が出てくれるようにサポートを継続的に続けていきたいと考えております。また、これまで行ってきた小児腫瘍の発生機序に関する分子生物学的研究や低侵襲手術に関する臨床的研究、食道インピーダンス検査および漢方治療に関する研究に加え、新たに小児に対する肥満症治療に関する研究も進めており、若手の為の研究シーズを蓄えて行きたいと考えております。

これまでと変わらず、すべての患者さまとご家族に信頼される国際水準の質の高い小児外科診療を提供できるよう、日々診療、研究、教育に励んでおります。症例等のご相談がありましたら常に対応可能ですのでご連絡頂ければと思います。今後とも関連の先生方には尚一層のご指導、ご鞭撻、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

今後の予定

- 第63回日本小児放射線学会学術集会
 ▶ 2027年6月25日(金)～26日(土) キョクシアアイーナ(いわて県民情報交流センター)

2025年 診療・研究状況報告

- 総手術数：158件（うち内視鏡手術34件）
- 入院数：158名（うち他科併診44名）

《手術症例内訳》 重複あり

疾患群	症例数
新生児疾患	5
悪性腫瘍（生検を含む）	4
鼠径ヘルニア類縁疾患	51
消化器・肝胆膵疾患	33

疾患群	症例数
呼吸器疾患	18
泌尿生殖器疾患	23
全麻下検査	5
その他	32

《年次手術数推移》

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
新生児	23	23	24	17	5	5
非新生児	182	202	154	152	148	153
計	205	225	178	169	153	158

● 2025年研究報告

- ・ 日本小児がん研究グループ (JCCG) 関連臨床試験参画
日本神経芽腫研究グループ (JNBSG)

日本小児肝臓スタディグループ (JPLT)

日本ウィルス腫瘍スタディグループ (JWiTS)

- ・ 学会主導研究「ゲノムワイド関連解析による膀胱尿管逆流発症関連遺伝子の探索」参画
- ・ 科学研究費助成 基盤研究 (C) 「小児肥満症における新規肥満関連健康障害リスク評価システムの構築」
研究代表者 鈴木 信

高度救命救急センター 《 救急・災害・総合医学講座 》
救急医学分野

STAFF: 小鹿雅博・石田馨・佐々木秀策・徐光仁

専門外来

24時間体制



高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話 (019-651-5111) から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

2025年 診療・研究状況報告

- 入院数 : 81 例
- 手術数 : 34 例

《内訳》

疾患 (内因性)	手術	非手術
腹腔内感染症	14	24
虚血性疾患	9	14
出血性疾患	0	9
その他	7	10

疾患 (外因性)	手術	非手術
管腔臓器損傷	2	0
実質臓器損傷	0	14
その他	2	10

◆入院患者分類

疾患	例数	
顔面・頸部	1	
甲状腺・上皮小体	良性	13
	悪性	12
乳腺	良性	4
	悪性	526
食道	良性	2
	悪性	197
胃・十二指腸	良性	5
	悪性	209
大腸・肛門	良性	34
	悪性	997
肝・胆・膵・脾	良性	125
	悪性	1091
腸閉塞	5	26
虫垂炎	5	9
ヘルニア・腹壁・腹膜	5	82
副腎	5	19
病的肥満	5	46
小児	5	127
その他	5	149
入院者合計		3674

◆手術件数

	件数
全身麻酔数	1019
局所麻酔数	83
その他	2
全手術数	1104

◆関連病院手術件数

	全手術数	全身麻酔手術数	急患手術数	腹腔鏡手術数	甲状腺癌	乳癌	肺癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1331	1014	74	568	7	206	0	11	53	36	21	211
盛岡市立病院	631	584	46	436	2	2	0	0	11	6	12	75
盛岡赤十字病院	471	400	45	346	9	20	0	0	10	3	0	74
八戸赤十字病院	453	411	54	160	5	33	0	0	31	3	0	110
能代厚生医療センター	411	321	59	236	2	17	0	0	30	15	2	50
北上済生会病院	380	347	15	212	2	61	0	0	9	1	0	37
県立宮古病院	360	330	34	215	0	41	0	0	12	0	0	81
県立二戸病院	279	255	16	127	0	33	0	0	13	0	0	63
県立久慈病院	226	197	23	128	1	16	0	0	7	1	0	53
県立釜石病院	173	149	9	107	1	9	0	0	11	0	0	40
かつの厚生病院	170	136	20	97	0	11	0	0	10	1	0	34
県立千厩病院	135	114	3	89	0	14	0	0	4	0	0	19
県立江刺病院	5	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

◆関連病院発表業績件数

	英文	和文	国際学会	全国学会	全国研究会	地方会
函館五稜郭病院	2	1	0	3	1	2
盛岡市立病院	0	0	0	5	0	1
盛岡赤十字病院	0	4	0	8	0	0
八戸赤十字病院	1	1	0	1	0	2
能代厚生医療センター	0	0	0	5	0	2
北上済生会病院	0	0	0	2	0	1
県立宮古病院	0	0	0	0	0	0
県立二戸病院	1	0	0	6	0	2
県立久慈病院	1	2	0	10	0	5
県立釜石病院	0	0	0	1	0	1
かつの厚生病院	0	1	0	1	0	0
県立千厩病院	0	0	0	0	0	1
県立江刺病院	0	0	0	1	0	0

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2026. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2026. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2026. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2026. 12
指定	岩手県立中部病院	～ 2026. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2026. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2026. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2026. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立釜石病院	～ 2026. 12
関連	岩手県立千厩病院	～ 2026. 12
関連	能代厚生医療センター	～ 2026. 12
関連	八戸赤十字病院	～ 2026. 12
関連	かづの厚生病院	～ 2026. 12
関連	岩手県立江刺病院	～ 2026. 12
関連	北上済生会病院	～ 2026. 12

◆ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2027
指定	函館五稜郭病院	～ 2026
指定	盛岡赤十字病院	～ 2027

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立釜石病院	～ 2027
指定	岩手県立中部病院	～ 2027
指定	盛岡市立病院	～ 2028

外科学講座

児玉 琢



出身大学：秋田大学医学部 大学卒業年：2020年

出身地：秋田県 座右の銘：医は仁術

岩手医科大学外科に入った理由：

外科専門医プログラムを終了する段階でどこか医局に入らないとまともな医者になれない気がしていました。そんな時手術動画で新田浩幸教授の肝切除の動画を拝見したとき、その華麗な手技に魅了され能代厚生医療センターに見学に行きました。手術手技だけでなく素晴らしい人柄にも触れ岩手医科大学外科学講座の先生方から指導を仰ぎたいと思い佐々木章教授との面談させていただき入局する運びとなりました。現在多くの先生方から厳しくも愛のある指導を受け日々の成長を感じています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

厚生労働大臣感謝状を賜って

新田 浩幸

このたび、移植医療対策推進功労者に対する厚生労働大臣感謝状という大変栄誉ある表彰を賜り、誠にありがとうございます。身に余る光栄であり、心より感謝申し上げます。

本受賞は決して私個人の力によるものではなく、本感謝状が、年齢50歳以上で、臓器移植対策の推進に資する啓発活動に10年以上従事し、医療の普及・向上および研究の分野において功績のあった者を対象とするものであることから、日頃より移植医療に携わる関係スタッフを代表して頂戴したものと受け止めております。

今後も今回の受賞を励みとし、初心を忘れることなく、岩手県に

おける肝移植医療のさらなる発展に貢献できますよう、一層努力してまいりたいと存じます。



令和7年度 へき地医療貢献者表彰を受賞して

佐藤 一 (岩手県立宮古病院)

このたびの表彰にあたり、巖刀会の先生方からも多くのお祝いのお言葉を頂戴し、誠にありがとうございました。自分では特に大きな仕事をしてきたという自覚はありませんでしたが、これまでご指導いただいた先生方に、わずかでも恩返しのできたのではないかと安堵しております。

長くへき地医療に携わってきたことを評価していただきましたが、地域の病院で様々な役割を担いながら診療を続けてこられた外科の先輩方の存在は、私にとって常に大きな支えでした。そのような医師を育て、地域へ送り出し続けてこられた佐々木章教授をはじめ、岩手医科大学外科学講座の先生方のご尽力があってこそ、私自身もへき地医療に長く貢献できる機会を得られたのだと、あらためて感謝申し上げます。

外科医を志したのは、遠藤秀彦先生、伊藤達朗先生といった自治医大の先輩外科医の地域での働き方に大きな影響を受けたことがきっかけでした。同門に加えていただいから、当時の斎藤和好教授、日下純男先生を

はじめ、多くの教室・同門の先生方から多大なご指導とご支援を賜りました。安代町の田山診療所や済生会岩泉病院など、関連病院ではない施設での勤務においても、そのご支援は変わることなく続けて頂きました。後期研修を含めた最初の11年間の義務年限のうち、外科医として集中的に修練を積めた期間は僅か2年と長くはありませんでしたが、遅い歩みながらも医師として、外科医として成長できた貴重な時間であったと感じています。その中で、地域医療に尽力される多くの外科医の先輩方に出会えたことも、その後の医師生活を支える財産となりました。

2001年の義務年限終了後は、県立千厩病院に配属され、その後、沿岸や県北地域の県立病院で勤務してまいりました。赴任当初、千厩病院には総合病院として多くの診療科が揃っていましたが、平成17年頃の新臨床研修制度開始以降、外科以外の多くの診療科で医師引き揚げが進み、医師数も半数以下となりました。外科診療に加え、不在診療科の役割も担いながら地域医療を支えることが

日常となりました。さらに、このころからNST、褥瘡、感染対策、緩和ケア、医療安全などチーム医療の業務も増え、大学医局の先生方のご指導を受けながら、関連病院の外科医師がより幅広い分野に関わるようになっていきました。私自身も、外科の診療だけにとらわれず、地域や病院に必要とされる役割を担うことの大切さを学びました。その積み重ねが、同門の医師が多くの地域で病院運営の中核を担っている現在につながっているのだと感じています。この大変な時期にも、外科の医局からは継続して大きな支援をいただき、大きな支えとなっております。地域、へき地の医療に長く貢献できたのも外科医となって巖刀会に入れて頂いたことが大きな利点であったと改めて思います。地域医療を志す若い医師、医学生にこの経験を伝えて、外科医を一人でも多く育てていくことも使命のひとつと考えております。

2019年からは県立病院の院長を拝命し、最初の3年間は岩手県立大槌病院で地域包括ケア病床を中心とした病院運営に携わりました。後半の2年間は新型コロナウイルス感染症への対応に追われ、前例のない課題にも直面しましたが、行政や医師会と連携した地域の検査体制構築やワクチン接種の推進などはやりがいのある業務でした。

次の3年間は三度目の県立千厩病院に院長として勤務しました。以前は、その時々での診療体制の維持、継続

を最優先として多忙な臨床業務に没頭していましたが、院長としては将来を見据えた病院運営や医師・職員確保といった課題にも向き合う必要があり、自身の力だけでは解決できない問題の多さ、そして地域医療における行政や政治との連携の重要性を強く実感しました。佐々木章教授や多くの先輩方のご助言に勇気づけられて何とか役割を果たすことができたと思います。

令和7年春からは岩手県立宮古病院に赴任し、広大な医療圏と多くの住民の健康を支える責任の重さを日々感じながら業務に勤しんでおります。今回の表彰を励みに、定年までの残された年月も研鑽を重ね、微力ながら地域医療に貢献していく所存です。今後ともご助力とご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



令和7年度 岩手県営医療貢献賞を受賞して

葛西 敏史 (岩手県立軽米病院)

このたび、軽米病院は「令和7年度 岩手県営医療貢献賞」を受賞させていただいたことを報告いたします。

この賞は、古くは岩手県知事の「中村賞」の流れをくみ、様々な観点から岩手の地域医療に貢献した病院を表彰するものですが、私一人で成し遂げたわけではなく、少ない人員の中で病棟と外来を一元化するなどスタッフと協力して業務改善を行いました。また、大学や県内の病院はもちろん、青森県南の医療機関・施設などをつぶさに訪問し、顔の見える関係を構築した結果、入院患者も増加し、経営改善に寄与することができました。これも、院長職について一番最初に佐々木教授を訪問した際に、「きちんと訪問する大事さ」を諭されたことに端を発します。本当にありがとうございました。

今後も当院の役割を認識し、職員一丸となって職務を遂行していく所存ですので、軽米病院に対する皆様のひきつづき応援、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。このような報告の機会を与えていただき、ありがとうございました。



第18回地域医療貢献奨励賞・ 岩手県保険医療功労者表彰を受賞して

吉田 徹 (岩手県済生会岩泉病院)

この度、第18回地域医療貢献奨励賞ならびに岩手県保険医療功労者表彰を受賞させていただきました。岩手県内外には地域医療に多大な貢献をされている先生方が多数いらっしゃる中で、選出いただき大変光栄に思っております。これまで指導してくださった先輩方や、一緒に仕事させて頂いたスタッフと、長年私を支えてくれた家族と共にこの賞を頂いたと思っています。本当にありがとうございました。

私は1984年に自治医科大学7期生として卒業して岩手県に戻りました。県立宮古病院で3年間の初期研修を行い、以後41年間県立病院職員として勤務させていただきました。この間、安代診療所へ3年間の出向や大学へ2年間の内地留学(病理学教室で学位取得)もありましたが、28年間は三陸沿岸の4つの県立病院で働きました。2012年に院長職を拝命してからは、医師不足で悩む地域を守るために医師確保に奔走しながら病院マネジメントの勉強と地域医療の実践に携わりましたが、それぞれの地域で新しい出会いがあり、学ぶことも多く、あっという間に定年退職の年を迎えたというのが正直な感

想です。これまで東日本大震災の経験も含めて辛い事もありましたが、常に職場の仲間や地域の方々に助けられて本日までの職務を全うすることができたと思っております。

この4月から済生会岩泉病院の院長として就職しました。県立病院での勤務を終えて、新しい地域での生活が始まりましたが、歳をとった今だからこそできる事も沢山あると思っています。これまで県立病院で培った経験と人の繋がりを宝として、この街に住む人たちや行政との連携で岩泉町が幸せな街になるように貢献していきたいと思っています。

今回の地域医療貢献奨励賞と岩手県保険医療功労者表彰の受賞は、「これから頑張りなさい」というエールを頂いたものと思っています。この受賞を励みとして今後も、岩手の地域医療に貢献できる医療人であり続けられるように、精進して参りたいと思っております。



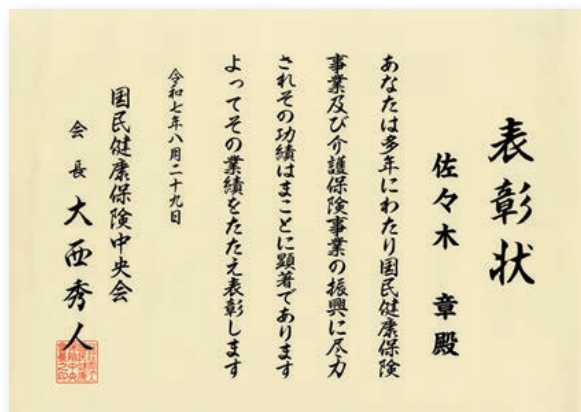
国民健康保険中央会表彰を受賞して

佐々木 章

この度、国民健康保険中央会より、身に余る光栄なる表彰を賜りました。これまで共にご尽力いただいた関係各位、ならびに地域の皆様に心より深く感謝申し上げます。

今回の受賞は私個人の力ではなく、現場で共に汗を流してきた職員、そして適切な助言をくださった関係団体の皆様との共同作業の結果に他なりません。この度の榮譽を糧に、今後も微力ながらわが国の社会保障制度のさらなる発展と地域社会の福祉向上に寄与できるよう、一層精進してまいる決意です。

国民健康保険中央会のますますのご発展と関係皆様のご健勝を心より祈念いたします。



岩手県国民健康保険団体連合会理事長表彰を受賞して

佐々木 章

この度、岩手県国民健康保険団体連合会理事長表彰という身に余る光栄なる表彰を賜りました。今回の受賞は私一人の力ではなく、これまで共に歩んでくださった関係各位、そして温かく支えてくださった地域の皆様のおかげであり、ここに深く感謝申し上げます。

現在、社会保障制度を取り巻く環境は一段と厳しさを増しておりますが、今回の受賞を新たな出発点とし、これまでの経験を活かして本県の保健・医療・福祉の

さらなる発展に尽力してまいる決意です。岩手県国民健康保険団体連合会の益々のご発展と、関係皆様のご健勝を心より祈念いたします。



第87回日本臨床外科学会学術集会 専攻医セッション最優秀賞を受賞して

口田 脩太

この度、2025年11月20日～22日に京王プラザホテルで開催された第87回日本臨床外科学会学術集会において、専攻医セッション全242演題の中から最優秀賞を受賞いたしました（演題名：深層学習を用いた腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における手術フェーズ自動認識モデルの構築と評価）。本演題では、近年急速に発展している人工知能（AI）技術の一つである深層学習を応用し、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の手術映像から手術工程を自動的に認識・分類するモデルの構築について報告いたしました。

本研究により、手術の進行状況を自動かつ高精度に認識することが可能となれば、手術記録の自動化のみならず、若手外科医に対する教育支援への応用が大きく期待されます。具体的には、従来手作業で計測していた各手術工程の所要時間を自動評価することで、個々の外科医

の各手術工程の学習曲線（ラーニングカーブ）の自動生成や、苦手分野の効率的な把握が可能となります。さらには、手術中の安全性向上に寄与するナビゲーションシステムへの発展も展望されます。

本発表を行うにあたり、日頃からご指導をいただきました佐々木章教授をはじめ、ご協力いただきました皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も臨床・研究の両面において外科医療の発展に貢献できるよう、一層精進してまいります。



巖刀会学術賞を受賞して

熊谷 秀基

この度は歴史ある巖刀会学術賞に選出して下さり、心よりお礼申し上げます。

受賞論文「Predictive factors involving the remission and recurrence of hypertension post-laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese patients with severe obesity」は、2008年から2020年にかけて岩手医科大学附属病院で腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を受けた高度肥満症患者さん102名を対象に、術後の高血圧症の寛解・再発に関連する因子について検討した論文です。高血圧症は肥満関連健康障害の中でも術後の寛解率が低い疾患として認識されています。本研究で、術前降圧薬数が少なく（1剤以下）、臍レベルの内臓脂肪面積が小さい（243 cm²以下）患者群において、術後1年以内の高血圧症寛解率が良好で（寛解率：100%）、術後3年以内の再発率が低いこと（再発率：16.7%）が明らかになりました。本論文が、高血圧症を合併する高度肥満症患者さんの治療を選択する上で、方針決定の一助になることを期待し

ております。

研究を進めるにあたり、佐々木章先生、梅邑晃先生をはじめとした教室の先生方には、大変多くのご指導を賜りました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

今後も精進して参りますので、巖刀会の先生方におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻頂きますようお願いいたします。



学位論文報告

棚橋 洋太

学位論文名：

Reductions in Epicardial Adipose Tissue and Mediastinal Fat Are Associated with Improved Cardiac Function

掲載雑誌：Obesity Surgery 2025；35(8)：2854-2866

大学院博士課程の学位論文は「Reductions in Epicardial Adipose Tissue and Mediastinal Fat Are Associated with Improved Cardiac Function」であり、本研究成果は Obesity Surgery に掲載されました。高度肥満患者では、心外膜脂肪（epicardial adipose tissue：EAT）および縦隔脂肪（mediastinal fat：MF）の蓄積が認められます。これら胸腔内脂肪の増加は心臓の拡張制限に関与し、その減少が心機能改善につながると考えられています。本研究では、減量・代謝改善手術前後における EAT および MF の変化、さらにそれらと心機能の関連について検討しました。研究対象は、当教室で腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（laparoscopic sleeve gastrectomy：LSG）を施行した高度肥満症患者 75 名で、ベースラインおよび術後 1 年時に EAT・MF の測定と心臓超音波検査を行いました。その結果、LSG 後に EAT・MF はいずれも有意な減少を認めました。また、参加者のうち 8 名に拡張障害が認められましたが、術後には 62.5% で

拡張能の改善がみられました。拡張不全症例は拡張能正常症例と比較して EAT の蓄積が大きく、さらに LSG 後の EAT 減少率も有意に大きいことが示されました。これらの結果から、高度肥満患者における拡張不全には EAT 蓄積による心膜拘束作用が強く関与し、LSG による EAT の減少が拡張能改善に寄与することが明らかとなりました。

大学院の間、佐々木 章教授、梅邑 晃准教授のご指導の下、日々の臨床においてクリニカルクエストを持つ姿勢、その疑問に対して研究・解析を行うこと、そして得られた成果を発表していくことの重要性について、私の今後の医師・研究者としての基盤を形成するうえで極めて大きな学びを得ることができました。学位取得はあくまで通過点であり、今後も医学研究を継続していくことが必要と考えております。最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださいました佐々木 章教授、梅邑 晃准教授に心より御礼申し上げます。



岩崎 崇文

学位論文名：

Effects of reduced retroperitoneal adipose tissue and kidney volume on renal function and blood pressure following metabolic surgery in patients with severe obesity

掲載雑誌：Surgery for Obesity and Related Diseases 2025 Nov;21(11):1210-1218

大学院博士課程の論文である「Effects of reduced retroperitoneal adipose tissue and kidney volume on renal function and blood pressure following metabolic surgery in patients with severe obesity」は Surgery for Obesity and Related Diseases (Impact factor 3.8)

に掲載されました。

高度肥満症患者においては顕性腎機能障害がなくてもさまざまな原因で糸球体過剰濾過が認められ、減量・代謝改善手術 (MS) による改善効果も報告されております。本研究では、高度肥満症患者において MS 前後での後腹膜脂肪 (RAT) と腎容積 (KV) の変化、腎機能と高血圧改善の関連を明らかにすることを目的としました。



本研究は、当教室で腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 (LSG) を施行した高度肥満症患者 80 名を対象としました。LSG 前後に CT volumetry 用いて RAT、KV、代謝関連パラメーターを前向きに測定し集積し解析を行いました。

術後 1 年では、RAT (1149.5mL vs 734.5mL; $P < 0.001$) と KV (右 218.5mL vs 201mL, 左 220mL vs 206.5mL; とともに $P < 0.001$) は有意に減少しました。腎機能関連パラメーターでは個別化 estimated glomerular rate (eGFR) (103.5mL/min vs 93.7mL/min; $P < 0.001$)、標準化 eCcr (157.2mL/min/1.73m² vs 134.8mL/min/1.73m²; $P < 0.001$)、個別化 estimated creatinine clearance (eCcr) (200.4mL/min vs 153.4mL/min/1.73m²; $P < 0.001$) と有意に改善を認めました。RAT の変化量は個別化 eCcr

の変化量 ($\rho = 0.219, P = 0.005$) と相関し、KV の変化率は標準・個別化 eCcr の変化率 ($\rho = 0.232, P = 0.043, \rho = 0.232, P = 0.043$) と相関していました。LSG を含めた MS は、RAT・KV を減少させ、かつ糸球体過剰濾過の改善もたらしました。

高度肥満症に対する LSG は有効な減量効果を認めるだけでなく、RAT と KV との減少による糸球体過剰濾過や高血圧の改善、将来的な慢性腎臓病や心血管疾患リスクの軽減に寄与する可能性が示唆されました。

本論文に関しまして、ご指導賜りました佐々木章教授、梅邑晃准教授、またご指導ご支援頂きました肥満症治療に携わる皆様方に深く感謝致します。今後も研究・臨床に注力していきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

下沖 美里

学位論文名：

Qualitative evaluation of muscle strength in postoperative gastric cancer using computed tomography

掲載雑誌：Journal of Iwate Medical Association
2025;77(1):23-35

大学院博士課程の学位論文は「Qualitative evaluation of muscle strength in postoperative gastric cancer using computed tomography」で Journal of Iwate Medical Association に掲載されました。

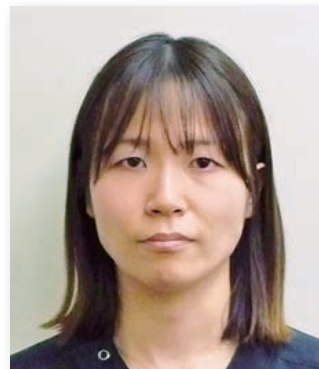
胃癌患者はサルコペニアの発症頻度が高く、胃癌術後 6 か月のサルコペニアは予後が不良で、胃癌術後のサルコペニアの存在は予後を予測する上で非常に重要になります。また骨格筋の減少は筋線維の萎縮と脂肪浸潤により起こるとされており、サルコペニアの評価では腸腰筋指数 (psoas muscle index, PMI) などの量的評価だけではなく、脂肪浸潤などの質的評価が必要です。近年、radiomics という分野に関心が集まっており、標準治療で用いられる CT、MRI などの医療画像を利用して、量的・質的変化の検討による筋力低下の評価を可能にします。

本研究は胃癌術後の CT を用いて、術後 6 か月時点でサルコペニアに至る症例を事前に予測する因子の検討を行うことを目的とし、2023 年 2 月から 2024 年 1 月までの 1 年間に、岩手医科大学附属病院外科において腹部ア

プローチで胃切除術を施行した胃癌患者 45 名を対象にしました。

術前後の CT で腸腰筋と脊柱起立筋の関心領域を作成し、腸腰筋面積 (cm²) / 身長² (m²) から PMI を算出しました。術後 6 か月の PMI で男性 6.36 cm² / m²、女性 3.92 cm² / m² をカットオフ値として、low 群と high 群に分類し解析しました。得られたヒストグラム特徴量のうちヒストグラムの kurtosis と skewness に着目し、術後 3 か月の脊柱起立筋の skewness と腸腰筋の kurtosis は術後 6 か月の PMI 低値を予測する因子として最も高い曲線下面積 (area under the curve, AUC) を示しました。本研究により胃癌術後サルコペニアの予測には術後 3 か月の CT が有効で、radiomics 解析により予後不良患者に早期栄養介入が可能になりうるということが示唆されました。

ご指導いただいた馬場誠朗先生、佐々木章先生、上部グループの先生方、放射線腫瘍学部の家子義朗先生、放射線医学講座の田村明生先生をはじめ、ご協力くださったすべての先生に心より感謝申し上げます。



第23回日本ヘルニア学会学術集会

川村 英伸 (第23回日本ヘルニア学会学術集会 会長/岩手県立中部病院 院長)

2025年5月23日(金)・24日(土)に、第23回日本ヘルニア学会(JHS)学術集会を岩手県盛岡市のアイーナとマリオスで開催致しました(同時開催5月22日:第22回日本ヘルニア内視鏡外科手術手技研究会 会長:梅邑 晃(岩手医科大学外科学講座准教授))。会員は約2千人です。会長になれたのは、第3回日本ヘルニア研究会から会員となり、JHSの評議員を経て理事となり、学会発表や論文報告が評価されたものと思っております。

今回の学会テーマは「二刀流で挑む～合併症軽減と教育～」としました。どんなに手術が高度化しても、合併症や再発は少なくすべきですし、それには適切な教育が必要であり、これら2刀を確実に伝承していくことが大切であると信じており、このテーマに決めました。

JHSは国際化に力を注いでおり、海外招聘講演(2題)、日韓合同シンポジウム、若手医師の英語セッションを企画しました。会場は、マリオス(盛岡市民文化ホール)とアイーナの7会場、計8会場で行われました。演題は600題ほど集まりました。来場者は700名を予想していましたが、760名ほどの登録をいただき、大変盛況となりました。

本会は、岩手医科大学外科学講座の佐々木 章教授に準備委員長としてご協力していただき、岩手医科大学外科学講座には大変お世話になりました。また、巖刀会の皆様には、多くのご寄付をいただき、深く感謝申し上げます(寄付金総額:250万ほど)。企業の協賛が厳しくなっている中で、この寄付金は非常に助かりました。参加者より「良かったよ」とお褒めのお言葉を沢山頂戴し、準備は大変でしたが非常に感動致しました。大きなトラブルも無く無事開催できたことは、皆様のご支援あってのことと重ねて深謝致します。本当にありがとうございました。



東日本肥満症・糖尿病チーム医療セミナー2025

佐々木 章

2025年10月11日(土)に盛岡市のマリオス(盛岡地域交流センター)にて開催いたしました「東日本肥満症・糖尿病チーム医療セミナー2025」は、おかげさまで盛会裡に終了することができました。本セミナーでは、肥満症の包括的治療から減量・代謝改善手術の最新知見まで、多職種によるチーム医療を軸とした全4部(肥満症の包括的治療、減量・代謝改善手術の周術期管理、減量・代謝改善手術の実際、減量・代謝改善手術 up to date) にわたる

プログラムが展開され、肥満症治療の最前線について活発な議論が行われました。

ご多忙の中ご講演を賜りました演者の先生方、座長の先生方、ならびにご参加いただいた皆様、多大なるご支援をいただきました関係企業の皆様に、厚く御礼申し上げます。次回の当番世話人は、東京慈恵会医科大学の矢野文章先生が務められる予定です。今後とも、本セミナーへの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東日本肥満症・糖尿病 チーム医療セミナー 2025

当番世話人
佐々木 章 岩手医科大学外科学講座

10.11 Sat.
12:35~17:15

会場
マリオス(盛岡地域交流センター)
188会議室(18階)
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通二丁目9番1号
TEL: 019-621-5000

内容
第1部: 肥満症の包括的治療
第2部: 減量・代謝改善手術の周術期管理
第3部: 減量・代謝改善手術の実際
第4部: 減量・代謝改善手術 up to date

参加方法
会場にて参加費をお支払いの上ご参加ください
事前申込みを右記QRコードからお申込みください

参加費
3,000円

主催機関及び責任者
佐々木 章 岩手医科大学医学部外科学講座
〒028-3695 岩手県紫波郡茨戸町医大通2-1-1
TEL: 019-613-7111 E-mail: sakira@iwate-med.ac.jp

東日本肥満症・糖尿病チーム医療セミナー2025 プログラム

12:10~12:35 世話人会・プログラム委員会

12:35~12:55 製品紹介(説明5分×4社)

12:55~13:00 開会の挨拶 当番世話人
佐々木 章(岩手医科大学 外科学講座)

13:00~14:00 第1部 肥満症の包括的治療 (共催:日本イーライリリー株式会社)
座長: 船野 一郎(千葉県立保健医療大学) 発表15分+質疑3分
1. 肥満症の包括的治療
竹本 穂(国際医療福祉大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学講座)
2. 肥満症の最新薬物療法と周術期の薬剤使用法
石垣 泰(岩手医科大学 内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学分野)
3. 減量・代謝改善手術におけるチーム医療の進め方と術前評価
齋木 厚人(東邦大学医療センター-佐倉病院糖尿病・内分泌・代謝センター)

14:00~15:00 第2部 減量・代謝改善手術の周術期管理 (共催:サニーヘルス株式会社)
座長: 小嶋 一幸(福徳医科大学 上部消化管外科) 発表15分+質疑3分
1. 周術期栄養療法と体重増加患者への対応
平本方 直子(岩手医科大学 栄養部)
2. 運動療法
新開 悦弘(東北大学病院 リハビリテーション部)
3. メンタルヘルスマネジメントとオビセシステイグマ
三條 克巳(岩手医科大学 精神科学講座)

15:00~15:10 休憩

15:10~16:10 第3部 減量・代謝改善手術の実際 (共催:コヴィディエンジャパン株式会社)
座長: 平野 聡(北海道大学大学院 消化器外科学II) 発表15分+質疑3分
1. 手術適応と手術法
細谷 好則(自治医科大学 外科学講座消化器一般移植外科)
2. 減量・代謝改善手術の手術のポイントと注意点
海老原 裕磨(北海道大学大学院 消化器外科学II)
3. 合併症と修正手術
畑尾 史彦(東京都立多摩総合医療センター 消化器・一般外科)

16:10~17:10 第4部 減量・代謝改善手術 up to date (共催:ミヤリサン製薬株式会社)
座長: 内藤 剛(山形大学 下部消化管外科) 発表15分+質疑3分
1. 2型糖尿病に対する外科療法の効果と改善機序
井本 博文(東北大学大学院 消化器外科学)
2. MASLD/MASHに対する効果と今後の展望
梅田 晃(岩手医科大学 外科学講座)
3. 肥満腎移植患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術
山崎 公博(昭和大学 外科学講座)
4. 人間ドックの保健指導による高度肥満症の受診動向調査
倉津 恵司(岩手県民病院 外科)

17:10~17:15 閉会の挨拶 次回当番世話人
矢野 文章(東京慈恵会医科大学 外科学講座 上部消化管外科)

第48回日本死の臨床研究会年次大会

木村 祐輔 (岩手医科大学緩和医療学科)

2025年11月1日・2日の二日間、盛岡市のマリオスとアイーナを会場として第48回日本死の臨床研究会年次大会を開催いたしました。全国から二千名を超える皆様をお迎えし、盛会のうちに幕を閉じることができましたことは、関係各位のご支援の賜物であり、まずもって、岩手医科大学外科学講座同門会「巖刀会」の諸先生方より賜りました格別のご厚志に、心より深く御礼申し上げます。

本研究会は、死生学・臨床倫理・緩和ケアの実践と教育を探究する、我が国でも希少な学際集いです。人生の最終章に寄り添うケアの本質と、援助する者のあり方を問い続けてきた歴史を持つがゆえに、医療専門職に限らず、看護・福祉・教育・宗教・行政など幅広い領域の方々が集う場となっております。東北地域での開催は8年ぶりとなり、多職種・多領域にわたる皆様が熱い志を持って盛岡の地に集い、語り合い、学びを深められる光景は、緩和ケアに携わる者の一人として、胸に迫るものがございました。

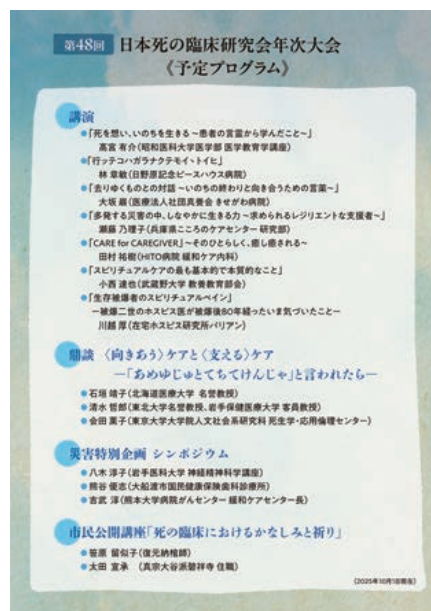
大会テーマには「“あめゆじゅ”を求め、向き合い、そして支える」を掲げました。人生の最終章に人が抱く〈真の願い〉と、それに呼応しようとする援助者のまなざしを、宮沢賢治の詩の一節をお借りして表現いたしました。医療の技術的進歩により苦痛緩和の手段は発展しましたが、苦しみの向こう側にある患者の望みや、生きてきた軌跡までは、医療技術だけで救うことは困難です。その願いを受け止め支える営みは、根源的には「人が人に向き合うこと」にほかなりません。そしてその修練は、外科医を含むすべての医療人に通じる普遍的テーマであると考えます。

その意味で、巖刀会の先生方が本大会を支えてくださったことは、学問的意義を超えて、私自身にとっても大きな励みとなりました。外科学講座に育てていた

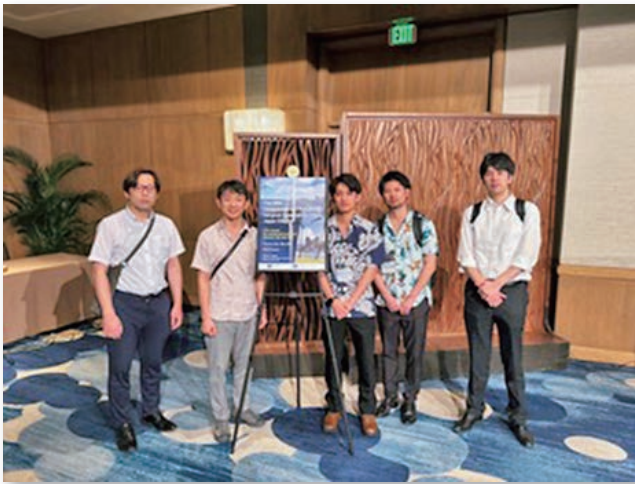
いた者が、このような全国規模の大会を担うにあたり、同門会より温かいご厚志を賜りましたことにより、外科教室の伝統と懐の深さを改めて感じる機会となり、またこの支えがあってこそ、連日にわたる多数の講演や討論、企画を無事運営することができたと痛感しております。

本学緩和医療学科は、外科学に端を持つ臨床姿勢と実践志向をその源流にしております。人の苦しみに向き合い、解決を模索する姿勢、患者・家族の願いに耳を澄ませる態度は、外科学講座の教育の中で培われてきたものにほかなりません。巖刀会の諸先輩方より頂戴してきた薫陶とお支えが、本大会の根幹を成したことを改めて深く感じております。

終末期医療と緩和ケアを取り巻く環境は、今後さらに多様化し、複雑化してまいります。そのなかで、多職種協働や地域連携の質が問われ、教育・研究・臨床を担う大学の役割もより重要となります。岩手医科大学がこの領域において責任ある役割を果たし続けるためにも、引き続きの教育・研究機能の充実が欠かせません。巖刀会の諸先生方には、これまでと変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りつつ、今後も緩和医療学科の歩みに温かいお力添えをいただけましたら幸甚に存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



The 38th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association, Japan Chapter (PPSA-JC) に参加して



川島 到真

閉鎖孔ヘルニアに対しエコーガイド下整復後にメッシュプラグを用いて待機的腹腔鏡下手術を実施した治療成績について発表致しました。閉鎖孔ヘルニアの発表がいくつかあり、質疑応答は座長の先生と発表者でディスカッション方式にて行われました。英語でディスカッションを行う機会が初めてでしたので、とても良い経験となりました。今回のテーマは千厩病院勤務時にまとめ

たものです。塩井義裕先生が始め、私も経験させて頂き、英語原著論文にした経緯があります。規模の小さな病院でも着眼点次第で世界へ発信できることを学びました。この場を借りて、塩井先生に感謝申し上げます。今後も海外学会で発表できるように邁進していきたいと思えます。

小山 亮太

この度、佐々木章先生からご助言をいただき、2025年2月に行われた The 38th PPSA-JC in Hawaii に参加する機会をいただきました。演題は、Outcomes of laparoscopic surgery for duodenal atresia の題で、当院での新生児の先天性十二指腸閉鎖に対する腹腔鏡下手術の工夫と成績についてビデオを交えて発表をしました。初の英語発表に先立ち、英語の抄録、スライド作りから原稿作成と、ご指導いただきました先生方には厚く感謝申し上げます。

ハワイでは発表の他、海水浴や現地の食事、ダイヤモンドヘッドでジョギングをするなど充実した時間も過ごさせていただき、また昭和医科大学医学部外科学講座の先生方との食事会に参加させていただき、情報交換の機会もいただきました。何より事前の準備から自身の英語力の無さを痛感し、今後への糧となりました。この度は貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。

菊地 晃司

この度、令和7年2月26日～28日にハワイで開催された The 38th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association, Japan Chapter (PPSA-JC) に参加しましたのでご報告させていただきます。

今回「Four clamp-crush techniques in robotic hepatectomy」という演題で発表いたしました。本演題は、現在当教室で力を入れて取り組んでいるロボット支援下肝切除術に関する内容を報告したものです。これま

でも当教室の先生方が腹腔鏡下肝切除術についての論文を報告し、エビデンスを積み上げて来た領域であり、同テーマを国際学会で発信できたことを大変光栄に思います。今回の海外学会発表を足掛けに、今後も積極的に海外学会に参加していきたいと考えております。

最後に、佐々木章先生、新田浩幸先生、梅邑 晃先生をはじめ、研究遂行にご指導いただいた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

琴畑 洋介

今回、ハワイで開催されました The 38th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (第38回環太平洋外科学会日本支部会) に参加させていただきましたのでご報告いたします。海外での学会発表や英語でのスライド作成、質疑応答など、すべてが自分にとっては初めての経験であり、事前準備や学会期間中に多くの事を学ぶことができました。

今回私は [Surgical site infection after laparoscopic colorectal surgery: A single-center observation study] という演題で発表させていただきました。兼ねてより私が大学院研究として調査していた、腹腔鏡下大腸癌手術における手術部位感染 (SSI) に関する内容であり、日本語でのスライド作成自体はさほど時間を要するものではありませんでしたが、やはり英語でのスライド作成、発表となると、なかなか一筋縄では完成まで辿り着きませんでした。特に発表内容については自然な流れになるよう



に英語で原稿を作成し、言い回しや表現に迷った際には大学院研究でもご指導頂いている八重樫先生へご相談し、時間を要しながらも学会当日に向けて準備を進める事ができました。

当日は原稿通りに発表する事ができましたが、やはり

英語での質疑応答となると簡単な内容でも返答に時間がかかってしまい、自分の英語力不足を痛感しました。他の先生方のご発表も素晴らしく、今後同様に英語での発表や国際学会へ参加させて頂く機会などありましたら、納得のいく発表、質疑応答ができるよう、発表前の準備だけでなく日頃から英語力を高められるよう精進していきたいと思います。

発表以外の時間も現地ならではの食事を堪能したり、他の先生方とショッピングや観光をするなどして有意義

な時間を過ごす事が出来ました。また Welcome Party や Farewel Party では同世代の先生方や他大学の教授の方々まで、様々な先生方と意見を交換したり、他大学で取り組んでいる学生へのプロモーション活動についてお聞きするなど、学会でしか味わう事のできない刺激を受けることができました。

最後になりますが、今回このような貴重な機会を与えて下さいました、佐々木教授をはじめ、八重樫先生、教室の先生方に御礼申し上げます。

徐 光仁

この度、2025年2月26日から2月28日に開催された The 38th Congress of Pan-Pacific Surgical Association-Japan Chapter に参加し、研究成果を発表する貴重な機会をいただけたこと、心より感謝申し上げます。国内とは異なる環境の中で、多くの外科医と直接意見交換することができ、大変刺激的で有意義な経験となりました。多様な視点やアプローチに触れることで、自身の今後の臨床や研究へのモチベーションへとつながりました。

一方で、英語での発表・質疑応答の際には、瞬時に自分の考えを正確に伝えることの難しさを痛感いたしました。相手の質問意図を的確に把握し、論理的に応答する

力の不足を実感し、今後の大きな課題として考えております。しかしながら、会話の中で少しずつ理解が深まり、最終的に意図が伝わったときには、大きな達成感と自信を得ることもできました。

この経験を通して、語学力の重要性はもちろんのこと、国際的な場で自らの研究を発信する意義を改めて感じました。次回はより落ち着いて発表・討論に臨めるよう努めてまいります。今回の貴重な機会を与えてくださり、またご支援くださった佐々木 章教授をはじめとする先生方に、改めて心より御礼申し上げます。

22nd Congress of the European Society for Organ Transplantation (ESOT) 2025 に参加して

井原 欣幸

今回 2025年6月29日～7月1日に英国ロンドンで開催された 22nd Congress of the European Society for Organ Transplantation (ESOT) 2025 に参加させて頂きましたのでご報告させていただきます。ESOT は 1983 年に第 1 回チューリッヒで開催され欧州組織では一番大きな臓器移植関連の国際学会になりますが、私は前回ブリュッセルで開催された第 17 回以来の参加となります。現在獲得免疫と移植免疫との不均衡についての基礎研究を行っておりますが、今回は「Tacrolimus-induced de novo allergy after pediatric liver transplantation」と題してその臨床像と治療戦略について発表を行いました。



前回参加した時は日本の各移植施設から顔見知りの移植医も多数参加して、Split Liver のハンズオンセミナーや特別講習会、その後の GALA dinner も賑わっていましたが、今回は日本からの同士がとて少なくやや寂しい会場でした。とはいえ英国留学時にお世話になった先生方とも久しぶりに交歓でき非常に有意義な時間となりました。学術的に興味を引いた Topics としては我々が行っている Allograft ではなく、ここ数年実臨床での報告が相次いでいる Xenotransplant の新知見でした。

阪大宮川研究室時代に私も関わっていたブタ→ヒトへの Xenotransplantation 研究は近年 CRISPR-cas9 等の新規遺伝子操作技術により、 α -Gal 抗原や PERV、糖鎖抗原などいくつものハードルをクリアして実現可能なレベルへの進歩を遂げ、遂に 2022 年米国 Maryland 大 Muhammad Mohiuddin 先生らのグループにて世界初のブタからの心臓移植の成功例が報告されましたが、その後も 2025 年に米国で行われたブタ腎移植患者が 6 ヶ月以上生存するなど、世界的に最も多くの待機患者を抱える腎臓移植においても期待が高まっています。今回パリの研究チームからの発表では、バイオインフォマティクスパイプラインを用いてヒト免疫細胞とブタ構造細胞を区別することで免疫浸潤パターンの正確なマッピングを可能にし、狙った免疫細胞の挙動と遺伝子発現を特定することでより効果的な免疫抑制に繋がる可能性があります。その他ヨーロッパにおいても臓器不足から発展してきた心停止ドナー (DCD : Donation after Circulatory Death) の長期成績や、留学当時 King's College と協働

して臓器摘出を行っていた Oxford 大チームの世界初となる常温還流装置による Machine Perfusion の肝移植への応用 (American Journal of Transplantation. 2016;16:1779-1787) の更なる発展等、英国で学んだ知見がさらに飛躍し興味深い新知見となって多く発表されており、全てをご紹介することはできませんが非常に有意義な学会でした。ただ最終日にロンドン名物の地下鉄ストライキが 3 路線で起きたのと、帰国便が出発遅延を繰り返した末に結局欠航となったあげく、宿泊手配や移動は個人で行わねばならず、夜更けに空きホテルを探したり、鉄道やバスを駆使して市内へ移動したりとなかなか大変でした。しかしテムズ側越しに見る夏目漱石も訪れたロンドン塔や、いつも臓器摘出の救急車で横を通り過ぎていたミッションインポッシブルで有名な MI-6 の巨大なビルなど、10 年ぶりに帰ってきた自分の "Another Sky" - ロンドンのどの景色も懐かしく素敵なものでした。今回の参加にご支援頂きました佐々木 章教授を始め医局の皆様、肝胆膵移植チームの皆様に感謝申し上げます。

世界初のブタ心臓移植を成功させた Muhammad 先生夫妻との会食



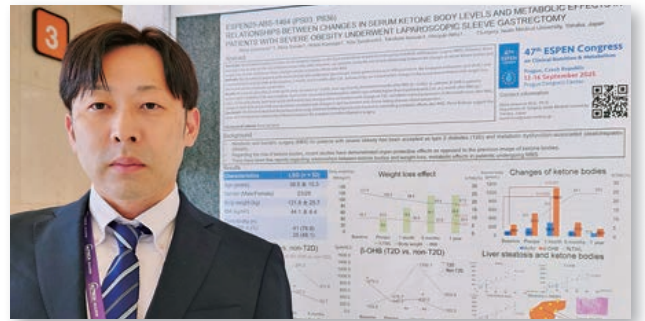
30th ESPEN Course in Clinical Nutrition に参加して

梅邑 晃

JSPEN でフェローシップ賞を受賞した「非アルコール性脂肪性肝炎合併高度肥満症患者の減量・代謝改善手術前後の血中ケトン体と治療効果の関連」について、2025 年 9 月 13 日～16 日までチェコ共和国のプラハで開催された ESPEN2025 においてポスターセッションで発表させて頂きました。プラハは、中世ヨーロッパの石畳や建物が多く残る歴史を感じる事ができる街で、1992 年に世界遺産にも登録されています。会場となったプラハ会

議センターには、大きな会場にも関わらず多くの参加者が世界各国から来場しており非常に活気がありました。自分自身が世界の栄養学の潮流に触れること自体が初めてでもありましたが、勇気を持って外科医として最も栄養管理が難しいと感じている集中治療と肥満症に関するセッションを多く聴講しました。栄養学という患者背景を揃えたり、アウトカムで優位性を示すことが非常に難しい領域で多くの研究者が日々思索し、研究を進捗させ

ているという現実を見て自分自身もより大局的な視点からの研究の遂行が重要であると再認識しました。ポスターセッションは軽食やコーヒーを飲みながらもディスカッションを行う形で進行されましたが、多くの参加者と意見交換や他の演者の方にも質問させて頂いたりと有意義な発表となりました。本演題の御指導を頂きました佐々木章教授、解析を手伝って頂いた大学院の先生方、留守をお任せしたチームの先生方に改めて感謝致します。



21st World Congress of Endoscopic Surgery in conjunction with the 17th Asia-Pacific Congress of ELSA に参加して

安藤 太郎

2025年11月4日から8日にシンガポールで開催された「21st World Congress of Endoscopic Surgery」に参加いたしました。本学会はアジア内視鏡外科学会と世界内視鏡外科学会の合同開催であり、世界各国から多数の外科医が集う大規模な国際学会となりました。当教室からは馬場医局長を含む5名が参加し、国際的な学術交流の貴重な機会となりました。

開催地であるシンガポールは、多民族・多文化国家として知られ、先進的な都市機能と多様な文化が融合した魅力ある都市でした。学会期間中は世界各国の参加者が一堂に会し、会場内外で活発な議論が交わされました。多国籍料理が並ぶ屋台街では参加者同士で交流を深めることができました。国際学会ならではの雰囲気を感じることができたことも、大きな経験となりました。

私は、当教室で注力している低侵襲肝切除術について、ロボット支援下肝切除術と腹腔鏡下肝切除術の治療成績を比較検討した内容を発表いたしました。ロボットの多関節機構と安定した術野展開が精緻な肝切除に寄与している点、ならびに安全に施行するための工夫や注意点について報告させて頂きました。当施設は国内でも有数のロボット肝切除実施施設であり、その経験を国際舞台で発信できたことは大変意義深いものでした。発表前は緊張もありましたが、想定問答集を作成し、無事に座長からの質問にも対応することができ、充実した討議を行うことができました。

本学会を通じて、世界各国における最新の手術手技や治療成績のみならず、外科医としての姿勢や考え方にも

触れることができました。今後はさらに英語での発信力を高め、国際舞台において積極的に意見交換できる外科医を目指して研鑽を重ねてまいります。本学会で得た知見を日常臨床に還元し、教室の発展に貢献していきたいと考えております。最後に、本発表にあたりご指導を賜りました佐々木章教授をはじめ、海外学会参加を支えてくださった医局員ならびに医療チームの皆様にご心より感謝申し上げます。



寄り添う心 病院運営評価

地域医療貢献奨励賞

北上市の県立中部病院の吉田徹院長(65)は、地域での医療確保や健康福祉増進に長年貢献した医師をたたえる第18回地域医療貢献奨励賞(住友生命福祉文化財団主催)に選ばれた。医師不足が深刻な本県沿岸部などで患者に寄り添い、新型コロナウイルス禍では通常診療と両立した病院運営が評価された。

吉田院長は盛岡市出身で自治医大卒。1984年の県立宮古病院を皮切りに沿岸部や県北部の病院、診療所で地域医療を支えた。「家族のような気持ちで患者さんと向き合い、一番望ましい形を共に考える仕事はやりがいが大きい」と実感する。最も印象深い出来事は東日本大震災だ。発生当時は県立釜石病院副院長で、耐震工事を控える中での大震災。津波被害はなかったが、病院に寝

吉田徹院長(北上市・県立中部病院)が受賞

震災、コロナ禍乗り越え



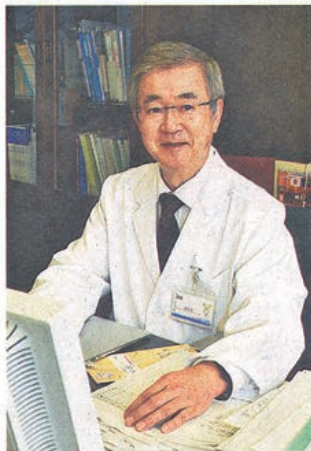
「培った経験や技術、人脈を生かし今後も地域医療に貢献したい」と語る吉田徹院長

泊まりして入院患者らの内陸部への搬送調整などに奔走した。「混乱の中でも県立病院のネットワークに助けられたし、全国各地の医療従事者が応援に来てくれてありがたかった」と振り返る。県立千厩病院の院長時代に回復期リハビリ病棟を開設し、地域のリハビリ機能維持

に力を注いだ。2022年4月から中部病院に勤務し、コロナ禍では感染症患者の治療と高度専門医療を両立する体制づくりに尽力。コロナ患者が脳梗塞などの別疾患を抱えている場合も多く、感染拡大を防ぎながら手術や術後管理などに取り組んだ。受賞を受け「培った経験や技術、人脈を生かし、今後も地域医療に貢献したい」と思いを強くする。医師を志す若者たちには「若い頃は『難しい手術をできるようになりた』ことが最先端治療に憧れる。でも医師の根底は一人一人を救い、幸せにつなげること」と伝えたい。地域医療の現場で貫く誇りを胸に、患者と向き合い続ける。同賞には吉田院長を含む全国の6人が選ばれた。本県からの受賞は5人目。表彰式は3月1日、都内で行われる。

第18回地域医療貢献奨励賞に選ばれた
県立中部病院長

よし だ とおる
吉 田 徹さん(65)



ひと

さんの代表の気持ちで受けるの
かな」と周囲に感謝が尽きない。
患者一人一人と向き合う地域医
療に情熱を注ぐ日々。「東京で
医者になる思いは、最初からな
かった」

子どもの頃は新聞記者や物理
学者を志した時期もあったが、
中学3年の時に肉親の死を経験
し、命に関わる仕事に興味を抱
いた。盛岡一高から自治医大(栃
木県)に進んだ。
大学卒業時、学長から言われ
た言葉が今も心に残る。「どん
な田舎に行っても医学雑誌は読
めるし、数カ月遅れで世界の最
先端についていける。そういう
気持ちで地域で働きたい」
教えを胸に、1984年の県
立宮古病院を皮切りに沿岸、県
北などで勤務した。医療技術が
進歩した今は「全ての人に同等
レベルの医療を提供できるよう
に取り組むことこそ、やりがい」
と実感する。

岩手日報 2025年2月26日掲載

県立宮古病院長に就任した

き どう はじめ
佐 藤 一さん(59)



ひと

公務員などにな
って古里に貢献
したいと考えて
いたが、「学費
が安い」との理
由で自治医大(栃木県)に進学
した。
専門は外科。県内各地の病院
に勤務し、3月まで院長を務め
た県立千厩病院では通算14年間
働いた。手術を担当した患者が
元気に生活する姿を見て「自分
の仕事は残っているんだ」と、
命をつなぐ医の道にやりがいを
感じる。

岩手日報 2025年4月18日掲載

秋田市出身・消化器外科医 高清水さん



5月からカンボジアの病院に勤務する高清水さん

大仙市の病院で働いていた消化器外科医の高清水さん(41)＝秋田市出身＝が5月からカンボジアに移住し、首都プノンペンの日系病院に勤務する。カンボジアでは消化器系の疾患が増え腹腔(ふくろう)鏡手術などのニーズが増しているが、かつての内戦の影響もあり医師が不足している。高清水さんは消化器外科医として常勤で働きながら、現地の若手医師やスタッフの育成に当たる。

勤務先はサンライズジャパン病院。2016年に日本政府の支援を受けた日本企業が開設した。消化器科、総合内科、小児科、産婦人科など幅広い診療科があり、日本人医師や日本で研修を受けた現地スタッフが高水準の医療サービスを提供する。

外務省などによると、カンボジアは1990年代まで続いた内戦で医療者が激減。現在は急速な経済成長を遂げたが、東南アジア諸国と比べ医療分野の発展が遅れがみられる。消化器系の疾患は人口増や高齢化に伴い増えている一方、国内の富裕層は海外で医療を受ける傾向にある。そのため、現地の医師が育ちにくい環境にあるという。

「若い医師を育てることを考えると、経験のある医師が現地で暮らしながら地道に指導することが絶対に必要。自分ができるなら力になりたい」。高清水さんはこう語る。医師を志したのは、秋田高校在学中。発展途上国では医療不足で多くの子どもが死亡する現実を知り「生まれた環境で運命が決まってしまう理不尽さへの違和感や憤りを抱いた。自分の手でどうにか

カンボジア医療の力に

来月移住、人材育成へ



日本内視鏡外科学会のプログラムでサンライズジャパン病院に派遣され、手術する高清水さん(左)＝2024年7月(高清水さん提供)

かできないかと思ったという。

秋田大学医学部に進み、同じ思いの仲間と長期休みを使ってカンボジアやインドなどで医療ボランティアに従事した。地方や途上国でも求められる身近な医療だとの思いから外科医の道へ。特に大腸がんなどの消化器系疾患分野は日本でも途上国でも役立つと考え、2016年から腹腔鏡手術などの技術の高さで知られる若手医科大学外科学

講座で学んだ。開腹手術に比べ患者の負担が少なく、術後の回復も早い腹腔鏡の技術を磨くと、合格率3割といわれる日本内視鏡外科学会の技術認定医にも合格した。

高清水さんは「さまざまな国で現地の人たちと触れ合う中で明るさや元気があるという印象を持った。今は医師として彼らと一緒に国をつくる役割を担えることにもやりがいを感じている」と話す。

は、内視鏡外科学会が技術認定医を対象に募集したプログラムだった。途上国のニーズに応じた一定期間派遣されるもので、昨年、サンライズジャパン病院に3度赴き、手術の執刀や現地医師の助手を担った。スタッフからは高清水さんの熱心で丁寧な指導が歓迎された。消化器外科の専門医が不在だったこともあって岡和田学院長から病院勤務を打診された。

昨年4月からは大仙市の大曲中通病院で勤務。職場はカンボジア行きを応援し、全面的にサポートしてくれた。大学の同期で、共に医療ボランティアにも参加した妻の奈央さん40も「人の役に立つ技術を身に付けるため厳しいトレーニングを積む姿をそばで見えた。患者さんの幸せに誠実に向き合ってきてほしい」と背中を押してくれた。

「現地の若手医師からすれば、自分は日本の医師を代表しているようなもの」と高清水さん。不安やプレッシャーは決して小さくないが「秋田や若手で多くの先生や患者さんに育ててもらい、身に付けてきた知識と経験をぶつけてきたい。カンボジアの医療水準の向上に貢献し、一人でも多くの笑顔を増やしたい」。

(伊藤康仁)

乳がん最新治療に理解 アイリスの会30周年講演会



最新の治療について解説する石田和茂医師

盛岡

県内の乳がん患者らでつくるアイリスの会（鈴木俊子会長、会員約60人）の結成30周年記念講演会は1日、盛岡市盛岡駅西通のアイーナで開かれた。県内外の約60人が専門医による治療の最新情報に耳を傾けた。

岩手医大付属病院の乳腺外科で乳腺疾患チームチーフを務める石田和茂医師が講話。かつて自費診療で高額だった一部の遺伝子検査について、発症年齢など条件を満たせば保険適用となることなどを紹介した。

さらに「保険適用が認められていない時代に治療を終えた人も検査を受けられる場合がある」と説明。「病院から離れている人への周知が課題」とし、検査によつて3親等の親族・子孫らの予防や早期発見が期待できるとした。

10年前に治療した50代女性は「当時は発症していない側の乳房を予防的に切除することができなかったが、今はできると知り驚いた。知識を更新できた」と熱心にメモを取っていた。

講演後のミニ茶話会には25人が参加し盛り上がった。次回の茶話会は7月7日午前10時からアイーナ団体活動室2で。会員以外も参加可能。申し込みは同会（090・2978・7830）へ。

岩手日報 2025年6月3日掲載

県立中部病院長に就いた

かわむらひでのぶ
川村英伸さん(63)



ひと

人口約20万人をカバーする中部医療圏で、高度医療を担う基幹病院をけん引する。「大きな責任を感じる。取り巻く環境は複雑化するが、地域の連携を深め、患者さんとのコミュニケーションを大事にした医療を提供したい」と気を引き締める。

矢巾町出身。子どものころ、曾祖父の訪問診療やみとりに来た

てくれた医師の姿に憧れ、医の道を志した。中学では剣道、盛岡一

高と岩手医大ではラグビーに打ち込んだ。

外科医になり、各地の病院で勤務。「患者さんが元気になつて退院していくことがやりがい」。長くヘルニア手術に携わる。再発が少ない方法を導入し各地から患者紹介を受け、後進育成にも尽力。盛岡市で5月に開かれた第23回日本ヘルニア学会学術集会の会長も務めた。

ラグビーが趣味。休日はマツチドクターとして公式試合へ出向き、選手のけがなど緊急事態に備える。「試合中は気が抜けない。本当は純粋に観戦を楽しみたいのですが…」と苦笑い。座右の銘は「人間万事塞翁が馬」。一喜一憂せずに対応することを心がける。親しい仲間からは愛称で「えいしん先生」と呼ばれ「結構気に入っている」。北上市で妻と2人暮らし。

（報道部・清水美穂）

岩手日報 2025年6月23日掲載

医師の声聞き 高まる志

高校生団体
初交流事業

奥州

医師を目指し奥州市の水沢高2年生4人で構成する団体「メディアアル」は18日、同市江刺豊田町の奥州あつまろくむで現役医師との交流事業を初開催した。医療現場の現実や地域医療の役割を学び、医学部合格に向けて士気を高めた。

同市江刺豊田町の奥州あつまろくむで現役医師との交流事業を初開催した。医療現場の現実や地域医療の役割を学び、医学部合格に向けて士気を高めた。

メンバーら6人が参加。開講式で代表の及川大翔さんが「今回の学びを未来につなげ、岩手の医療を支える力になることを願っている」とあいさつした。

同団体は8月に設立し、次回も同様の事業の開催を計画。年度末からの活動はメンバー間の情報共有とし、受験勉強に注力する。

川村秀司病院長(64)は地域医療の課題と未来について話し、一日の流れや医師を志した背景にも触れた。「思いやり



川村秀司病院長(右)の講座に聞き入る生徒

岩手日報 2025年10月21日掲載

本年度へき地医療貢献者表彰

佐藤院長(県立宮古病院)が栄誉

県立宮古病院の佐藤一院長(60)は、2025年度のへき地医療貢献者表彰を受けた。21日に県庁で伝達式が行われ、達増知事から表彰状を受け取った。

住田町出身で、1990年に県立中央病院に着任。その後、県北や県南、沿岸部を中心に地域医療の充実に貢献してきた。22年から県立千厩の院長として両磐医療圏を支え、救急患者の

受け入れや手術、人工透析など地域医療の維持のため先頭に立って指揮した。岩手医大の学外実習や地域医療研修を積極的に引き受けるなど将来のへき地医療を支える人材育成にも力を注ぐ。佐藤院長は「知人や関係者からお祝いの言葉を頂き、改めてうれしい気持ち。職員が働きやすい環境、働きがいを感じてもらえる病院づくりをさらに進



表彰を受けた佐藤一院長

めたい」と話した。

同表彰は全国自治体病院開設者協議会などが行う。81年度に始まり、本県から表彰を受けたのは50人目。

岩手日報 2025年10月22日掲載

人生最期に望む医療やケアとは

盛岡で24日公開講座

県医師会(本間博会長)

と県は24日、盛岡市菜園の県医師会館で、人生の最期に望む医療やケアなどを事前に関係者と話し合っておくアドバンス・ケア・プランニング(ACP)に関する県民公開講座を開

く。

同会の滝川佐波子常任理事と岩手医大緩和医療学科の木村祐輔教授がACPについて解説。碧祥寺(西和賀町)の太田宣承住職が「一人十色の死生観」と題して特別講演する。

午後2〜4時半。定員300人。入場無料。19日午後5時までに事前申し込みが必要で、定員になり次第締め切る。

岩手日報 2025年11月6日掲載

■**県立高田病院と県立軽米病院に医療貢献賞** 県医療局（小原重幸局長）は7日、県営医療の発展に貢献したとして、県立高田病院（阿部啓二院長）と県立軽米病院（葛西敏史院長）に県営医療貢献賞を贈った。

贈呈式は盛岡市内のホテルで行



われ、小原局長が両病院の院長らに表彰状を手渡した＝写真。高田は通院患者や気仙圏域の介護施設利用者らの体調変化時に入院できる支援体制「ほっとつばきシステム」を運用。気仙地区唯一の地域病院として医療確保に努めており、阿部院長は「ねぎらいを励みに県民への良質な医療提供のため職務を遂行する」と感謝した。

軽米は地域の人口減少が進む中、患者確保のため青森県南地域の医療機関へも積極的に訪問活動し、紹介患者を受け入れることで地域包括ケア病床の利用率を維持している。葛西院長は「(表彰は)大変恐縮な思いで、スタッフへの感謝に堪えない」と語った。

岩手日報 2025年11月8日掲載

■**地域医療に貢献の医師ら36人を県表彰** 県は19日、盛岡市内のホテルで本年度の県保健医療功労者表彰式と県地域医療従事者感謝状贈呈式を行った＝写真。地域医療に貢献した医師ら



計36人をたたえた。

表彰を受けた人は次の通り。

◇**県保健医療功労者** 吉田徹 和田武彦 小野寺富子 畠山美智子 松浦真喜子 吉田敬子 佐藤明 千葉茂美（盛岡市）川原田隆司（宮古市）小木田勇輝 佐藤裕司（花巻市）堀美知子（釜石市）平井博夫 小田島淳子（紫波町）道又衛（大槌町）片野保雄 村上敏朗（一関市）中島喜重郎（大船渡市）佐藤岩雄（陸前高田市）高橋京子（北上市）村上和子（遠野市）

◇**県地域医療従事者感謝状贈呈者▽医師の部** 赤坂徹 岩本博満 遠藤薫 小田澄 垣畑秀光 佐藤護人 菅原克郎 田中英治 玉田嗣親 山田行夫（盛岡市）加藤貞之 佐藤彰孝（花巻市）黄木天

岩手日報 2025年11月20日掲載



テレビ岩手「健康大百科」 2025年3月29日放送

March

3

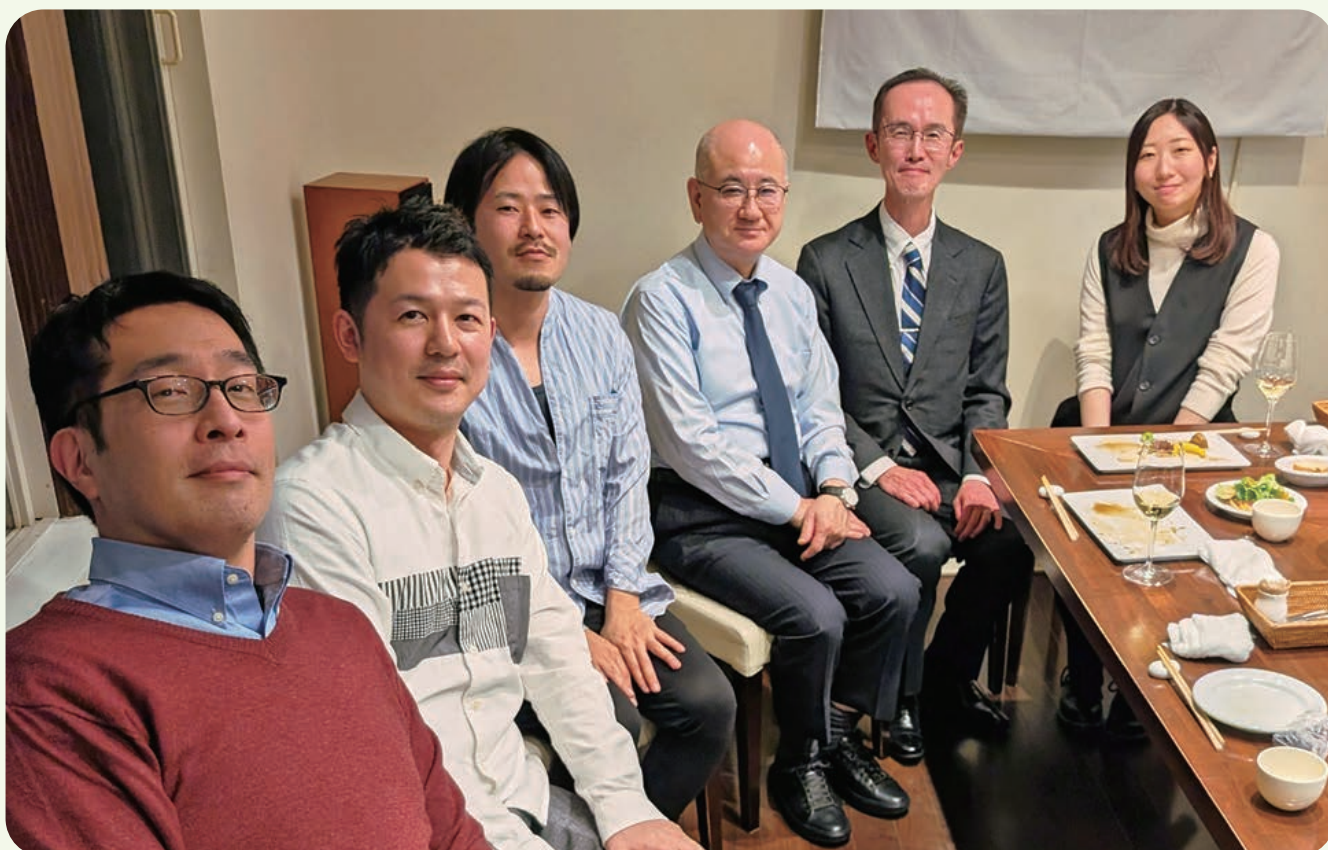
送別会 (2025.3.17)



April

4

能代厚生医療センター診療支援打合せ（2025.4.1）



下沖収医学部長・新田浩幸副院長・木村祐輔教授就任祝賀会 (2025.4.15)



June

6

巖刀会 (2025.6.7)



佐々木教授誕生日会 (2025.6.10)



納涼会 (2025.7.25)



December

12

巖刀会 忘年会 (2025.12.6)



クリスマス (2025.12.24)



外科学講座 忘年会 (2025.12.26)





ゴミ落とし (2025.12.29)

December

12



Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院

2025年度の岩手県立二戸病院の近況をご報告申し上げます。年度変わりに8年間勤務された松井雄介先生と3年間勤務された石井勇吾先生が異動となり、中村侑哉先生(消化器外科長)と口田脩太先生(外科医長)が赴任され、私御供(副院長兼外科長兼感染管理室長)の3人体制で引き続き診療にあたっております。またNPの川上憂記看護師は今年度も外科に配置され、さまざまな診療場面において活動してもらっております。

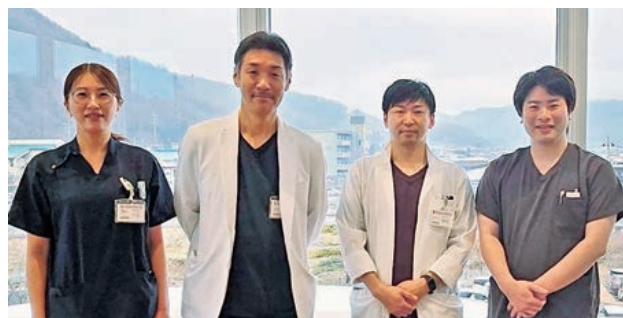
外来診療応援は、新田浩幸教授、木村祐輔教授(緩和ケア外来)、鈴木信准教授(小児外科外来)、石田和茂先生(乳腺外来)、遠藤史隆先生(臨床腫瘍科外来)、石井勇吾先生(乳腺外来)、手術応援は武田大樹先生にお手伝いいただいております。

また、今年度は口田先生の執刀手術に佐々木章教授、馬場誠朗講師に来ていただきご指導賜りました。今年度も大学医局からたくさんの派遣をいただき医局の先生方には大変感謝しております。この場を借りて深謝申し上げます。

2025年の手術件数は全手術数279件でした(前年度314件)。全身麻酔手術数255件(286)、鏡視下手術数127件(115)、緊急手術数は16件(28)でした。

前年度と比較しますと、全手術数が35件減少しましたが、癌症例数はほぼ変わりありませんでした。緊急手術に関しては、ここ数年減少傾向にはありましたが、純粋に人口減少の影響なのか今年度は著明な減少がみられました。

中村先生は、大腸グループで学んできたことを関連病院へ還元してくれており、質の高い医療を圏域の患者さんに提供してくれております。また、宮古病院時代に川村英伸先生から受け継いだヘルニア関連手術にも積極的に取り組んでおります。生活面では、いつでもサッカーの試合に出られるように毎日ランニングを欠かさず体力維持に励んでおります。口田先生は、大腸癌、胃癌とがん症例の執刀も多く、また、学術的にはAIによる手術支援関連の演題を多数の



学会で発表し、第87回日本臨床外科学会学術集会の専攻医セッションでは、「深層学習を用いた腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における手術フェーズ自動認識モデルの構築と評価」という演題名で最優秀演題賞を受賞しました。今後のさらなる研究の進展に期待です。

専門医に関しては、中村先生は消化器外科学会専門医、口田先生は外科学会専門医に合格し、着々とキャリア形成を図っております。

来年度の当院の研修医は、研修医担当の方々が頑張ってくれた成果もあって募集定員5人に対し見事フルマッチすることができました。あとは全員国試合格突破してくれることを願っております。

昨今気になっているのは、全国的に若手医師の外科志望が減少していることです。特に消化器外科医は、現在の約1万5200人から2040年には約9200人へと約4割の減少が予測されています。外科医は手術や緩和医療を通じて患者の命に直接関わり、地域医療を支える重要な役割を担っており、外科医が不足すれば十分な医療を提供することが難しくなると思われます。次世代が安心して外科を志すためには、タスクシフトなどによる負担軽減に加え、働きがいやキャリアを支援する体制整備が不可欠です。日本外科学会や日本消化器外科学会からも提言がなされていますが、厳しい病院経営の現状では、診療報酬から直接インセンティブを支給することは容易ではなさそうです。県レベルの対応には困難も多く、国主導による政策の早期実現が望まれます。

いろいろと大変な状況下ではありますが、引き続き来年度も本圏域の外科診療に貢献していきたいと思っております。今後ともご指導、ご支援の程、何卒宜しく申し上げます。

(文責：御供真吾)

Iwate Prefectural Karumai Hospital

岩手県立軽米病院

令和7年度の軽米病院の近況報告をさせていただきます。例年通り外科医局からの応援は、川島先生、川上先生、瀬川先生、菊池先生、天野先生、石井先生など本当に多数

の皆さんの応援を受けております。佐々木教授、新田教授には本当に感謝に絶えません。

昨年より伊藤浩平君の派遣があつて、外科医2名体制となり非常に助かりました。彼には内科・外科疾患を問わず急性期から緩和ケアまで主治医になっていただき、医師としての懐を深めてもらっています。そして、八戸赤十字：藤沢

先生のお計らいで週1回手術研修もさせていただいています。当院では手術がないので、本当にありがとうございます。

またせっかくの機会なので、学会発表や論文にも取り組んでもらっていますが、以前と違って「倫理委員会」の審査が厳しくなっており、論文を投稿したところ、JIMA: 岩手医学雑誌からも倫理委員会を経ているかの指摘を受けました。そこで当院でも外部委員(弁護士)を入れた倫理委員会をきちんと立ち上げました。恥ずかしながら、過去のカルテから症例をまとめたものでも倫理委員会の承認が必要なのは知りませんでしたので、伊藤くんには感謝しています。

やはり古い頭で患者を見ているだけではダメで、新しい風(人)が入ってきてくれたことは感謝しております。今後とも医



局の皆様には、ご指導・ご鞭撻いただけるようお願い申し上げます。
(文責：葛西敏史)

Iwate Prefectural Kuji Hospital

岩手県立久慈病院

令和7年度の久慈病院の近況報告をさせていただきます。令和7年度は、院長 遠野千尋先生、藤井仁志、小泉優香先生の3名に加え、県立釜石病院より畑中智貴先生、岩手医科大学より琴畑洋介先生が着任され、皆川幸洋救急センター長を加えた6名で診療にあたっております。畑中先生は以前にも久慈病院で勤務されており、久しぶりの久慈での勤務となり、琴畑先生は初めの長期出張となっております。

外来診療には、小児外科外来に鈴木信准教授、乳腺外来に石田和茂先生、臨床腫瘍科として岩谷岳教授が毎月1回の応援診療に来て頂きました。手術応援には、医局からは佐々木章教授、新田浩幸教授、片桐弘勝准教授、八重樫瑞典講師に来て頂き、また葛巻病院の遠藤秀彦先生、北上済生会病院の藤原久貴先生、とみさわ甲状腺・乳腺と日帰り手術のクリニックの富澤勇貴先生にも来て頂き手術の指導をして頂きました。今年も医大医局からたくさんの先生を派遣していただき大変感謝しております。

令和7年の手術件数は全手術件数 226件(前年度288件)、全身麻酔下手術数 197件(241件)、鏡視下手術数128件(156件)、緊急手術数 23件(39件)でした。全手術件数、全身麻酔件数ともに減少を認めてしまいましたが、悪性疾患手術数は79件(71件)と増加を認めていることから、下肢静脈瘤やヘルニア、胆嚢摘出術といった良性疾患や緊急手術数の減少が影響していると考えられます。手術件数は減少しておりますが、今後も各手術での経験を大切にするとともに鏡視下手術での低侵襲手術を目指していきたいと考えております。また当院では、若手の先生に手術を多く行なってもらうように心がけており、来年以降も若手の先生に術者と



して多くの経験を積んでいってもらえればと思っています。

今年度から入院での化学療法を推奨しており、入院患者数の増加も認めております。また脳神経外科・脳神経内科の撤退に伴う脳出血やくも膜下出血のリハビリ目的の転院や不搬送の場合の入院も外科と総合診療科で担当しております。外科としての業務はもちろんのこと外科以外の業務を行い経験を積むことで医師としてスキルアップをすると共に今後も全員で協力しながら診療を行なっていきたいと考えております。

学術活動としては、2025年9月27日に第16回日本医療マネジメント学会岩手県支部学術集會を遠野院長が会長として開催されました。また各々が学会などに参加しております。今後も学会参加はもちろんのこと論文執筆活動も活発に行なっていきたいと考えております。

当院は盛岡から2時間以上かかる遠方の病院ですが、医療の均てん化や新しいことへのチャレンジ精神を持ちながら地域のニーズ・個々の病態に応じられるよう日々の診療を行っております。来年度も引き続きスタッフ一丸となって、久慈市、洋野町、野田村、普代村からなる医療圏のニーズに外科診療で貢献していきたいと思っております。

今後とも医局先生方、関連病院の先生方のご指導・ご鞭撻、ご支援の程、何卒よろしく願い申し上げます。

(文責：藤井仁志)

盛岡赤十字病院

2025年の盛岡赤十字病院外科の近況についてご報告申し上げます。

2025年は、大山健一、西成悠、佐々木智子、大塚観喜の4名体制でスタートしました。4月には大塚の異動に伴い、下沖美里(1年ぶり2回目)を新たに迎え、引き続き4名体制にて診療を行いました。

昨年に引き続き、毎週水曜日にはふるだて加藤肛門外科クリニックより加藤久仁之先生に手術応援をいただき、肛門疾患の執刀のみならず、チーム若手(下沖・佐々木)への手術指導も賜りました。小児外科領域に関しては、畠山元先生(緩和ケア科併科)に加え、月2回小林めぐみ先生に診療・手術応援をいただきました。

また、月1回のゲノム外来として、臨床腫瘍科の岩谷岳教授にも来院いただき、がんゲノム医療に関するご指導・ご助言を賜りました。2023年6月より当院で導入したctDNA検査(OTSアッセイ)は、大腸癌・胃癌を中心に日常診療においても継続して活用しており、導入開始以来30症例で適応拡大が進んでいます。

外来診療におきましては、隔週月曜日の診療応援として、岩手医大肝胆膵グループの先生方にご来院いただきました。日々の多忙な診療の中、ご尽力いただき、誠にありがとうございました。

さて、本年度の当院手術件数は、総手術468件、全身麻酔手術407件、緊急手術41件、腹腔鏡手術344件でした。胃癌・大腸癌をはじめとする悪性疾患についても、チーム若手が積極的に執刀の機会を与えていただき、全手術件



数の60%強を執刀させていただきました。また、手術以外の日常診療においても、チーム若手が主体的に外来診療や化学療法などに携わり、それぞれ着実に経験を積み重ねております。そして今年度は、下沖・佐々木の両名が新たに消化器外科専門医を取得することができました!

結婚・出産・育児といったライフイベントと専門性の両立が求められる時代にあっても、安心して診療に専念できるよう、周囲の先生方に温かく環境を整えていただきながら診療を継続してまいりました。私事ではございますが、絶賛イヤイヤ期2歳男児の子育ての最中にありながらも、日常診療や研究活動に全力で携わることができたのは、周囲の先生方の多大なるご理解と温かなご支援があつてこそであり、この場をお借りして深く感謝申し上げます。女性外科医が半数を占める当院においても、無理のない働き方と確かな手術教育の両立を大切にいただき、安定した診療体制を維持することができました。

今後も、地域医療を支える基幹病院としての役割を果たすとともに、安全で質の高い外科医療の提供、ならびに次世代外科医の育成に一層努めてまいります。

同門の先生方におかれましては、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

(文責:佐々木智子)

盛岡市立病院

1. 診療体制および人事

令和7年度の当科は、4月より常勤医師6名体制(箱崎将規外科第一科長、菅野将史外科第二科長、直島君成外科第三科長、佐藤慧外科第四科長、田金恵外科医長、岩佐友寛医師)で診療を開始いたしました。なお、6月には直島君成医師が退職され、「訪問診療クリニックみるまえ」を開院されました。これまでの当科への貢献に感謝申し上げますとともに、新天地でのご活躍を祈念しております。現在は同クリニックとも密な病診連携を図っております。

外来診療は月曜日から金曜日までの各担当医制を維持し、月曜午後の乳腺外来(岩手医科大学 天野医師)についても継続して実施しております。

2. 外部連携と手術指導

今年度も岩手医科大学より多大なるご支援を賜りました。佐々木章教授による手術指導をはじめ、新田浩幸教授、梅邑晃准教授、馬場誠朗講師にも手術応援をいただき、若手医師の出張応援と併せて深く御礼申し上げます。また、池田外科・消化器内科医院の池田健一郎先生、とみさわ甲状腺・乳腺と日帰り手術のクリニック盛岡の富澤勇貴先生、松尾医院の松尾鉄平先生におかれましても、患者様のご紹介や診療応援をいただき、地域医療の維持に努めてまいり

ました。

3. 診療実績と高度医療への取り組み

入院診療は主に6階病棟にて行い、月曜日から金曜日まで連日の手術枠を運用しております。毎週木曜日夕方には消化器内科との症例検討会を実施し、診療科間の緊密な連携を維持しています。

- ・ロボット支援下手術：菅野・佐藤の両医師を中心に積極的に取り組んでおります。本年度は佐藤医師の着任に伴い「ロボット支援下結腸癌切除術」を新たに開始いたしました。昨年度を上回る症例数を確保しており、次年度もさらなる適応拡大を目指します。

- ・高度侵襲手術：肝胆膵領域において、菅野医師を中心に安全性に配慮した高度侵襲手術を継続しております。

4. チーム医療とコメディカル連携

- ・クリニカルパス：手術および化学療法のパスを運用し、治療経過の共有と入退院の標準化に努めております。

- ・周術期・化学療法管理：皮膚・排泄ケア認定看護師や病棟スタッフとの協力による術後指導、また癌化学療法認定看護師や薬剤師との連携による副作用対策の強化など、多職種チームで安全な医療を提供しております。

5. 地域貢献活動

7月には「盛岡市立病院デー」の一環として「キッズ外科



手術体験セミナー」を開催いたしました。小中学生を対象に、Da Vinciの見学、縫合実習、腹腔鏡鉗子の操作体験等を行い、盛況のうちに終了しました。将来の医療を担う子供たちへの啓発活動として、今後も継続してまいります。

6. 手術実績（令和7年1月～12月）

鼠径ヘルニアや胆嚢摘出術の症例数を維持しつつ、大腸癌およびロボット支援下手術の症例数を増加させることができました。

7. 令和8年度に向けて

今後も外科手術の安全性を最優先に掲げ、岩手医科大学ならびに近隣医療機関との紹介・逆紹介の連携をより一層深めてまいります。多様化するニーズに柔軟に対応し、手術件数のさらなる増加と質の向上に向けてスタッフ一同邁進する所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

（文責：箱崎将規）

2025年 外科手術実績		術式	
部位	良性	悪性	
食道	5		腹腔鏡下幽門胃切除 5
胃	5	16	幽門胃切除 4
小腸	1	1	胃全摘 2
十二指腸			腹腔鏡下大腸癌切除術 29
大腸	10	79	ロボット支援下直腸切除 30
虫垂	35		腹腔鏡下人工肛門造設術 10
肛門	5		腹腔鏡下直腸固定術 10
胆嚢	126		
肝臓		12	腹腔鏡下肝切除術 12
胆管			肝切除術(部切除) 3
膵臓		6	膵頭十二指腸切除 4
膵管			膵体尾部切除 2
卵巣	1		
子宮	1		腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 173
ヘルニア	173		腹腔鏡下腹壁疝ヘルニア修復術 10
腹膜炎	9		腹腔鏡下胆嚢摘出術 122
尿管	1		腹腔鏡下虫垂切除 35
腎臓	7	2	
乳腺	1	2	
気管切開	1		
胃瘻	3		
CV	2	38	
小手術	17		
その他	39		
手術数合計	427	157	
全身麻酔	584		
局所麻酔	47		
腰椎麻酔			
手術数合計	631	(重複)	
緊急手術	46		

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

岩手県立釜石病院

2025(令和7)年度の県立釜石病院の外科は、坂下院長のもと、畑中智貴先生・田金恵先生の後任として4月に赴任した石黒と、釜石病院は2年目となる熊谷秀基先生の、実働2名体制でした。

個人的には、釜石は3度目の赴任です。その昔、「県釜」には外科医が5-6名いて緊急手術や重症管理もよくやっていた。世の中はうつろうもので、常勤医師数減少と働きかた改革により夜間や土日の手術は縮小しています。手術

方法が大きく変化したことと同様、これも時代の流れとうけとめた1年でした。

医局から多くの支援をいただいたおかげで、釜石・大槌の医療圏の唯一の急性期病院である当院は、地域の外科としての役割を果たしてこれました。専門外来は、以前と同様に食道専門外来に臨床腫瘍科 岩谷岳先生、乳腺外来は県立中部病院から変わりましたが、いずれも月1回の診療応援をいただいております。手術応援・当直・外来診療でも外科の医局(臨床腫瘍科・小児外科も含め)から引き続き派遣をいただいております(順不同で、遠藤史隆先生、高橋真人先生、藤澤良介先生、菊地晃司先生、下沖美里

先生、徐光仁先生、小山亮太先生、石井勇吾先生、岩崎崇文先生、嶋田拓明先生、佐々木教之先生、木村拓先生ほか)。県立大槌病院から石川徹院長、県立宮古病院から中村侑哉先生にも支援いただきました。甲状腺関連については、大槌で開業している小笠原聡先生に診療・手術についてご協力いただきました。症例によっては臨時の手術応援を医局に依頼することもあり、佐々木章教授にくわえ、馬場誠朗先生、八重樫瑞典先生にいらしていただきました。

当院の手術執刀のエースは熊谷先生となり、石黒は主にスコープをもっていましたが、手術件数は173件、うち全身麻酔件数は148件、緊急手術9件、鏡視下手術107件となりました。熊谷先生は、一生分かもしれないくらい結腸の脾彎曲を遊離していました。

沿岸ではあいかかわらず抗がん剤化学療法や他科も含めた緩和ケアが外科のタスクとして大きなウェイトをめています。



古いやりかたがいいとはかぎりませんが、今後当院の立ち位置も変わっていく可能性はありますが、「守備範囲の広い外科医」のイメージを釜石で感じていただきたいものです。釜石・大槌は、病院だけでなく医師会もふくめて独特のよい雰囲気があります。いちど赴任するとクセになるかもしれません。おすすめです。今後ともご支援・ご指導・ご鞭撻よろしくおねがいします。(文責：石黒保直)

Iwate Prefectural Miyako Hospital

岩手県立宮古病院

2025年春は、院長である私、佐藤を含め、多くの外科医師が入れ替わる節目の年となりました。新体制となった後も、外科チームの医師一人ひとりが献身的に診療に従事し、県立宮古病院を支えています。

藤社勉先生は県立山田病院の院長に就任し、当院副院長との兼任体制となりました。多忙な中、週1回の外来・手術応援に加え、必要に応じて追加の手術応援にも駆けつけていただいています。唯一継続勤務となった細井信之先生は、外科長として腹腔鏡手術を中心に外科チームを牽引してくれています。

菅野正紀先生はご家族を伴って着任され、小児科医である奥様と協力しながら子育てと診療を両立し、力を尽くしてくれています。地元・宮古市出身の對馬真緒先生は、藤社先生の指導のもと乳癌治療を中心に、緩和ケアにも積極的に取り組み、幅広い分野で貢献してくれています。

国立国際医療センターから派遣された外科専攻医である保高哲人先生は、1年間の予定で主に手術経験を積む目的で遠方より着任しましたが、多くの手術に加え、幅広い救急患者の診療にも積極的に携わってくれています。

また、大学医局からは安藤太郎先生、八重樫瑞典先生に毎週診療応援をいただき、さらに当直応援にもご協力いただきました。

外科チームの先生方の尽力により、私自身は院長としての病院運営・管理業務や、他診療科の人員不足への対応に、



より多くの時間を割くことができています。

かつて県立中央病院に次ぐ規模を誇った県立宮古病院ですが、医療圏域の人口減少に伴い病床数を段階的に削減し、現在は一般病床230と中規模病院と言っても良い規模になっています。また、救命救急センターを併設する大船渡病院や久慈病院と比較すると、人員や施設面で不利な点も少なくありません。令和6年度には大規模改修を予定していましたが、医療局の財政状況の悪化や人件費・資材費の高騰を背景に、改修計画そのものが中止となりました。

このように決して十分とは言えない職場環境ではありますが、広大な圏域における唯一の基幹病院として、コロナ禍後は前院長・川村英伸先生の時代から高い病床稼働率を維持し、今年度も目標を上回る入院患者数を確保しています。全体として業績が伸び悩む県立病院が多い中、当院は誇るべき実績を積み重ねていると考えています。

循環器・脳血管疾患、小児・周産期疾患を含む幅広い分野の急性期医療や高度医療を担う中で、外科チームはがん診療および外傷診療の中核として重要な役割を果たして

います。その結果、当院は地域医療の中心となる基幹病院としての機能を維持できているものと考えています。

今後も県立宮古病院外科チーム一同、力を合わせて地域医療に貢献してまいります。引き続き、大学医局ならびに同

門の先生方のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(文責：佐藤 一)

Kitakami Saiseikai Hospital

北上済生会病院

北上済生会病院活動状況 2年目 を報告します。

外来紹介患者数、化学療法施行症例数が増加しています。これに伴い、手術件数も昨年の約2倍まで増えています。特にヘルニア疾患、乳腺疾患、肛門疾患の症例が増加しました。内容に関して様々な指摘があるかと思いますが、関連施設内において、中部地区において、北上済生会病院外科の存在感を示したと考えています。地域からの信頼維持のため治療評価を下げることは万一にもできません。重大合併症発生防止は当然ですが、今年は鼠径ヘルニアや乳腺術後の hematoma や seroma のような細かい合併症発生も含めて発生率0を目指して取り組みたいと思います。今後もさらなる症例数増加が見込まれます。忙しい環境では治療以外にも諸問題が発生してきます。これらにも適切に対応していきたいところです。2025年も安部彦満先生、千田雅美先生、佐々木盛光先生、岡本和美先生、北上及び花巻地区の各先生方にお力添えを頂きました。2026年もより期待に応えられるように努力いたします。

2025年の診療応援です。講座からは佐々木章教授、新田浩幸教授、鈴木信准教授、梅邑晃准教授、八重樫瑞典講師、木村拓先生、岩崎崇文先生に、緩和ケア科からは鴻巣正史講師、中村聖華先生に、臨床腫瘍科からは岩谷岳特任教授に領域指導のためご尽力頂きました。また、昨年に引き続き、池田健一郎先生、玉澤佳之先生、菊池信太郎先生、冨澤勇貴先生にも診療応援のご助成を頂きました。さらに、2025年は肛門疾患において加藤典博先生、加藤久仁之先生に、ヘルニア疾患において川村英伸先生に、乳腺疾患において松井雄介先生に修練強化のために指導をお願いし、また、藤原休暇時のサポートを箱崎将規先生をお願いし、全て快く引き受けて頂きました。豪華なスタッフ陣で治療に当たった1年間であり、加藤親子による父子鷹も感じられる粋な年末でした。誠にありがとうございます。

常勤スタッフの便りです。第一話。『受験料を払い、合格後もさらにお金を払う。ほったくりですね。』は、合格したからこそ話す事ができるメッセージです。橋元先生、消化器外科専門医合格おめでとございます。この先、乳腺



外科専門医、マンモグラフィー読影医 AS 評価、内視鏡外科技術認定、外科学会指導医等々の目標がたくさんあります。さらなる治療レベル向上のために外部からの評価を受ける続けることは大事なことです。第二話。橋元先生が胃癌術式の全て、大動脈周囲郭清を経験する。及び、膈頭十二指腸切除を経験する。です。ほぼ1例ずつで申し訳ありませんが、外科医としての達成感を満たすところはあったかと。第三話。『県立久慈病院に手術指導という形で声をかけてくれた遠野千尋先生と藤井仁志先生、高橋真人先生(現岩手医科大学)、ありがとうございます。』です。長らく胃外科医をしていたつもりですが、胃癌手術で声をかけられたのは10年以上前の八戸日赤出張時の2、3度程しかありません(御共真吾先生とした開腹胃全摘を覚えています)。久慈スタッフの期待に応えたかったのですが、時間もかかり、画面背景が赤かったです。申し訳ありません。第四話。2024年の天野怜先生、棚橋洋太先生に代わり、2025年は岩崎崇文先生が駆けつける。です。血だらけになりながら膈上縁郭清していた時間、胃切除したら断端陽性と判断した瞬間、玉澤先生が来るまで2人でPDをしていた時間。想像以上にピンチが多かったですかね。こちらは昔同様に先生にストレスだけかけていましたが、先生は八重樫先生の指導を得る機会をくれました。第五話。元 岩手医科大学救急医学分野 教授 井上義博先生の虫垂炎診断を2次評価する。です。約四半世紀前、虫垂炎診断はCTではなく、井上先生、藤野先生、小野寺先生のエコーで決まると思っていました。その思い出のままにいましたが、まさか、北上の地で井上先生から判断しにくい症例があると精査依頼の電話があるとは思いませんでした。評価はCTでさせて頂きました。

北上済生会病院外科の未来です。直近では、2026年1月から大塚 Jr. 先生が週1回手術の勉強に来ることが決まりました。NBA ならば、橋元先生とどのようなケミストリーを築くかに期待しています。ということですね。まさかの no chemistry なら、ドラマ教場のごとく。君達にはここをやめてもらう。いつにする? 何なら今でもいい。と話そうと思っています。楽しみです。少し先の目標としては、もっと病院の外へ出てみようと思っています。県立久慈病院へ呼ばれたように他の関連病院とも交流できればとも考えますが、小さい話でも面倒な事もありそうです。北上、花巻を中心とする医療圏は非常に恵まれた環境で、年間1200件ほどの手術をこなす岩手県立中部病院、ロボット手術を行う岩手県立胆沢病院もあります。2024年より橋元が中部病院外

科で乳腺手術の勉強をしており、今はミセス梅邑より色々と薫陶を受けています。済生会病院では各先生の助言を蓄積し、『今はこうしただけど、あの先生はこうやるらしい。あの先生はここがポイントと話していた。こんなことで失敗したと話していた。』というような、多くの選択肢が継承できる環境を作るのが目標です。自分もより交流を広げていきたいと考えています。面倒な事があっても、こちらの方が楽しそうです。

昨年の繰り返しとなりますが、北上済生会病院外科は2024年の滑り出しから一度も減速する事なく加速を続けています。2026年、当院はさらなる飛躍ができると確信しています。

(文責：藤原久貴)

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

岩手県立千厩病院

巖刀会の先生方には、いつも大変お世話になり感謝しております。2025年度における岩手県立千厩病院の近況につきましてご報告いたします。

昨年度まで千厩病院を支えてくださっていた佐藤一先生、塩井義裕先生、對馬真緒先生からバトンを引き継ぎ、今年度は病院長 阿部薫先生、総合診療外科長 船渡治先生、医長 大塚観喜の新体制で診療を行っています。

当院は麻酔科の先生がおらず、透析・外来業務の看護師が持ち回りで器械出しを行っている状況です。個人的には自家麻酔かつICUがない病院での勤務は初めてであり、暗雲立ち込めるスタートとなりました。しかし、阿部薫先生、船渡治先生、ならびに診療応援にいらしていただいている先生方からのご指導のおかげもあり、大きな問題もなく経過することができました。2025年の当院の全身麻酔手術件数は、この原稿を書いている時点で116件と、昨年と比較し減少傾向ではありますが、うち腹腔鏡下手術件数は90件、78%、ほぼすべての症例を私の手術指導のため執刀をさせていただきました。赴任した当初は器械出しができるスタッフが少なく、週のうち2日しか手術できる日がありませんでした。その後、スタッフの育成が進むことで、週3日の手術が6月頃から可能になりましたが、緊急手術が院内発症症例のみに限られてしまい、これらが手術件数減少に関与していると思われま

す。千厩病院は広域地域病院という位置づけで、広範な東磐井地域の夜間救急患者受け入れ、透析医療、手術治療、地域包括医療病棟の設置など、地域医療として幅広い領域



を任されております。私が赴任し、一番感じる事としては、当院の力のみではなく、基幹病院である磐井病院や地域病院の大東病院、訪問医療や地域に根差した開業医の先生方と協力させていただくことで、地域医療が成り立っている点です。実際に、一関市医師の先生方と2か月に1度症例検討会を開催し交流をはかることで、シームレスな患者紹介を可能にしております。今後も他院の先生方と連携し、より良い地域医療を目指し精進して参ります。

岩手医科大学外科学講座からは、佐々木章先生、八重樫瑞典先生より手術指導をしていただき、様々な先生に日当直応援をしていただきました。西成尚人先生、下沖収先生、竹花教先生、西塚哲先生、小原真先生、松谷英樹先生、藤井大和先生には手術、外来診療応援にお越しいただきました。皆様ご多忙の中、千厩を含めた東磐井地域の医療を支えるためにお力添えをいただき、誠にありがとうございました。

たくさんの方々にお世話になりながら、なんとか診療を保っている状況ではありますが、2026年も岩手県南の医療を支えていくため日々精進して参ります。今後とも巖刀会の先生方からのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

(文責：大塚観喜)

Iwate Prefectural Esashi Hospital

岩手県立江刺病院

巖刀会の先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年度の当院の近況を御報告申し上げます。と共に、当院からの最後の寄稿とさせていただきます。

今年度は3年ぶりの異動があり、石黒副院長から松井医師に引き継ぎとなりました。いつも診療・宿直応援に来ていただいている多数の先生方にはこの場を借りまして感謝申し上げます。お陰様で無事当直体制を組むことができました。

当院は昨年7月から病床削減により1病棟体制となったことで、1病棟に7科がひしめく状況となりました。当初は戸惑いが生じたものの、現在は入退院のやりくり等も慣れ、支障なく運営できています。過去の教室年報のデータが示していた通り数年前から手術件数は極端に減少し続け、後述するように時代の流れにより致し方ありません。そのようなことで当院のミッションとしてはこれからの高齢化時代、地域包括ケアシステムを支える地域密着型中小病院としての在宅療養支援病院を目指しております。超高齢化社会において大変重要な役割を担う施設であることを確信しており、維持したいところであります。このような中、松井先生は今年度をもって退職となり、開業という新たな道に進みます。今までの臨床経験を十分に発揮し、かかりつけ医として地域住民に寄り添った地域医療を提供していかれることを確信しております。添付写真は現在建設中(12月現在)の松井先生の新しい職場です。広大な土地に医院を構え、乳腺外科・内科・整形外科を標榜し、さらに北上済生会病院や県立胆沢病院への手術応援も行う等、幅広く地域に密着した医療を提供出来るような環境になっております(コメントを御参照ください)。そして私もまた3月末日をもちまして定年退職致します。紆余曲折ながらも12年間の院長職任務を終えることに安堵しております。大槌病院の4年間を合わせれば31年間県立病院に勤務したことになります。

平成11年より県立江刺病院へ勤務となり、平成16年から副院長(10年)、そして平成26年に院長(12年)となりました。江刺病院は今年度をもって27年目となり、急性期から回復期、慢性期医療、さらに在宅医療を経験させていただき、実に四半世紀の間お世話になったこととなります。大槌病院当時から続いていた1人科長の生活は江刺病院に移ってからも暫く続いておりましたので、医局や近隣病院からの当直を含めた診療応援でなんとか乗り切ることができました。この期間、関係各位に支えられ学位を取得できたことや介護支援専門員の資格を取得したことでより一層地

域に密着した診療に携わることができたこと、令和2年にへき地医療貢献者表彰、翌年には救急功労者表彰(総務大臣表彰)の受賞に至ったことは病院関係者並びに医師会の先生方、出会えた方々の支えやこの地でのご縁から頂くことができたものと感謝の念に堪えません。江刺での勤務は私のかけがえのない財産となりました。

地域病院として心掛けていたことは、医療・介護難民を防ぐことでした。それには外科医の傍らで地域住民への人生の残りの時間(命)の大切さと在宅医療の啓発であり、講演活動で後押しさせていただきました。大槌病院から始めた訪問診療を江刺病院の途中から再開し現在も継続してこられたのは、在宅医療を必要としている患者さん、そのご家族の存在と声を目の当たりにしたからです。介護支援専門員の資格を取得したことで介護・福祉の実状を垣間見ることができたことが起爆剤にもなりました。

地域病院で苦労したのはとにかく医師確保(他の診療科も含め)でした。臨床研修医制度により、地域・診療科偏在が顕著となり、地域病院に於ける医師確保が如何に大変であるかを身に染みて感じたものでした。奨学金養成医師や地域枠の医師偏在対策制度が存在するにしても、今後医療だけで高齢者を支えることは出来ない時代、高齢者医療を担う地域病院の維持を考えると、はたしてローテートする若い医師だけで成り立つのかが気がかりでなりません。

平成23年3月に起こった東日本大震災では当院の被害は殆どなかったものの、お世話になった大槌病院のことが頭から離れず、震災後9日目に宿直を兼ねた1泊2日に診療応援(避難所の大槌高校)に行きました。かつての町が戦場化したような凄まじい光景、災害医療の現場、さらに高校生・ボランティア等の炊き出しを目の当たりにしたことは一生忘れることはないでしょう。

令和2年から猛威を振った新型コロナウイルス感染症では2年間お盆や年末年始もない大変な状況乗り越えましたが、以前からの少子高齢化の波で患者減少と裏腹に高齢患者の増加、さらには地域医療構想、並びに地域包括ケアシステムから病院機能の在り方、機能分担・連携強化により徐々に手術件数は減り、時代の変化を実感したものです。これらのことから地域包括ケア病床を立ち上げ、さらに令和6年度からは2病棟から1病棟へと病床削減に至りましたが、当然ながら病床利用率が上昇したことは皮肉なものです。

当院の外科は今年度をもちまして医局の関連病院から外れることとなります。時代の流れで医師不足、医師・診療科偏在、地域医療構想による規模縮小・病院機能分担のあお

りからやむを得ない状況となりました。今までの足跡を辿り、私の知る限りでの歴代の当院の外科常勤医を挙げてみます。

昭和 59 年～昭和 63 年(4 年) 及川和彦先生(宮城県築館町で開業)、平成元年～平成 10 年(約 10 年) 平田善久先生(令和 2 年 4 月ご逝去)、平成 10 年～平成 11 年(約 1 年) 千田雅美先生(北上で開業)、そして平成 11 年～令和 8 年 3 月(27 年) 私です。また、私と共に常勤医として働いて頂いた先生方は、平成 13 年 4 月～平成 17 年 3 月(4 年) 遠野千尋先生(県立久慈病院 院長)、平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月(3 年) 石川徹先生(県立大東病院 院長)、平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月(2 年) 塩井義裕先生(かづの厚生連病院)、平成 26 年 4 年～平成 29 年 3 月(3 年) 菅野公德先生(都南で開業)、平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月(2 年) 瀬川武紀先生(岩手医大附属病院)、平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月(1 年) 天野総先生(岩手医大附属病院)、平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月(3 年) 菊池俊弘先生(やまと在宅診療所)、令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月(1 年) 佐々木秀策先生(岩手医大高度救急センター)、令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月(1 年) 伊藤千絵先生(盛岡で開業)、令和 4 年 4 月～令和 7 月 3 月(3 年) 石黒保直先生(県立大槌病院 院長)、そして令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月(1 年) 松井先生(前沢で開業予定)でした。さらに、在職中及びかつて手術応援としていらしてくださいました石田茂登男先生(乳腺外科いしだ外科・胃腸科クリニック)、佐藤雅夫先生(佐藤雅夫クリニック)、旭博史先生(盛岡赤十字病院)、佐々木章教授、若林剛前教授、新田浩幸教授、大塚幸喜先生(藤田医科大学)、さらに外来診療応援として、紫波診療センターから松尾力先生が月 2 回火曜日に、県立中部病院から遠藤秀彦先生→伊藤達朗先生→吉田徹先生が隔週水曜日、そして医局から玉澤隼之先生、高金明典先生、高清水清治先生、秋山有史先生、御供真吾先生、板橋哲也先生、加藤久仁之先生、青木毅一先生、肥



田圭介先生が週 1 の外来応援に来て頂いておりました(記載漏れの先生にはごめんなさい)。さらに宿日直応援と、このように多くの先生方の御尽力頂いたことに改めて心より感謝申し上げます。と同時に、細やかな配慮を頂いた教授・医局長をはじめ、お世話になった皆様に在職中不徳の致すところに関しましては、この場をお借りし改めてお詫び申し上げます。院長職になって如何に周りから支えられていたことや、自分の無力さを改めて実感したものでした。これからは周りの支えになれるよう還元していきたいと思っています。

定年を迎えるに当り、今後世の中がどのような医療・介護に、そして私の人生が待ち構えているのか未知の世界です。本当に潮目が変わったのを実感しております。今や 2040 年に向けて「高齢者救急」「医師偏在、地域偏在」「人口減少からくる働き方改革」「医師養成機能」「介護人材不足」等、社会保障に関わる課題は山積しており、未来のある頼もしい後輩達にゆだねたいところですが、これからの超高齢少子化多死時代、何かしらの関わり合いを模索しながら第 2 の人生を老いに抗うことなくありのままに受け止め、健康に留意しつつスポーツにも励み、有意義に楽しく過ごして参りたいと思っております。定年後も当分の間は当院の外来を継続させていただきますので引き続き宜しくお願いいたします。

あと数ヶ月で定年を迎え今この原稿を書くにあたり、寂しいようなほっとしたような複雑な気持ちが交錯しております。ようやく今までの孤独感や地域病院ならではの責務や理不尽なことをもってすれば、嬉しい気持ち、晴れ晴れとした気持ちが大きいでしょうか。残りの期間をしっかりと締めくくりたいと思います。

それでは岩手医大外科医局、皆様の益々のご健勝、ご活躍をお祈りし、今回をもって私の、そして江刺病院の最後の寄稿と致します。長い間大変お世話になりました。ありがとうございました。それでは皆様お元気で。(文責:川村秀司)



※江刺病院の松井です。川村秀司院長からの熱いメッセージが載っていることと思います。私からは少しだけ。ただいま 2026 年 5 月の開業に向けて準備を進めている最中です。教授をはじめこれまで多くのことをご指導くださった同門の先輩方、そして日々支えてくれた後輩たちに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後は生まれ故郷である岩手県奥州市にて、より一層地域医療へ貢献していけるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院

函館五稜郭病院の2025年の近況報告をさせていただきます。

2025年は、高金明典先生(2月退職)、小林慎先生、船渡治先生(3月退職)、木村仁先生、米澤仁志先生、木村聡元先生、千葉丈広先生、佐藤慧先生(3月退職)、藤野紘貴先生(3月退職)、村松里沙先生、川岸、そして4月からは札幌医大より木村康利先生、三浦亮先生、佐橋俊先生が赴任され、診療にあたってきました。

今年1番の出来事といえば、やはり、高金先生が退職されたことではないでしょうか。2006年4月に外科科長として赴任されてから19年間、五稜郭病院外科の“ドン”として私達後輩をご指導いただきました。いつも厳しく(朝カンファや手術のときにビクビクしていたのが懐かしい…)、たま〜に優しく…困ったときはビシッと守ってくれる姿が印象に残っています。今は紹介状に高金先生の名前をみつけると、ほっこりとした気分ひたっています。長い間、ありがとうございました。

4月からは、木村(康)先生の率いる新体制となり、消化器外科科長の木村(聡)先生、乳腺外科科長の米澤先生のもとチーム制で診療にあたるようになりました。2025年の総手術件数は1022件、そのうち全身麻酔下手術が1009件、緊急手術が93件でした。悪性疾患としては、甲状腺癌が8件、食道癌11件、胃癌55件、大腸癌202件、肝胆膵癌66件、乳癌220件でした。中でも、ロボット支援下の肝臓と膵臓手術も始まり、ロボット支援下手術の総件数103件(胃癌13件、大腸癌79件、肝癌5件、膵癌6件)でした。2026年からはダヴィンチがもう一台導入され、さらに手術件数が増えることと思います。

木村(康)先生は、身も心もスマートな先生で、いつもアグレッシブに肝胆膵の手術を執刀しています。小林先生は変わらずに救急対応と食道の手術をこなしており、いつまでも若い姿が印象的です。木村(仁)先生は、どんな相談にも

※昨年6月に諏訪湖(下諏訪ローイングパーク)で開催された全日本マスターズレガッタに参加してきました。種目はシングルスカルとダブルスカルのダブルエントリーです。諏訪湖の会場は初めてであり、ボート場として立派に設備されており、遠方には富士山がはっきりと望める素晴らしい環境でした。しかも当日は天気に恵まれ、波もなく最高のコンディションでした。カテゴリはF(60~64歳部門 1,000m)で、ダブルスカル1組では残念ながら3位に終わりましたが、シングルスカル2組では今回遂に1位を勝ち取りました。今回の全レース参加者の中では最高齢91歳でしたので、まだまだ私はヒヨッコです。今年は金沢で開催されますので楽しみです。引き続き頑張ります!



早く対応してくれる頼もしいお兄さんの存在です。米澤先生は、今年度から乳腺外科科長となり、数多くの乳癌診療にあっています。もちろん、子育ても一生懸命にしております。木村(聡)先生は、今までと変わらずにロボット手術に勤しんでいるようです。負傷したアキレス腱の後遺症もなく?今年も函館マラソンをフルで走り切ったようです。千葉先生は、仕事も飲み会も一生懸命な姿が印象的!真面目で色っぽい?(病棟師長が言うには色っぽいらしい)千葉先生が飲み会でみせる“陽気な”でへへ〜とした姿…いつも楽しませていただいています。三浦先生は、医師として同期の先生でロボット手術を淡々とこなしています。たまに見せるニヒルな笑いと眩きが面白く興味深い存在です。村松先生は濡れ髪の女王!朝シャン後の濡れた髪を乾かすまもなく走って出勤しています。昨年同様、手術も飲み会も全力で頑張っていて、めんこいです。佐橋先生は、慧君をちっちゃくした感じ…あの太谷になんとなく似ています。気持ちも仕事に取り組む姿勢もまっすぐな好青年で、手術の執刀も外来も先輩のお世話も頑張っています。ベロンベロンになった千葉先生を優しく介抱してくれる姿も素敵です。

私、川岸は、同級生で独身仲間の慧君が転勤になり、しょんぼりしています。寂しがっても仕方ないので、淡々と仕事をして、新たな出会いを探しにいくことにしましょうか…。2025年の五稜郭病院もこんな感じで頑張ってきました。2026年も変わらず、努力してまいりますので、ご指導、ご鞭撻をよろしく願いたします。(文責:川岸涼子)

能代厚生医療センター

2025年の能代厚生医療センターはいくつかのトピックスがありました。まず、3月に有末篤弘先生が異動、石橋正久・畠山瑞生が残留、4月から大学院修了後の棚橋洋太先生（卒後11年目）と、秋田大学医学部胸部外科学講座より佐々木吉寛先生（卒後10年目）が赴任されました。佐々木先生は数年前に秋田厚生医療センターにて大瀧徹先生から内視鏡外科手術の指導を受けており、当院にあつという間に馴染んでくれました。棚橋先生にとって良きライバルかつ同志として、刺激的な存在となっております。

次に、畠山瑞生先生が8月に第一子となる男児を無事出産されました。現在は育児中ですが、外科医と育児との両立に向けて着々と復帰の準備をしているようです。

続いて、棚橋先生と佐々木吉寛先生が消化器外科専門医認定試験を同時に受けて、二人とも無事合格されました。ほぼ毎日の外来・手術、救急当番、検診マンモグラフィ読影などの業務の合間を縫って勉強していた努力が実を結び、大変喜ばしく思います。

そして、当院の名物看護師である見上靖子さんが2026年3月をもって定年退職されます。見上さんの厳しい指導や叱咤激励が無くなることを残念に思う諸兄もおられることと存じます。

最後に、能代山本地区の3つの急性期病院は以前から統合・再編成の必要性が言われておりましたが、2026年に病院再編成に向けた連携推進法人の立ち上げが決まりました。法人の具体的な業務や再編成に向けたロードマップは未公表ですが、当院にも少なからず影響することが予想され、今後の情報開示が待たれております。



さて2025年は新年度早々に新体制の視察および手術指導のため佐々木章先生にお越しいただきました。また例年に引き続き肝胆膵症例の新田浩幸教授を筆頭に、馬場誠朗先生、富澤勇貴先生、加藤久仁之先生より手術応援をいただき、残胃癌に対する腹腔鏡手術を導入する際には大山健一先生・西成悠先生に御指導いただきました。同門の先生方に心より感謝申し上げるとともに、引き続き御指導・御支援のほど何卒宜しく御願ひ致します。

2025年は全手術件数411件、全身麻酔手術件数321件で、棚橋先生と佐々木先生には4月から12月までに100件以上の手術を執刀してもらいました。石橋は症例の確保のために、開業医の先生方への挨拶周り、地区医師会主催の症例検討会「胃腸の会」への参加、日本臨床外科学会秋田県支部世話人の受嘱等を通じて当院の存在をアピール致しました。お陰様で多くの先生方から多数の御紹介をいただき、我々一同感謝の念に堪えません。今後ご愛顧を賜りたく存じます。

今回秋田大学から貴重な若手外科医を派遣いただいたことを皮切りに、能代は若手外科医がたくさん手術できる施設であることを医局の壁を越えて広く発信していく所存です。同門の皆様の益々の御活躍と御発展を秋田の地より祈念申し上げます。
(文責:石橋正久)

八戸赤十字病院

巖刀会の皆様、いつもお世話になっております。八戸赤十字病院の2025年の活動を報告いたします。

2025年3月をもって当院に長年御勤務された玉澤佳之先生が定年退職され、4月より藤澤健太郎、野田宏伸、有末篤弘、須藤佑介の4人体制となりました。

また、これまで同様に近隣の先生方と大学医局からの応援を頂きながら業務に当たっております。手術応援として南部町で開業されている川守田究先生、譜代村診療所の荒



谷宗充先生に週1回来ていただいております。

大学医局からは、外来応援に石田和茂先生、川島到真先生、手術応援に天野怜先生、菊地晃司先生にいらして頂

きました。先生方には大変感謝申し上げます。

さて当院の近況ですが、藤澤先生は4月より副院長に就任いたしました。もともと多岐にわたって病院の中心として活動されておりましたが、より責任のある立場として多忙な日々を送られています。

野田は4月より当院の医局長を拝命しました。他科との連携をスムーズに取れるように精進したいと考えております。また研修指導業務では青森県キャリアコーディネーター業務を拝命し、臨床研修指導の充実と外科医を志す若者が増えるように努力していきたいと考えております。

有末先生は2年ぶり4回目の勤務となります。小児外科領域の手術に加え、乳腺認定医として、当院の診療のさらなる充実に寄与していただいております。

須藤先生は昨年に引き続きの勤務となりました。より難易度の高い手術にも挑戦し、外来も継続して行うことで全体的な技量の向上に努めております。また大学院の研究も頑張っているようです。ご指導いただいている先生方には感謝申し上げます。

他に診療業務以外にも、化学療法、緩和、NST、感染、クリニカルパス、広報、RRT (Rapid Response Team)、災害対策等、病院全体の業務に関して外科スタッフが中心となって担当している分野が多岐にわたります。昨今多くの病院で経営難が続く中、引き続き病院の中心として盛り上げていければと考えております。

去る2025年12月8日、八戸市を震度6強の地震が襲いました。2011年の震災が頭をよぎるような大きな地震でしたが、幸い周囲の人的被害はありませんでした。その後も後発地震注意報が発令され、見えない脅威に備えて緊張感のある日々を過ごしました。実際避難したスタッフもおりますし、野田家では給湯器の配管が故障し、家の中が水浸しになりました。日頃の備え、緊急時の対応についての周知が改めて大切だと痛感するとともに、普通の生活ができるありがたさを再確認しました。

2026年はより良い年となりますよう、同門の先生方におかれましてもお体を御自愛いただき、今後とも御指導御鞭撻のほどよろしく願いいたします。(文責：野田宏伸)

Kazuno Kosei Hospital

かづの厚生病院

2025年4月から、川上亜紀子先生(平成29年卒)から塩井義裕(平成13年卒)に交代となり、小川雅彰先生との2人体制でスタートしました。

2025年の当院の全身麻酔手術件数が136件、うち腹腔鏡下手術件数は97件でした。腹腔鏡下手術数/全身麻酔手術数の手術率は71%でした。

患者さんの負担が少なく、満足度が高い手術を目指して治療しております。各種悪性疾患については、ガイドラインに基づいた化学療法を行っております。また、高齢化が進んでいる地域ですので、外科疾患に限らず幅広く地域に即した治療を行っております。

2025年には、従来の痔疾治療に加えてALTA療法を当院に導入するべく、塩井および小川先生ともにふるだて加藤肛門外科クリニックの加藤典博先生と加藤久仁之先生にALTA療法の手術見学に伺って御指導いただきました。当院でALTA療法導入にあたり、加藤典博先生・久仁之先生には大変御世話になりました。誠にありがとうございます。



いました。

岩手医科大学外科学講座からは、佐々木章教授と新田浩幸教授に手術応援・手術指導をしていただきました。また、診療応援いただきました岩谷岳教授、馬場誠朗医局長、菊地晃司先生には大変お世話になりました。また、毎週木曜日には、若手の先生方に当直していただき、急患の多い救急外来を支えてくださり深く感謝申し上げます。

2026年も、岩手医科大学外科学講座とかづの厚生病院外科がさらなる飛躍ができるよう頑張りますので今後ともご指導ご支援をよろしく願いいたします。

(文責：塩井義裕)

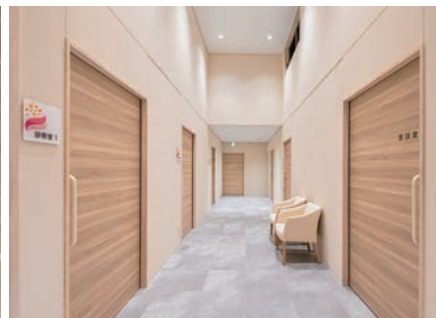
2025年
1月17日
開業

長野県上田市

乳腺外科

こまつ乳腺クリニック

院長／小松英明



2004年(平成16年)卒の小松英明です。大学在職中は、同門の先生方に大変お世話になりました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

2022年4月より私の出身地の長野県上田市にあります、国立病院機構信州上田医療センター乳腺内分泌外科に勤務しておりましたが、2025年1月に同市におきまして、当医療圏では初の乳腺専門クリニックとなる『こまつ乳腺クリニック』を開業致しました。

長野県は岩手県と同様、医師不足に常に悩まされており、本院が所属する二次医療圏は特に医師不足が深刻とされている(医師偏在指標が県内で最も少ない)地域になります。当然乳腺外科の専門医は少なく、同医療圏では私を含めて二人しかおりません。

したがって、地域の基幹病院にかかる負担(外来、手術)は非常に大きく、そして地域住民にとっても、検診で要精査となった場合や日常的に相談できる場所がありませんでした。

また、乳腺疾患の経験がある医療スタッフや、乳腺外科の存在を知っている地域住民も少なく、地域としても検診などへの啓発活動も行われていなかったため、まずは当院でスタッフ向け勉強会、地域住民へのセミナーを開催し、ピン

クリボン運動も始めていきました。

おかげさまで来院された方々からは、「気軽に専門医に相談できる場所ができて嬉しい」「これで遠くまで乳腺外科を探して通院しなくて良くなりました」「セミナーをいつも楽しみにしています」といった声を頂き、徐々に微力ながら地域に貢献できていることを実感しております。

日常臨床としては、乳腺疾患のみならず内科・外科も標榜し、休日の当番医も内科・外科を担当しております。通院している患者さんもこれには非常に驚かれますが、これも医局に所属していた時代に同門の先生方に御指導を頂いたおかげであり、感謝申し上げます。

上田市は『^{ひのもといち}日本一の兵』と評された真田幸村が活躍し、世界で初めて人工癌の発生に成功した山極勝三郎先生の出身地です。また長野市の善光寺や避暑地の軽井沢にも近い所でもあります。お近くにお寄りの際には、ぜひお声がけ下さい。

臨床以外に慣れない経営、労務、医療DXへの対応など、初めて経験する事も多く、とまどいも多いのですが、これからの地域の為に精進してまいります。

巖刀会の先生方には引き続き御指導を賜りますよう、何卒宜しく願い申し上げます。

外科紹介医療機関

2025年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
青森労災病院	玉澤直樹	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地
秋田大学医学部附属病院	渡邊博之	010-8543	秋田県	秋田市	広面字蓮沼44-2
安部医院	安部彦満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ内科・消化器科クリニック	阿部礼司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
飯島医院	飯島信	020-0668	岩手県	滝沢市	鶴飼狐洞1-277
池田外科・消化器内科医院	池田健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
石井内科消化器科医院	石井基弘	020-0112	岩手県	盛岡市	東緑が丘23-26
一関病院	佐藤隆次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
いなば御所野乳腺クリニック	稲葉亨	010-1412	秋田県	秋田市	御所野下堤2丁目1-9
岩手医科大学附属病院(矢巾)	森野禎浩	028-3695	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通二丁目1番1号
(公財)岩手県対がん協会	中野達也	020-0834	岩手県	盛岡市	永井14-46
(公財)岩手県対がん協会 すこや館	村上晶彦	028-3390	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通2丁目1-6
岩手県対がん協会いわて健康管理センター	中野達也	020-0864	岩手県	盛岡市	西仙北1-17-18
岩手県予防医学協会(含付属診療所)	田巻健治	020-0834	岩手県	盛岡市	永井4-42
岩手県立胆沢病院	鈴木俊郎	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立一戸病院	佐々木由佳	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字砂森60-1
岩手県立磐井病院	阿部隆之	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
岩手県立江刺病院	川村秀司	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23
岩手県立大船渡病院	星田徹	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立釜石病院	坂下伸夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立久慈病院	遠野千尋	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番
岩手県立千厩病院	阿部薫	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立中央病院	白田昌広	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立中部病院	川村英伸	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10
岩手県立東和病院	松浦和博	028-0115	岩手県	花巻市	東和町安俵6区75-1
岩手県立遠野病院	鈴木雄	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立二戸病院	小笠原敏浩	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立宮古病院	佐藤一	027-0096	岩手県	宮古市	崎鍛ヶ崎1-11-26
いわてスポーツ・整形外科クリニック	和田知樹	020-0851	岩手県	盛岡市	向中野字細谷地114
いわてリハビリテーションセンター	佐藤義朝	020-0503	岩手県	岩手郡雫石町	七ツ森16-243
岩見神経内科医院	岩見億丈	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-5-2
植田内科消化器科医院	植田修	020-0633	岩手県	滝沢市	穴口183-3
内丸病院	宮川朋久	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
内丸メディカルセンター	下沖収	020-8505	岩手県	盛岡市	内丸19-1
エールクリニック盛岡	菊地大輝	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-4-20 水晶堂ビル5F

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
おいかわ内科クリニック	及川 寛 太	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-18-46
奥州病院	佐藤 直 夫	023-0828	岩手県	奥州市	水沢区東大通り1-5-30
大手先内科循環器クリニック	織 笠 俊 樹	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-8-9
大日向医院	高橋 麻 依	020-0114	岩手県	盛岡市	高松2-9-9
大曲厚生医療センター	三 浦 康	014-0027	秋田県	大仙市	大曲通町8-65
おか乳腺クリニック	岡 きま子	024-0084	岩手県	北上市	さくら通り1丁目5-11
沖縄協同病院	伊 泊 広 二	900-8558	沖縄県	那覇市	古波蔵4-10-55
荻野病院	荻野 義 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1-6-12
おしゃち外科クリニック	小笠原 聡	028-1112	岩手県	上閉伊郡大槌町	大町6-5
小野寺内科医院	小野寺 正幸	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字向町148-1
おぼら内科・消化器内科クリニック	小原 啓 彦	025-0077	岩手県	花巻市	仲町5-8
おもと乳腺外科クリニック	尾 本 和	329-0111	栃木県	下都賀郡野木町	丸林624-1
介護老人保健施設希望	及川 忠 人	028-7303	岩手県	八幡平市	柏台二丁目8-3
かづの厚生病院	吉田 雄 樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
鹿角中央病院	高橋 今日子	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字六月田97
かつら内科クリニック	桂 永 行	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小坂小瀬13-2
亀田京橋クリニック	岸 本 誠 司	104-0031	東京都	中央区	京橋3-1-1 東京スクエアガーデンビル4F
川上医院	川 上 格	028-0516	岩手県	遠野市	穀町1-27
川久保病院	浮田 昭 彦	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
がん研有明病院	佐野 武	135-8550	東京都	江東区	有明3-10-6
北上済生会病院	福島 明 宗	024-8506	岩手県	北上市	九年橋3-15-33
ケイ・ティ・メディカル	太田 一 三	100-0005	東京都	千代田区	丸の内2-2-3
慶應義塾大学病院	福 永 興 壱	160-0016	東京都	新宿区	信濃町35番地
気仙沼市立病院	横田 憲 一	988-0181	宮城県	気仙沼市	赤岩杉ノ沢8-2
健生病院（津軽保健生協）	竹内 一 仁	036-8511	青森県	弘前市	大字扇町二丁目2番2
公園通りクリニック	才川 博 敬	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1-6-13-2F
孝仁病院	西成 尚 人	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
国保三戸中央病院	葛西 智 徳	039-0141	青森県	三戸郡三戸町	大字川守田字沖中9-1
国保藤沢病院	高木 史 江	029-3405	岩手県	一関市	藤沢町藤沢字町裏52-2
国立がん研究センター中央病院	瀬戸 泰 之	104-0045	東京都	中央区	築地5-1-1
国立病院機構盛岡医療センター	篠崎 毅	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
小坂消化器内科クリニック	小坂 崇	020-0834	岩手県	盛岡市	永井24地割3番地7
今野脳神経外科内科医院	今野 譲 二	023-0818	岩手県	奥州市	水沢区字東町33-1
埼玉県立がんセンター	影山 幸 雄	362-0806	埼玉県	北足立郡伊奈町	小室818
さいとう耳鼻咽喉科医院	齋藤 大 輔	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘3-18-3

か

さ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所			
佐賀大学医学部附属病院	野 口 満	849-8501	佐賀県	佐賀市	鍋島5-1-1	
坂の上野田村太志クリニック	田 村 太 志	024-0021	岩手県	北上市	上野町4丁目2-15	
ささきクリニック	佐々木 盛 光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836	
さとう消化器科内科クリニック	佐藤 慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5	
佐藤雅夫クリニック	佐藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7	
三愛病院	清 野 耕 治	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15	
三本柳かんのクリニック	菅 野 公 徳	020-0831	岩手県	盛岡市	三本柳23-10-5	
しおはたファミリークリニック	塩 畑 健	020-0015	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-6-8 monaka3F	
静岡県立静岡がんセンター	上 坂 克 彦	411-8777	静岡県	駿東郡長泉町	下長窪1007	
雫石大森クリニック	大 森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2	
昭和大学横浜市北部病院	坂 下 暁 子	224-8503	神奈川県	横浜市	都筑区茅ヶ崎中央35-1	
市立角館総合病院	伊 藤 良 正	014-0394	秋田県	仙北市	角館町上野18	
紫波中央小児科	武 藤 秀 和	028-3318	岩手県	紫波郡紫波町	紫波中央駅前2-3-94 オガールセンター1F	
しんたろうクリニック	菊 池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1	
すがさわ外科・内科クリニック	菅 澤 治 彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1	
鈴木肛門外科・守口内科（肛門外科）	鈴 木 俊 輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14	
鈴木内科医院	鈴 木 知 己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17	
鈴木内科神経内科	鈴 木 孝 輝	020-0111	岩手県	盛岡市	黒石野2-9-58	
関谷医院（内科小児科）	関 谷 敏 彦	023-1111	岩手県	奥州市	江刺区大通り5-7	
仙台往診クリニック	川 島 孝一郎	980-0013	宮城県	仙台市	青葉区花京院2丁目1-7	
せんだい総合健診クリニック	石 垣 洋 子	980-0811	宮城県	仙台市	青葉区一番町1-9-1	
総合花巻病院	槍 澤 公 明	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町4番56号	
総合水沢病院	遊 佐 透	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1	
総合南東北病院（郡山市）	紺 野 慎 一	963-8052	福島県	郡山市	八山田7-115	
高木丘クリニック	佐 藤 寧	025-0016	岩手県	花巻市	高木18-61-2	
高松病院	高 松 正 之	020-0115	岩手県	盛岡市	館向町4-8	
滝沢中央病院	山 内 広 平	020-0668	岩手県	滝沢市	鶴飼笹森42番地2	
竹花乳腺クリニック	竹 花 教	023-0852	岩手県	奥州市	水沢区山崎町8-1	
たにむらクリニック	谷 村 武 宏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小坂小瀬13-2	
ちえ内科・外科クリニック	伊 藤 千 絵	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-1-19	
ちだ内科・外科クリニック	千 田 明 紀	020-0824	岩手県	盛岡市	東安庭1丁目23-60	
東京大学医学部附属病院	田 中 栄	113-8655	東京都	文京区	本郷7丁目3番1号	
東北中央病院	田 中 靖 久	990-0064	山形県	山形市	和合町3-2-5	
遠山病院	千 葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14	
栃内第二病院	栃 内 秀 彦	020-0778	岩手県	滝沢市	大釜吉水103-1	

た

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
栃内内科医院	栃内 秀 貴	020-0084	岩手県	盛岡市	神明町10-35
栃内病院	白石 秀 夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
斗南病院	奥 芝 俊 一	060-0001	北海道	札幌市	中央区北1条西6丁目
とみさわ甲状腺・乳腺と日帰り手術のクリニック盛岡	富澤 勇 貴	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目5-23
とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック八戸	富澤 勇 貴	031-0042	青森県	八戸市	十三町1番地 ヴィアノヴァ2階-10
十和田市立中央病院	丹野 弘 晃	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8
なおしま医院	直島 淳 太	028-3441	岩手県	紫波郡紫波町	上平沢字川原田33-5
名古屋大学医学部附属病院	丸山 彰 一	466-8550	愛知県	名古屋市	昭和区鶴舞町65
成田内科胃腸科医院	成田 知 史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
南昌病院（帰厚堂）	木村 尚 人	028-3621	岩手県	紫波郡矢巾町	大字広宮沢1-2-181
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
はちのへ99クリニック	内海 謙	031-0004	青森県	八戸市	南類家5丁目1-8
八戸市立市民病院	水野 豊	031-8555	青森県	八戸市	田向3-1-1
八戸赤十字病院	紺野 広	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
八幡平市立病院	瀧山 郁 雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更25-328-1
花巻市石鳥谷医療センター	似内 郊 雄	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡5-47-2
花巻まつぞの内科循環器内科クリニック	佐藤 嘉 洋	025-0066	岩手県	花巻市	松園町1-12-48
林整形外科・内科医院	林 節	027-0061	岩手県	宮古市	西町3-3-7
東八幡平病院	及川 忠 人	028-7303	岩手県	八幡平市	柏台2-8-2
ひろし外科肛門科	吉田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目3番10号
ふるだて加藤肛門外科クリニック	加藤 典 博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1
ブレスト齋藤外科クリニック	齋藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6
平和台病院	伊藤 欣 司	028-3311	岩手県	紫波郡紫波町	犬淵南谷地110-5
細井外科医院	細井 義 行	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原1-1-2
堀江医院	堀江 圭	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	西徳田6-143
松井内科医院（二戸郡一戸町）	松井 美紀夫	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字本町58
松尾医院	松尾 鉄 平	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ2-21-23
松園第二病院	西田 淳	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3
三沢市立三沢病院	斎藤 聡	033-0001	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-65
みたけ消化器内科クリニック	齋藤 慎 二	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ4-11-46
南矢巾ハートクリニック	佐藤 義 浩	028-3615	岩手県	紫波郡矢巾町	南矢幅第6地割143番地31
みやもと内科クリニック	宮本 康 弘	020-0143	岩手県	盛岡市	上厨川字杉原101-4
未来の風せいわ病院	智田 文 徳	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1
見前ファミリークリニック	岩見 大 二	020-0831	岩手県	盛岡市	三本柳12-20-1
向中野クリニック	福士 信 哉	020-0851	岩手県	盛岡市	向中野五丁目29-1

な

は

ま

医療機関名	院長	郵便番号	住 所			
むつ総合病院	松 浦 修	035-0071	青森県	むつ市	小川町1-2-8	
盛岡市立病院	加 藤 章 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1	
もりおか静眠堂医院	櫻 井 伴 子	020-0034	岩手県	盛岡市	駅前通9-5 佐川ビル2階	
盛岡赤十字病院	藤 原 純	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1	
盛岡つなぎ温泉病院	関 博 文	020-0055	岩手県	盛岡市	繫字尾入野64-9	
盛岡南病院	田 中 英 治	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田13-18-4	
盛岡友愛病院	中 島 隆 之	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10	
や 山田クリニック	山 田 行 夫	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通1-13-8	
横須賀共済病院	長 堀 薫	238-0011	神奈川県	横須賀市	米が浜通1-16	
吉田消化器科内科	吉 田 俊 巳	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前8-20-16	
わ わたなべおしりのクリニック	渡 邊 陽太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3	

獲得研究費

科学研究費助成事業

【研究代表者】

1. **2023-2025 基盤研究 (C)**
「ctDNA 解析による UR-LA 肺癌 Conversion Surgery 適応症例の層別化と治療効果判定の確立」
研究代表者：片桐 弘勝 研究分担者：西塚 哲
2. **2023-2025 基盤研究 (C)**
「肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対する外科治療の改善機序と新規バイオマーカーの検索」
研究代表者：佐々木 章 研究分担者：梅邑 晃, 石垣 泰, 二階 春香
3. **2025-2027 基盤研究 (C)**
「食道癌患者の予後および QOL 改善における ctDNA モニタリングの臨床的有用性評価」
研究代表者：岩谷 岳
4. **2025-2027 基盤研究 (C)**
「ctDNA モニタリングから見た食道癌免疫療法の奏効メカニズムの解明」
研究代表者：遠藤 史隆 研究分担者：岩谷 岳
5. **2025-2027 基盤研究 (C)**
「小児肥満症における新規肥満関連健康障害リスク評価システムの構築」
研究代表者：鈴木 信 研究分担者：佐々木 章, 梅邑 晃, 藤野 順子, 小山 亮太, 和田 泰格
6. **2025-2027 基盤研究 (C)**
「内臓脂肪細胞由来の炎症細胞プロファイルと脂質代謝からみた肝線維化メカニズムの探索」
研究代表者：梅邑 晃 研究分担者：佐々木 章, 柿坂 啓介, 石垣 泰
7. **2024-2026 若手研究**
「HER2 陽性胃癌における ctDNA-ERBB2 モニタリングの手法の確立」
研究代表者：二階 春香
8. **2024-2026 若手研究**
「ctDNA モニタリングを用いた食道癌根治治療後サーベイランスの開発」
研究代表者：藤澤 良介
9. **2024-2026 若手研究**
「ctDNA を用いた局所進行直腸癌の再発リスク層別化と治療効果モニタリング法の開発」
研究代表者：佐々木 教之
10. **2024-2026 若手研究**
「肥満外科手術後の腎機能の変化と肥満健康関連障害改善の機序の解明」
研究代表者：安藤 太郎
11. **2025-2028 若手研究**
「Etiology 不明な肝細胞癌における発癌機構の解析」
研究代表者：菊地 晃司
12. **2025-2027 若手研究**
「希少がんにおけるデジタル PCR を用いた ctDNA モニタリング」
研究代表者：瀬川 武紀

【研究分担者】

1. **2023-2025 基盤研究 (C)**
「動物個体の発生原理を利用した、異種間肝臓作製技術の確立」
研究分担者：片桐 弘勝, 正木 英樹
2. **2023-2025 基盤研究 (C)**
「卵巣明細胞癌に対する HSF 1 経路を標的とした新規治療法の開発」
研究分担者：岩谷 岳, 遠藤 史隆, 馬場 長, 庄子 忠宏, 利部 正裕, 千葉 洋平
3. **2024-2026 基盤研究 (C)**
「悪性リンパ腫の骨髄浸潤治療後再発に及ぼす腫瘍クローンの検出」
研究分担者：古和田 周吾, 西塚 哲, 開 勇人
4. **2025-2027 基盤研究 (C)**
「褐色脂肪細胞活性化機構に基づいた難治性肥満の機序の探索と新規治療法の創生」
研究分担者：佐々木 章, 長谷川 豊

【AMED研究分担者】

1. 2023-2025 革新的がん医療実用化研究事業

「局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第Ⅲ相試験」※研究代表者：静岡がんセンター 胃外科 寺島 雅典 副院長
研究開発分担者：馬場 誠朗 研究参加者：二階 春香, 遠藤 史隆

2. 2023-2025 革新的がん医療実用化研究事業

「個別化デジタルPCRによる超高感度腫瘍由来循環DNAモニタリング」
研究開発分担者：西塚 哲 研究参加者：岩谷 岳, 阿保 亜紀子, 開 勇人

英文論文

- Kimura T, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kikuchi K, Kuchida S, Sasaki A. Effects of the Scopist's Skills on the Perioperative Outcomes of Laparoscopic Liver Resection. *Asian J Endosc Surg* 2025 ; 18(1) : e13413
- Sasaki T, Hiraki H, Yashima-Abo A, Nagashima H, Endo F, Yaegashi M, Miura S, Obata K, Yanagawa N, Itamochi H, Shirota H, Iwaya T, Nishizuka SS. Comprehensive Genome Profiling-Initiated Tumor-Informed Circulating Tumor DNA Monitoring for Patients With Advanced Cancer. *Cancer Science* 2024 ; 116(3) : 764-774
- Sasaki T, Iwaya T, Yaegashi M, Idogawa M, Hiraki H, Abe M, Koizumi Y, Sasaki N, Yashima-Abo A, Fujisawa R, Endo F, Tange S, Otsuka K, Sasaki A, Masuda M, Fujita M, Nakagawa H, Takahashi F, Sasaki Y, Tokino T, Nishizuka SS. Impact of Sensitive Circulating Tumor DNA Monitoring on CT Scan Intervals During Postoperative Colorectal Cancer Surveillance. *Ann Surg Open* 2025 ; 6(1) : e549
- Sasaki N, Mitomo S, Matsui Y, Ishii Y, Sasaki A. Asymptomatic plug erosion into the sigmoid colon after mesh plug hernia repair: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2025 ; 129 : 111209
- Kikuchi K, Nitta H, Umemura A, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kimura T, Shimada H, Jo A, Sasaki A. Four clamp-crush techniques in robotic hepatectomy (with video). *J Gastrointest Oncol* 2025 ; 16(2) : 778-785
- Miyazaki Y, Ohta M, Kitahama S, Seki Y, Inamine S, Oshiro T, Nagao Y, Hatao F, Orita H, Sasaki A, Kagawa S, Yamaguchi T, Aizu K, Hayata K, Saito S, Amiki M, Nakamura Y, Matsubara H, Shimada M, Naitoh T, Ishibashi N, Takiguchi S, Shibao K, Inoue K, Togawa T, Saito T, Uno K, Endo Y, Kasama K, Tatsuno I. Clinical characteristics of coronavirus disease 2019 in patients undergoing laparoscopic bariatric/metabolic surgery: a nationwide survey in Japan. *Surg Today* 2025 ; 55(5) : 668-675
- Shimooki M, Baba S, Ieko Y, Tamura A, Nikai H, Sasaki A. Qualitative evaluation of muscle strength in postoperative gastric cancer using computed tomography. *JIMA* 2025 ; 77(1) : 23-35
- Umemura A, Sasaki A, Tanahashi Y, Iwasaki T, Kumagai H, Nitta H. Effect of Gastric Sleeve Migration on Weight Loss and Gastroesophageal Reflux Disease After Laparoscopic Sleeve Gastrectomy. *World J Surg* 2025 ; 49(7) : 1787-1794
- Eizuka M, Toya Y, Sugimoto R, Komai M, Yamada A, Kimura T, Yanai S, Yanagawa N, Sasaki A, Matsumoto T. A case of jejunal cancer arising from ectopic pancreas. *Clin J Gastroenterol* 2025 ; 18(4) : 610-614
- Kotohata Y, Umemura A, Sakuraba M, Sasaki A. Giant retroperitoneal lipoma resulting in femoral hernia: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2025 ; 113 : 111584
- Tanahashi Y, Sasaki A, Umemura A. Reductions in Epicardial Adipose Tissue and Mediastinal Fat Are Associated with Improved Cardiac Function. *Obes Surg* 2025 ; 35(8) : 2854-2866
- Arise A, Yamaguchi K, Takane K, Asakura Y, Hasegawa Y, Mizuno M, Nitta H, Ishida K, Iwaya T, Shimizu E, Imoto S, Miyano S, Furukawa Y, Nishizuka SS. Mutual Tissue Microchimerism of Hepatoblastomas in Monozygotic Twins From a Familial Adenomatous Polyposis Family. *Twin Res Hum Genet* 2025 ; 28(4) : 346-354
- Sasaki N, Mitomo S, Matsui Y, Ishii Y, Sasaki A. Duodenocolic fistula after laparoscopic ileocecal resection for ascending colon cancer: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2025 ; 137 : 112134
- Iwasaki T, Sasaki A, Umemura A, Hasegawa Y, Ishigaki Y, Asahi K. Effects of reduced retroperitoneal adipose tissue and kidney volume on renal function and blood pressure following metabolic surgery in patients with severe obesity. *Surg Obes Relat Dis* 2025 ; 21(11) : 1210-1218
- Oshiro T, Ohta M, Nabekura T, Seki Y, Nagao Y, Tsuboi K, Takiguchi S, Hatao F, Kanetaka K, Togawa T, Ishiyama A, Yamaguchi T, Kanoda H, Umemura A, Saito T, Kasama K, Sasaki A. Staple line leakage after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japan: a nationwide survey. *Surg Today* 2025 ; 55(11) : 1535-1541
- Ohta M, Seto Y, Endo Y, Naitoh T, Hatao F, Shiraishi T, Yamamoto H, Kasama K, Sasaki A. Japanese nationwide surveys on bariatric/metabolic procedures in 2021-2024. *Surg Today* ; 56(3) : 394-398

和文論文

1. 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 井原 欣幸, 佐々木 章. 【進化する肝胆膵ロボティクス】 肝臓 肝移植におけるロボット支援下ドナー肝切除. 肝胆膵 2025 ; 90(1) : 59-62
2. 西成 悠, 石橋 正久, 棚橋 洋太, 對馬 真緒, 下沖 美里, 大山 健一, 新田 浩幸, 佐々木 章. アナモレリン塩酸塩投与時における切除不能進行胃癌の栄養状態の変化. 盛岡赤十字病院紀要 2025 ; 33(1) : 1-5
3. 佐々木 章. 外科医の私論 患者から学び、患者に還元する外科治療. 外科 2025 ; 87(1) : 46-46
4. 佐々木 智子, 西成 悠, 下沖 美里, 對馬 真緒, 大山 健一, 岩谷 岳, 西塚 哲. 消化器癌患者に対する OTS- アッセイの適応. 盛岡赤十字病院紀要 2025 ; 33(1) : 6-13
5. 塩井 義裕, 熊谷 秀基, 川島 到真, 伊藤 浩平, 伊瀬谷 和輝, 對馬 真緒, 遠野 千尋, 佐藤 一, 田村 大地, 阿部 正和, 神崎 成子, 紺野 成顕, 伊藤 貞利, 樽本 高壽, 菅野 恵也, 川島 智美, 園田 卓治, 藤田 洸太郎, 牛山 心平, 内村 尚樹, 赤沼 利奈, 山下 晋平, 小野寺 淳, 佐藤 正子, 蔀 寿樹, 下沖 収. 地域病院における「断らない救急」の取り組み. 全国自治体病院協議会雑誌 2025 ; 64(5) : 833-838
6. 佐々木 章. 減量・代謝改善手術の広がりガイドライン. Medical View Point 2025 ; 46(5) : 3-4
7. 八重樫 瑞典, 岩谷 岳, 西塚 哲. がんゲノム医療時代の日常診療における大腸癌 ctDNA モニタリング. 癌の臨床 2023 ; 69(2) : 71-77
8. 佐々木 章. 肥満症 代謝異常から全身疾患へのパラダイムシフト 減量・代謝改善手術の現状. 医学のあゆみ 2025 ; 293(10) : 943-948
9. 佐々木 章. 肥満と循環器疾患 減量・代謝改善手術. Heart View 2025 ; 29(6) : 84-89
10. 佐々木 智子, 西成 悠, 加藤 久仁之. FDG-PET で異常集積を示した内肛門括約筋由来の平滑筋腫の 1 例. 日本大腸肛門病学会誌 2025 ; 78(8) : 330-335
11. 佐々木 章. わが国における減量・代謝改善手術の現状と肥満症治療ガイドライン. 肥満研究 2025 ; 31(2) : 87-91
12. 佐々木 章. 周術期管理マニュアル 減量・代謝改善手術. 臨床外科 2025 ; 80(11) : 124-128
13. 佐々木 智子, 西成 悠, 大山 健一, 平賀 深友紀, 毛利 明子, 佐々木 章. Panitumumab 投与によりストーマ周囲膿瘍を発生した 1 例. 癌と化学療法 2025 ; 52(11) : 829-831
14. 藤野 順子, 小山 亮太, 鈴木 信, 佐々木 章. 「医療の質と医療安全: 人口減少時代の外科医療の集約化と均てん化」 地方都市における小児外科診療の集約化と均てん化の取り組み. 日本外科学会雑誌 2025 ; 126(6) : 601-603
15. 佐々木 智子, 下沖 美里, 西成 悠, 大山 健一. 乳癌術後 43 年目に頸部リンパ節・皮膚転移を来し急速な転機で死亡に至った 1 例. 盛岡赤十字病院紀要
16. 西成 悠, 石橋 正久, 棚橋 洋太, 對馬 真緒, 大塚 観喜, 下沖 美里, 佐々木 智子, 大山 健一. 両側卵巢腫瘍を契機に発見された早期胃癌の一例. 盛岡赤十字病院紀要
17. 須藤 佑介, 梅邑 晃, 天野 怜, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 須藤 隆之. Hybrid Intraperitoneal onlay mesh (IPOM) plus 法を用いた成人の腹壁癒痕ヘルニアおよび膺ヘルニアに対する短期治療成績の検討. 日本ヘルニア学会誌 2025 ; 10(3) : 3-9

著 書

1. 鈴木 信. IV 腹部消化管の手術 4. 十二指腸閉鎖症・狭窄症の手術 (開腹手術、腹腔鏡手術). 必修 小児外科手術 2025 ; 128-133
2. 石田 和茂. CQ75 late line 治療はいつまで継続していますか?. ここが知りたい! 乳癌診療現場のギモン 2025 ; 200-201

国際学会発表

38th Pan-Pacific Surgical Association - Japan Chapter, Honolulu, 2025/02/26 - 02/28

1. Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Takeda D, Ando T, Amano S, Kikuchi K, Kimura T, Kawashima T, Sasaki A. Pure laparoscopic S2 monosegment donor hepatectomy employing Glissonean approach, indocyanine fluorescence imaging and in situ splitting for a small infant. Session
 2. Kawashima T, Shioi Y, Kikuchi K, Kimura T, Amano S, Ando T, Takeda D, Umemura A, Katagiri H, Nitta H, Sasaki A. Elective laparoscopic repair of obturator hernia using a mesh plug following ultrasound-guided manual reduction. Session
 3. Jo A, Sasaki A, Umemura A, Kumagai H, Tanahashi Y, Iwasaki T, Kawashima T, Katagiri H, Nitta H. Improving adrenal hypertrophy and its metabolic effects after metabolic surgery. Session
 4. Koyama R, Tagane M, Arisue A, Fujino J, Ihara Y, Suzuki M, Sasaki A. Outcomes of laparoscopic surgery for duodenal atresia. Session
 5. Kotohata Y, Yaegashi M, Sasaki N, Segawa T, Tanahashi Y, Iwasaki T, Ishida K, Baba S, Fujino J, Ihara Y, Umemura A, Katagiri H, Suzuki M, Nitta H, Sasaki A. Surgical site infection after laparoscopic colorectal surgery: A single-center observational study. Session
 6. Kikuchi K, Nitta H, Umemura A, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kimura T, Sasaki A. Four clamp-crush techniques in robotic hepatectomy. Session
- * Sasaki A. Educational lecture 1. Chairperson

APASL STC2025, Tokyo, 2025/10/02 - 10/03

1. Umemura A. Metabolic and Bariatric Surgery as a Strong Alternative for MASH in Patients with Severe Obesity. Workshop

ESOT congress 2025, London, 2025/06/29 - 07/02

1. Ihara Y, Naya I, Nitta H, Mizuta K. Tacrolimus-induced de novo allergy after pediatric liver transplantation. Poster Presentation

The 21st World Congress of Endoscopic Surgeons, which also serves as the 17th Asia Pacific Endo-Laparoscopic Surgeons (ELSA) Congress, Singapore, 2025/11/04 - 11/08

1. Kikuchi K. Short-term outcomes of enhanced-view totally extraperitoneal repair for primary midline ventral hernia. Oral
2. Fujisawa R, Baba S, Nikai H, Takahashi N, Shimada H, Umemura A, Suzuki M, Koeda K, Nitta H, Sasaki A. Safety and Outcomes of Robot-Assisted Distal Gastrectomy in Elderly Patients. Oral
3. Ando T, Kikuchi K, Kimura T, Kawashima T, Amano S, Takeda D, Umemura A, Sasaki A. Introduction and results of robot-assisted liver resection. Oral
4. Amano S, Nitta H, Umemura A, Takeda D, Ando T, Kawashima T, Kikuchi K, Kimura T, Kodama T, Sasaki A. Laparoscopic Fenestration as a Spleen-Preserving Strategy for a Giant Splenic Cyst: A Case Report. Poster
5. Baba S, Nikai H, Fujisawa R, Takahashi N, Shimada H, Umemura A, Suzuki M, Koeda K, Nitta H, Sasaki A. Oral

国内学会発表

第 28 回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2025/01/17 - 01/19

1. 長谷川 豊, 梅邑 晃, 武部 典子, 千葉 拓, 富樫 弘文, 小田 知靖, 遠藤 龍人, 佐々木 章, 石垣 泰. 減量・代謝改善手術による減量効果と低カルシウム血症の関連について. 一般口演

第 27 回Needlescopic Surgery Meeting, 東京, 2025/02/08

1. 鈴木 信, 田金 恵, 小山 亮太, 有末 篤弘, 藤野 順子, 佐々木 章. 細径鉗子を用いた臍下部孤状切開による単孔式尿管管切除術. 一般口演
- * 鈴木 信. 主題 1-2 我々のNeedlescopic surgery, RPS の工夫. 座長

第 40 回日本栄養治療学会学術集会, 横浜, 2025/02/14 - 02/15

1. 岩崎 崇文, 佐々木 章, 梅邑 晃. 高度肥満症患者への腹腔鏡下スリーブ状胃切除術前後の酸化ストレス・炎症関連指標と代謝改善効果との関連, 一般口演
2. 有末 篤弘, 畠山 瑞生, 石橋 正久, 短腸症候群の患者に対する GLP-2 アナログ製剤 (テデュグルチド) の使用経験, 一般口演

第 17 回日本ロボット外科学会学術集会, 宇都宮, 2025/03/07 - 03/08

1. 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 菊地 晃司, 木村 拓, 新田 浩幸. ロボット支援下肝切除術における

pitfall と troubleshooting. パネルディスカッション

2. 武田 大樹, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 新田 浩幸. 助手の視点から考えるロボット支援下肝切除. 一般口演
3. 菊地 晃司, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 佐々木 章. ロボット支援下肝切除術における clamp-crush techniques. 主題関連講演

第 97 回日本胃癌学会総会, 名古屋, 2025/03/12 - 03/14

1. 馬場 誠朗, 二階 春香, 藤澤 良介, 下沖 美里, 菅野 正紀, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 遠藤 史隆, 肥田 圭介, 新田 浩幸, 佐々木 章. HER2 陽性再発・切除不能胃癌に対するトラスツズマブ・デルクステカンの使用経験. ミニオーラル
2. 二階 春香, 馬場 誠朗, 藤澤 良介, 下沖 美里, 菅野 正紀, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 遠藤 史隆, 肥田 圭介, 佐々木 章. HER2 陰性切除不能進行・再発胃癌に対する Nivolumab+ 化学療法併用療法の治療成績. ミニオーラル
3. 藤澤 良介, 藤澤 良介, 二階 春香, 下沖 美里, 菅野 正紀, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 遠藤 史隆, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 胃癌に対するロボット支援下幽門側胃切除術における hinotori の導入経験. ミニオーラル
4. 古田 光寛, 馬場 誠朗, 野津 昭文, 安井 博史, 山形 幸徳, 幕内 梨恵, 山田 貴允, 石田 道拓, 辻 国広, 馬場 誠朗, 徳本 憲昭, 春田 周宇介, 渡邊 昌也, 浜川 卓也, 河内 保之, 長谷川 康弘, 藪崎 裕, 川端 良平, 朴 成和, 寺島 雅典, 町田 望, 吉川 貴己. 胃神経内分泌癌に対する術後補助化学療法. ミニオーラル
5. 下沖 美里, 馬場 誠朗, 二階 春香, 菅野 正紀, 高橋 真人, 藤澤 良介, 熊谷 秀基, 遠藤 史隆, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. CT のテクスチャ解析による胃癌患者の術後筋力評価. ミニオーラル

第 61 回日本腹部救急医学会総会, 名古屋, 2025/03/20

1. 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 安藤 太郎, 川島 到真, 天野 怜, 菊地 晃司, 木村 拓, 新田 浩幸, 佐々木 章. 粘液停滞による減黄不良であった膵管内乳頭粘液腺癌に対して upfront surgery を試行した 1 例. 一般口演
 2. 石井 勇吾, 御供 真吾, 新田 浩幸, 佐々木 章. 小腸血管腫との鑑別を要した小腸憩室出血後の血腫の一例. 一般口演
 3. 有末篤弘, 石橋正久, 畠山瑞生. 腹部刺創による横隔膜出血の 1 例. 一般口演
- * 梅邑 晃. ポスター 9 腸閉塞 1. 司会

第 125 回日本外科学会定期学術集会, 仙台, 2025/04/10 - 04/12

1. 岩崎 崇文, 佐々木 章, 梅邑 晃, 棚橋 洋太. 減量・代謝改善手術後の後腹膜脂肪量と腎容積の減少が腎機能と血圧に及ぼす影響. サージカルフォーラム
 2. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 佐々木 智子, 八重樫 瑞典, 西塚 哲. ctDNA モニタリングで実現するがん患者個別化医療の新時代. サージカルフォーラム
 3. 武田 大樹, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 菊地 晃司, 木村 拓, 嶋田 拓明, 新田 浩幸. 局所進行・切除不能 (UR-LA) 膵癌に対する conversion surgery の意義. ポスターセッション
 4. 菊地 晃司, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 木村 拓, 嶋田 拓明, 佐々木 章. 肝左葉切除術と肝 S7/8 肝切除術に対するロボット支援下手術の安全性評価. ポスターセッション
 5. 川島 到真, 菊地 晃司, 木村 拓, 天野 怜, 安藤 太郎, 武田 大樹, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 生体肝移植後に慢性経過で発症した血栓性微小血管症の 1 例. ポスターセッション
 6. 天野 総, 石井 勇吾, 對馬 真緒, 橋元 麻生, 松井 雄介, 石田 和茂, 小松 英明, 佐々木 章. 肥満を伴う乳癌での体重減少による再発リスク低下に関する検討. ポスターセッション
 7. 藤澤 良介, 馬場 誠朗, 二階 春香, 下沖 美里, 菅野 正紀, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 八重樫 瑞典, 石田 和茂, 藤野 順子, 井原 欣幸, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 肥田 圭介. 胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下手術の術式選択. ポスターセッション
 8. 梅邑 晃, 棚橋 洋太, 須藤 佑介. 屋根瓦式教育体制と仕事の質を担保することに重点化した外科医育成. ポスターセッション
 9. 井原 欣幸, 納屋 樹, 水田 耕一. Impedance Analysis による新しい肝硬変評価の可能性と肝移植周術期栄養管理. 一般口演
 10. 八重樫 瑞典. Digital PCR を用いた ctDNA モニタリングによる大腸癌遠隔転移症例への臨床応用. 公式行事・研究会等
 11. 小山 亮太, 田金 恵, 八重樫 瑞典, 石田 和成, 馬場 誠朗, 藤野 順子, 井原 欣幸, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 外科医不足と専門医制度. 特別企画
 12. 藤野 順子, 田金 恵, 小山 亮太, 八重樫 瑞典, 石田 和茂, 馬場 誠朗, 井原 欣幸, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 地方都市における小児外科診療の集約化と均てん化の取り組み. 特別企画
- * 佐々木 章. ワークショップ 11 減量・代謝改善手術の適応拡大に向けて. 司会
* 新田 浩幸. ワークショップ 8 ロボット支援下による高難度肝胆膵切除術の手術手技 [Video]. 司会
* 肥田 圭介. ポスターセッション 胃サルコペニア. 司会

第 50 回日本外科系連合学会学術集会, 福井, 2025/05/21 - 05/23

1. 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. ロボット支援下肝切除術の現状. シンポジウム

第 23 回日本ヘルニア学会学術集会, 盛岡, 2025/05/23 - 05/24

1. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 安藤 太郎, 川島 到真, 天野 怜, 菊地 晃司, 木村 拓, 棚橋 洋太, 琴畑 洋介, 佐々木 章. ヘルニア診療における intentional watchful waiting strategy について. サージカルフォーラム

2. 梅邑 晃. 「ヘルニア修復術ちょっとした工夫」～試行錯誤も含めて～. ランチョンセミナー
3. 川島 到真, 川村 英伸, 菊地 晃司, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 佐々木 章. 23thJHS アンケート調査 一関連地域研究会別の傾向一. 一般口演
4. 川村 英伸, 梅邑 晃, 菊地 晃司, 川島 到真. 23thJHS アンケート調査 - 総括 -. 一般口演
5. 第 23 回日本ヘルニア学会学術集会, 盛岡, 2025/05/23 - 2025/05/24, 菊地 晃司, 川村 英伸, 川島 到真, 梅邑 晃, 佐々木 章. 23thJHS アンケート調査一全国の傾向一. シンポジウム
6. 口田 脩太, 口田 怜央, 菅野 将史, 直島 君成, 箱崎 将規. AI を用いた鼠径ヘルニア手術動画の解剖学的構造認識. 一般口演
7. 高畑 周吾, 有吉 佑, 小山 誠, 五明 良仁, 池野 龍雄. de Garengeot hernia の 1 例. 一般口演
8. 小山 誠, 高畑 周吾, 有吉 佑, 五明 良仁, 池野 龍雄, de novo 型鼠径ヘルニア嵌頓に併発し腹腔鏡下手術を施行した膀胱ヘルニアの 1 例. 一般口演
9. 梅邑 晃, 川村 英伸, 新田 浩幸, 川島 到真, 菊地 晃司, 中村 侑哉, 佐々木 章. JSES アンケート (第 17 回集計結果報告) から見た国内ヘルニア修復術の動向について. シンポジウム
10. 石橋 正久, 畠山 瑞生, 有末 篤弘. メッシュ修復後の再発性鼠径部ヘルニアに対する腹腔鏡手術の成績と再発予防策の検討. 一般口演
11. 川村 英伸. 再発しないヘルニア手術を目指して. 会長講演
12. 藤野 順子, 小山 亮太, 鈴木 信. 最近 4 年間の臍ヘルニア根治術の後方視的検討. サージカルフォーラム
13. 石井 勇吾, 御供 真吾, 松井 雄介, 新田 浩幸, 佐々木 章. 鼠径ヘルニア修復術 19 年後にメッシュプラグによる S 状結腸穿通をきたした 1 例. 一般口演
14. 中村 侑哉, 川村 英伸. 中小病院における開腹法から eTEP 導入と今後の課題. 一般口演
15. 西成 悠, 大塚 観喜, 佐々木 智子, 大山 健一, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当院における再発鼠径部ヘルニアに対し施行した腹腔鏡下ヘルニア術の検討. ワークショップ
16. 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 天野 怜, 安藤 太郎, 武田 大樹, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 井原 欣幸, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当教室における鼠径ヘルニアに対する Kugel 法の教育. ビデオシンポジウム
17. 大塚 観喜, 大山 健一, 佐々木 智子, 西成 悠, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下 Sugarbaker 法を施行した双口式横行結腸傍ストーマヘルニアの一例. 一般口演
18. 後村 麻衣子, 橋元 麻生, 小水内 啓将, 小林 大輝, 小田島 彬, 山岸 亮太, 木村 拓, 藤原 久貴, 佐々木 章. 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術での臨床工学技士スコピストに対する評価表の導入. サージカルフォーラム
19. 佐々木 智子, 大塚 観喜, 西成 悠, 大山 健一, 新田 浩幸, 佐々木 章. 閉鎖孔ヘルニアに対する当院の治療戦略. ワークショップ
20. 塩井 義裕, 川島 到真, 熊谷 秀基, 伊藤 浩平, 藤井 大和, 對馬 真緒, 佐藤 一. 閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対して非観血的徒手整復後に行う腹腔鏡下閉鎖孔ヘルニア手術. 一般口演
21. 小山 亮太, 田金 恵, 有末 篤弘, 藤野 順子, 鈴木 信, 佐々木 章. 未熟児・早産児の鼠径ヘルニアに対する至適手術時期についての検討. シンポジウム
22. 石井 勇吾, 御供 真吾, 松井 雄介, 新田 浩幸, 佐々木 章. 鼠径ヘルニア修復術 19 年後にメッシュプラグによる S 状結腸穿通をきたした 1 例. 一般口演
- * 鈴木 信. シンポジウム 3 未熟児・早産児の鼠径ヘルニアに対する bestrepair:DelayedvsEarly. 座長
- * 梅邑 晃. ビデオシンポジウム 6 / 傍ストーマヘルニアに対する retroperitoneal/retromuscular repair の展望. 座長
- * 大山 健一. ポスター 9 / その他ヘルニア 2. 座長
- * 梅邑 晃. 日韓合同シンポジウム / 1 Open Hernia Repair. 座長
- * 川村 英伸. イブニング手術セミナー / マイクロ波メス Acrosurg 二刀流で安全安心なヘルニア手術. 司会
- * 川村 英伸. ランチョンセミナー 3 / 限界を超える鉗子” ArtiSential” が可能にした、私のヘルニア修復術. 司会
- * 川村 英伸. 慢性炎症を標的として老化を改善する. 特別講演座長

第 61 回日本肝臓学会総会, 東京, 2025/06/05 - 06/06

1. 井原 欣幸, 納屋 樹, 水田 耕一, 小児におけるインピーダンス法による肝硬変診断と周術期栄養療法, ワークショップ

第 62 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2025/06/05 - 06/07

1. 井原 欣幸, 納屋 樹, 津坂 翔一, 筒野 喬, 小川 祥子, 近藤 靖浩, 竹添 豊志子, 出家 享一, 川嶋 寛, 甲嶋 洋平, 水田 耕一. 小児肝疾患症例のトランジションの課題とこれから. 要望演題
2. 鈴木 信, 田金 恵, 小山 亮太, 有末 篤弘, 藤野 順子, 佐々木 章. 単孔式腹腔鏡下虫垂切除術のコツ. 要望演題
3. 小山 亮太, 田金 恵, 有末 篤弘, 藤野 順子, 鈴木 信, 佐々木 章. 腹部手術を要した多発交通外傷の二例. 要望演題
4. 黒田 靖浩, 洲尾 昌伍, 安田 里司, 金廣 裕道, 新田 浩幸, 庄 雅之. 小児肝芽腫に対する低侵襲手術の新展開: 腹腔鏡下右葉切除術. 要望演題
5. 岩村 克則, 小山 亮太, 田金 恵, 有末 篤弘, 藤野 順子, 鈴木 信, 佐々木 章. 生後 2 年での腸管全層生検で Immaturity of ganglia の確定診断を得た超低出生体重児の一例. 要望演題
- * 鈴木 信. ポスター 消化管. 座長

The 37th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 軽井沢, 2025/06/13 - 06/14

1. Katagiri H, Umemura A, Takeda D, Ando T, Amano S, Kwashima T, Kikuchi K, Kimura T, Nitta H. Feasibility and Standardization of Robot-assisted Liver resection for Lesions in Posterosuperior Liver Segments 7 and 8. Mini

Video Symposium

1. Takeda D, Katagiri H, Umemura A, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kikuchi K, Kimura T, Nitta H. Standardization of robot-assisted distal pancreatectomy for pancreatic cancer. Requested Oral
3. Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Takeda D, Ando T, Kawashima T, Amano S, Kikuchi K, Sasaki A. What is the best choice of the third drug for the recipients underwent liver transplantation?. Requested Oral
4. Nitta H. Possibilities of cutting-edge technology! Software and Robotic surgery. Sponsored Symposium
* Nitta H. Video Workshop 2. Moderator

第 79 回日本食道学会学術集会, 京都, 2025/06/26 - 06/27

1. 菅野 正紀, 馬場 誠朗, 二階 春香, 下沖 美里, 高橋 真人, 藤澤 良介, 熊谷 秀基, 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 佐々木 章. 高齢者食道癌に対する化学放射線療法の安全性と有効性の検討. 一般口演
2. 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 二階 春香, 馬場 誠朗, 板持 広明, 西塚 哲. 食道癌の免疫チェックポイント阻害剤治療における ctDNA モニタリング. パネルディスカッション
3. 高橋 真人, 藤井 仁志, 遠野 千尋, 藤澤 良介, 二階 春香, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 佐々木 章, 岩谷 岳, 西塚 哲. OTS-アッセイによる進行再発食道癌症例の ctDNA モニタリングによる病勢評価. ポスター
4. 二階 春香, 馬場 誠朗, 藤澤 良介, 菅野 正紀, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 梅邑 晃, 佐々木 章. 切除可能境界・切除不能局所進行食道癌に対する治療成績. ポスター
5. 藤澤 良介, 馬場 誠朗, 二階 春香, 下沖 美里, 菅野 正紀, 高橋 真人, 梅邑 晃, 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 佐々木 章. Pembrolizumab+FP 療法によって conversion 手術が可能となった Stage IV 進行食道胃接合部癌の 1 例. ポスター
6. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 二階 春香, 馬場 誠朗, 板持 広明, 西塚 哲. ctDNA モニタリングを用いた食道癌個別化医療の臨床的有用性の検討. ワークショップ
7. 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 二階 春香, 馬場 誠朗, 板持 広明, 西塚 哲. 食道癌の免疫チェックポイント阻害剤治療における ctDNA モニタリング. パネルディスカッション

日本消化器病学会東北部第 219 回例会, 弘前, 2025/07/04

1. 八重樫 瑞典. 「進歩する直腸癌治療」. ランチョンセミナー
2. 嶋田 拓明, 八重樫 瑞典, 岩谷 岳, 佐々木 智子, 西塚 哲, 新田 浩幸, 佐々木 章. ctDNA モニタリングを用いた研究と臨床応用. ワークショップ
3. 秋元 成鎬, 渡辺 拓也, 佐々木 登希夫, 鈴木 彰子, 阿部 珠美, 遠藤 啓, 柿坂 啓介, 吉田 雄一, 宮坂 昭生, 黒田 英克, 新田 浩幸, 佐々木 章, 松本 主之. 消費性凝固障害と持続性発熱を呈した出血性肝血管腫の 1 例. 特別企画
4. 梅邑 晃, 一般演題 肝臓. 司会
* 佐々木 章. ランチョンセミナー 1 「二刀流を目指す ~胃癌と肥満・減量手術~」. 司会
* 二階 春香. 一般演題 胃・十二指腸. 司会

第 33 回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2025/07/10 - 07/12

1. 對馬 真緒, 石田 和茂, 天野 総, 塩井 義裕, 佐藤 一, 佐々木 章. フェスゴ導入への当院の取り組み. e-Poster
2. 天野 総, 對馬 真緒, 石井 勇吾, 橋元 麻生, 松井 雄介, 石田 和茂, 小松 英明, 佐々木 章. 肥満と Oncotype DX 検査に関する検討. e-Poster
3. 石井 勇吾, 松井 雄介, 御供 真吾, 對馬 真緒, 橋元 麻生, 天野 総, 石田 和茂, 佐々木 章. 当院における 80 歳以上の高齢者乳癌の手術症例の検討. e-Poster
4. 松井 雄介, 御供 真吾, 石井 勇吾, 石田 和茂, 天野 総, 橋元 麻生, 對馬 真緒, 佐々木 章. 乳房全切除後放射線照射から 15 年後に生じた未分化肉腫の 1 例. e-Poster

第 61 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 大阪, 2025/07/13 - 07/15

- * 鈴木 信. 一般演題 (口演) 39 「消化管 3 小腸」. 座長

第 80 回日本消化器外科学会総会, 神戸, 2025/07/16 - 07/18

1. 高橋 真人, 藤井 仁志, 岩佐 友寛, 小泉 優香, 皆川 幸洋, 遠野 千尋, 二階 春香, 馬場 誠朗. HER2 陽性進行胃癌に対する Trastuzumab 併用化学療法中に発生した心毒性の一例. 一般口演
2. 小泉 優香, 藤井 仁志, 岩佐 友寛, 高橋 真人, 皆川 幸洋, 遠野 千尋. 当院における高齢者大腸癌手術症例の検討. 一般口演
3. 川島 到真, 菊地 晃司, 木村 拓, 天野 怜, 安藤 太郎, 武田 大樹, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 門脈合併切除を伴う臍頭十二指腸切除術後の門脈狭窄による難治性腹水に対するデンバーシャント増設. 一般口演
4. 藤澤 良介, 馬場 誠朗, 二階 春香, 下沖 美里, 菅野 正紀, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 肥田 圭介, 新田 浩幸, 佐々木 章. 食道扁平上皮癌の化学放射線療法後遺残例に対する Ipilimumab+Nivolumab 療法の治療成績. 一般口演
5. 二階 春香, 馬場 誠朗, 藤澤 良介, 菅野 正紀, 下沖 美里, 熊谷 秀基, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 切除不能進行・再発胃癌に対する化学療法成績の期間別検討. 一般口演
6. 馬場 誠朗, 二階 春香, 藤澤 良介, 下沖 美里, 菅野 正樹, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 肥田 圭介, 新田 浩幸, 佐々木 章. 胃癌に対するロボット支援下噴門側胃切除術後の再建法による逆流性食道炎の比較. 一般口演

7. 梅邑 晃, 佐々木 章, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 須藤 佑介, 徐 光仁, 川島 到真, 片桐 弘勝, 新田 浩幸. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後のGERDと減量成績から考案したintrathoracic sleeve migrationの分類. 一般口演
8. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. hinotori サージカルロボットシステムを使用した前方アプローチによる肝右葉切除術. 一般口演
9. 菅野 正紀, 馬場 誠朗, 佐々木 章. 腫瘍穿通をきたした胃神経鞘腫に対して保存加療後に腹腔鏡下胃局所切除術を施行した一例. 専攻医セッション
- * 佐々木 章. 要望演題【総論】医療集約化に伴う地域医療における消化器手術の展望. 座長
- * 新田 浩幸. パネルディスカッション【肝胆膵】低侵襲肝部分切除における適切な術式選択ロボット支援手術 vs 腹腔鏡下手術. 司会

第 52 回日本小児栄養消化器肝臓学会総会, 宇都宮, 2025/09/26 - 09/28

- * 井原 欣幸, 一般演題: 外傷, 虫垂炎, 座長

第 46 回日本肥満学会 第 43 回日本肥満症治療学会学術集会, 岡山, 2025/10/04 - 10/05

1. 宇夫方 直子, 梅邑 晃, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術におけるチーム医療と管理栄養士の役割. シンポジウム
2. 棚橋 洋太, 佐々木 章, 岩崎 崇文, 梅邑 晃, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術前後の心外膜脂肪量の変化と心臓拡張能の改善効果. 一般口演
3. 岩崎 崇文, 佐々木 章, 梅邑 晃, 棚橋 洋太. 高度肥満症患者における減量・代謝改善手術が糸球体過剰濾過に及ぼす影響. 一般口演
4. 梅邑 晃, 佐々木 章, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 熊谷 秀基, 高橋 真人, 須藤 佑介, 川島 到真, 川上 亜紀子, 新田 浩幸. 肥満症と心不全～内科的治療、外科的治療による治療戦略～. 合同シンポジウム
5. 梅邑 晃, 佐々木 章, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 熊谷 秀基, 高橋 真人, 須藤 佑介, 川島 到真, 川上 亜紀子, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術により明らかとなる MASLD・MASH. 合同シンポジウム
- * 佐々木 章. 日本肥満症治療学会が進むべき方向性. 理事長提言
- * 梅邑 晃. 一般演題 16 内科・外科統合療法 2. 座長
- * 佐々木 章. シンポジウム 1 これからの肥満症治療の展望—内科治療・消化管内視鏡治療・外科治療—. 座長
- * 佐々木 章. イブニングセミナー 高度肥満症患者の術前減量を考える. 座長
- * 佐々木 章. 川村賞受賞講演. 座長・授与者
- * 佐々木 章. 学会賞受賞講演. 座長・授与者

第 61 回日本移植学会総会, 名古屋, 2025/10/09 - 10/11

- * 梅邑 晃, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 井原 欣幸, 佐々木 章. 肝芽腫に対する生体肝移植後 EBV 陽性 PTLD に続発した T-PTLD 発症後長期生存している 1 例. ポスター

第 33 回日本消化器関連学会週間(JDDW 2025 KOBE), 神戸, 2025/10/30 - 11/01

- * 梅邑 晃. ハンズオンセミナー 7. インストラクター
- * 琴畑 洋介, 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 瀬川 武紀, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 徐 光仁, 石田 和茂, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下大腸癌手術における切開創 SSI の検討. デジタルポスター
- * 佐々木 章. デジタルポスターセッション消 009 (消化器病学会) 胃癌 (化学療法) 2. 座長
- * 石橋 正久, 畠山 瑞生, 有末 篤弘. 85 歳以上の大東癌症例に対する根治手術の短期及び長期治療成績の検討. デジタルポスター

第 80 回大腸肛門病学会学術集会, 東京, 2025/11/14 - 11/15

1. 西成 悠, 大塚 観喜, 佐々木 智子, 加藤 久仁之. 当院における大腸穿孔の短期成績の検討. ポスター
2. 岩崎 崇文, 佐々木 教之, 琴畑 洋介, 瀬川 武紀, 八重樫 瑞典. 直腸間膜内に卵巣癌由来リンパ節転移をきたした卵巣癌と直腸 S 状部癌の重複癌の 1 例. ポスター
3. 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 瀬川 武紀, 岩崎 崇文, 琴畑 洋介, 嶋田 拓明. 腹腔鏡下直腸癌手術における回腸人工肛門造設後の outlet obstruction 対策. ワークショップ
4. 琴畑 洋介, 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 瀬川 武紀, 岩崎 崇文. 原発性乳房外 Paget 病との鑑別を要した Pagetoid spread を伴う直腸癌の 4 例. 一般口演

第 87 回日本臨床外科学会学術集会, 東京, 2025/11/20 - 11/22

1. 菊地 晃司. 2025 年度から開始した当科におけるリクルート戦略 ～学生による外科手技サークル立ち上げの経緯と今後の展望～. 一般口演

第 38 回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2025/12/11 - 12/13

1. 新田 浩幸, 梅邑 晃, 井原 欣幸, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. 腹腔鏡下ドナー肝切除術の手術手技と今後の展望. パネルディスカッション
2. 中里 伊吹, 佐藤 慧, 岩佐 友寛, 田金 恵, 直島 君成, 菅野 将史, 箱崎 将規. 腹腔鏡下手術トレーニングのための外科研修. 一般口演
3. 児玉 琢, 川島 到真, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 木村 拓, 菊地 晃司, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 藤野 順子, 鈴木 信, 佐々木 章. 鼠経ヘルニア Kugel 法修復後に発症した大腿ヘルニアに対して TAPP 法で修復した 1 症例. ミニオーラル
4. 石橋 正久, 佐々木 吉寛, 棚橋 洋太. 90 歳以上の超高齢者に対する腹腔鏡下大腸切除術の短期・長期成績の検討. ミニオーラル

5. 口田 脩太, 梅邑 晃, 佐藤 慧, 中村 侑哉, 直島 君成, 菅野 将史, 箱崎 将規, 御供 真吾, 新田 浩幸, 佐々木 章. TAPP 法における階層型深層学習モデルによる手術フェーズ自動認識モデルの構築. シンポジウム
6. 新田 浩幸. ロボット支援下肝部分切除に対する技術認定. ワークショップ
7. 武田 大樹, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 児玉 琢, 佐々木 章. ロボット支援下肝右葉切除術における前方アプローチの有用性. 一般口演
8. 菊地 晃司, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 佐々木 章. ロボット支援下肝切除術における短期成績とランニングコスト. シンポジウム
9. 高橋 真人, 馬場 誠朗, 二階 春香, 嶋田 拓明, 藤澤 良介, 八重樫 瑞典, 藤野 順子, 井原 欣幸, 梅邑 晃, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. ロボット支援下幽門側胃切除術における hinotori 導入後の短期成績の検討. 一般口演
10. 大山 健一, 西成 悠, 佐々木 智子, 下沖 美里. 陰嚢型ソケイ部ヘルニア症例に対する TAPP+IPOM 法の検討. ミニオーラル
11. 藤井 仁志, 琴畑 洋介, 岩佐 友寛, 小泉 優香, 高橋 真人, 畑中 智貴, 遠野 千尋, 新田 浩幸, 佐々木 章. 巨大直腸 GIST に対して Imatinib による術前化学療法後に腹腔鏡手術を施行した 3 症例. ミニオーラル
12. 梅邑 晃, 佐々木 章, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 須藤 佑介, 川島 到真, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術前後の尿中メタボローム解析による肥満関連健康障害のバイオマーカー検索. シンポジウム
13. 岩崎 崇文, 佐々木 章, 梅邑 晃, 棚橋 洋太, 川島 到真, 須藤 佑介, 徐 光仁, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術後のケトン体推移と肝生検結果の関連. 一般口演
14. 下沖 美里, 西成 悠, 佐々木 智子, 大山 健一, 新田 浩幸, 佐々木 章. 術前 CT で診断し得た穿孔部位不明の魚骨による腹腔内膿瘍の一例. ミニオーラル
15. 鈴木 信, 田金 恵, 小山 亮太, 有末 篤弘, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 藤野 順子, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 佐々木 章. 小児胸腔鏡下肺葉切除術における細径デバイスを用いた安全な手術を目指して. 一般口演
16. 板橋 哲也, 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 下濃 和夫. 先端球状無外傷性腸管クリップの開発. ミニオーラル
17. 佐々木 智子, 下沖 美里, 西成 悠, 大山 健一, 新田 浩幸, 佐々木 章. 遅発性外傷性腹壁ヘルニアに対して TAPP+IPOM 法による修復術を施行した一例. ミニオーラル
18. 西成 悠, 大塚 幸喜, 下沖 美里, 佐々木 智子, 大山 健一. 当院における急性胆嚢炎に対し施行した緊急腹腔鏡下手術における短期成績の検討. 一般口演
19. 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 瀬川 武紀, 川上 亜紀子, 屋成 信吾, 岩崎 崇文, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当教室における腹腔鏡下低位前方切除に対する縫合不全対策の変遷. 一般口演
20. 橋元 麻生, 藤原 久貴, 中村 聖華, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下脾臓摘出術を行った Sclerosing angiomatoid nodular transformation の一例. ミニオーラル
21. 琴畑 洋介, 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 瀬川 武紀, 岩崎 崇文, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 臍縦切開法を用いた腹腔鏡下大腸癌手術における術前臍処置の有無と創部 SSI の関係. ミニオーラル
22. 川島 到真, 児玉 琢, 菊地 晃司, 木村 拓, 天野 怜, 安藤 太郎, 武田 大樹, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 佐々木 章. 兪径ヘルニアに対する TAPP 法における腹膜環状切開と高位腹膜切開の比較. 一般口演
23. 藤野 順子, 小山 亮太, 田金 恵, 有末 篤弘, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 小児腹腔鏡下肝生検の実際. ミニオーラル
24. 藤澤 良介, 馬場 誠朗, 二階 春香, 高橋 真人, 嶋田 拓明, 八重樫 瑞典, 藤野 順子, 梅邑 晃, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 食道胃接合部癌と結腸癌術後肝転移に対してロボット支援下同時切除術を施行した 1 例. ミニオーラル
25. 馬場 誠朗, 二階 春香, 高橋 真人, 嶋田 拓明, 下沖 美里, 菅野 正紀, 熊谷 秀基, 藤澤 良介, 八重樫 瑞典, 藤野 順子, 梅邑 晃, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 食道癌に対するロボット支援下・胸腔鏡下食道切除術における頸部吻合の治療成績. 一般口演
 - * 新田 浩幸. Educational Lecture 20/ 最新 AI で変わる肝胆膵外科手術の未来～IOUS と VINCENT～. 司会
 - * 佐々木 章, 笠間 和典. シンポジウム 10 減量・代謝改善手術の今後の展望. 司会
 - * 馬場 誠朗. ミニオーラル 239/ 研修医・専攻医 その他 4. 司会
 - * 梅邑 晃. ミニオーラル 36/ 肥満 手術合併症と手技. 司会
 - * 鈴木 信. 一般演題(口演) 36 小児外科 消化器 1. 座長

講演会・研究会・セミナー

Gastric Cancer Web Seminar, Web 開催, 2025/01/14

1. 二階 春香, 中井 登紀子. がん診療医、病理医それぞれの立場から～バイオマーカー検査における各診療科の役割と連携のポイント～. セッション
2. 二階 春香. 適切なバイオマーカー検査による HER2 陽性切除不能進行・再発胃癌の治療選択. 特別講演

第9回LiquidBiopsy研究会, 東京, 2025/02/07 - 02/08

1. 佐々木智子, 大塚鶴喜, 西成悠, 大山健一, 岩谷岳, 西塚哲. 大腸癌日常診療における digitalPCR を用いた個別化高感度 circulating tumor DNA モニタリング (OTS-アッセイ) の活用. 一般口演

第54回日本小児消化管機能研究会, 大阪, 2025/02/08

1. 小山 亮太, 田金 恵, 藤野 順子, 鈴木 信, 佐々木 章. 生後2年で施行した腸管全層生検で Immaturity of ganglia の確定診断を得た超低出生体重児の1例. シンポジウム

東北大腸手術手技セミナー, 盛岡, 2025/02/08

- * 八重樫 瑞典. 植村先生から学ぶ技術認定医のコツ ハンズオンセミナー. 座長

日本消化器病学会東北支部第218回例会, 仙台, 2025/02/08

- * 佐々木 章. 専攻医セッション 1. 司会

東日本Gastric Cancer Clinical Seminar, Web開催, 2025/02/12

1. 馬場 誠朗. 私の考える実臨床～Nivo+ ケモの最適なポジションを考える～. パネルディスカッション

岩手 Gastric Web Seminar 進行再発胃癌トータルトリートメントにおけるラムシルマブの位置付け, Web開催, 2025/02/28

- * 馬場 誠朗. 進行再発胃癌の治療シークエンス. 座長

第1回岩手県がんセミナー, Web開催, 2025/02/3

1. 石田 和茂. がん治療におけるベグフィルグラスチムの意義～ Relative dose intensity の維持と予後改善効果～. 特別講演

第22回日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2025/03/01

1. 對馬 真緒, 石田 和茂, 天野 総, 佐々木 章. 乳癌治療中に肝機能障害を生じた2例. 一般口演
 2. 天野 総, 石井 勇吾, 對馬 真緒, 橋元 麻生, 松井 雄介, 石田 和茂, 吉田 絵里子, 千田 愛, 石垣 泰, 佐々木 章. Pembrolizumab 投与中に甲状腺クリーゼを発症した1例. 一般口演
 3. 有末 篤弘, 石橋 正久, 畠山 瑞生. 静脈血栓および動脈硬化を伴う HER2 陽性局所進行乳癌の1例. 一般口演
- * 石田 和茂. ランチョンセミナー 1. 座長

第40回日本臨床外科学会秋田県支部例会, 秋田, 2025/03/15

1. 石橋 正久, 畠山 瑞生, 有末 篤弘. 内視鏡スコープホルダーとしてのロックアームの安全性の検討. 一般口演

Erbix CRC Expert Webinar, Web開催, 2025/03/17

1. 八重樫 瑞典. 大腸癌に対する周期治療と外科治療. 座長

いわて集中治療研究会, 盛岡, 2025/04/19

1. 川島 到真. 肝胆膵疾患での DIC・ARDS 治療経験. 一般口演
- * 武田 大樹. DIC・ARDS. 座長

第15回肥満と消化器疾患研究会, 東京, 2025/04/23

1. 佐々木 章. 減量・代謝改善手術の効果と今後の展望. シンポジウム

第27回岩手内視鏡外科研究会, 盛岡, 2025/05/10

1. 佐々木 章. 特別講演 1 当科における胃がんに対するロボット支援手術導入と教育システム. 座長
 2. 菊地 晃司, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 佐々木 章. ロボット支援下肝左葉切除術の定型化. 一般口演
 3. 中村 侑哉, 川村 英伸, 木村 友里花, 細井 信之, 藤社 勉, 佐々木 章. TEPにおける当院のこだわりの手技について. 一般口演
 4. 口田 脩太, 菅野 将史, 直島 君成, 箱崎 将規. 標本回収用パウチを用いて腹腔鏡下に一括摘出可能であった巨大腎石症の1例. 一般口演
- * 箱崎 将規. 特別演題 II. 座長
 - * 新田 浩幸. 一般演題. 座長

第22回日本ヘルニア内視鏡外科手術手技研究集会, 盛岡, 2025/05/22

1. 藤原 久貴. 岩手医科大学関連の市中病院で行う Needlescopic TAPP:3mm,5mm,3mm. 一般口演
2. 天野 怜. 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における attenuated posterior rectus sheath(APRS) を意識した手術手技. 一般口演

第16回肥満症総合治療セミナー, 宇都宮, 2025/05/24 - 05/25

- * 佐々木 章. ランチョンセミナー スリーブ状胃切除術の概略. 座長

第36回内視鏡外科フォーラムin福島, 福島, 2025/05/31

1. 菊地 晃司, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 佐々木 章. ロボット支援下肝切除術における clamp-crush techniques と成績. シンポジウム
2. 二階 春香, 馬場 誠朗, 藤澤 良介, 菅野 正紀, 新田 浩幸, 佐々木 章. 若手外科医にとって魅力的な教育システムの構築を目指して.

シンポジウム

1. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. 教室における腹腔鏡下・ロボット支援下肝切除術の現在位置と将来像. シンポジウム
 4. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. 腹腔鏡手術経験を生かしたロボット支援下膵切除の初期経験. シンポジウム
- * 佐々木章. パネルディスカッション 理想のチーム医療とは. 特別発言
 - * 新田 浩幸. セッションII (肝胆膵①). 座長
 - * 馬場 誠朗. セッションIII (上部消化管疾患, その他). 座長

進行・再発胃癌治療～長期生存は可能か?～, 盛岡, 2025/05/9

1. 藤澤 良介. 長期生存を見据えた進行・再発胃癌治療について考える. パネリスト
- * 馬場 誠朗. 胃癌治療のNEW ERA～5年生存の価値を外科医目線で紐解く～. 座長

第17回いわて肥満症治療セミナー, 盛岡, 2025/06/02

- * 佐々木 章. 特別講演1 超高齢社会で増える高齢者の肥満、いかに防ぎ、どう治療するか. 座長

第98回日本内分泌学会学術集会, 千葉, 2025/06/05 - 06/07

1. 佐々木 章. 肥満症に対する外科療法. シンポジウム

胃癌Web講演会, Web配信, 2025/06/20

1. 藤澤 良介. 切除不能・再発胃癌に対する地域病院における治療戦略. 一般口演
- * 馬場 誠朗. 講演I・講演II. 座長

第187回東北外科集談会, 仙台, 2025/06/21

1. 加藤 兼也, 小山 亮太, 田金 恵, 有末 篤弘, 藤野 順子, 鈴木 信, 佐々木 章. 胆道穿孔を契機に診断した胆管非拡張型膵・胆管合流異常の一例. 一般口演
 2. 児玉 琢, 武田 大樹, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 石田 和茂, 藤野 順子, 井原 欣幸, 鈴木 信, 佐々木 章. 小腸粘膜下動脈瘤破裂の1例. 一般口演
- * 藤野 順子. [小] 小児外科. 座長

食道癌周術期治療について考える～治療標準化への課題と今後～, Web配信, 2025/06/23

1. 馬場 誠朗. 食道癌周術期治療の現状とCheckMate577試験最新データをどう活かしていくか. パネリスト

第12回サマーセミナー in 沖縄, 那覇, 2025/06/28

1. 片桐 弘勝, 武田 大樹, 新田 浩幸, ロボット支援下肝切除術における助手の役割, ミニレクチャー
2. 武田 大樹, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. 前方アプローチによるロボット支援下肝右葉切除術. 一般口演
3. 新田 浩幸. 肝臓 Up and Coming. 一般口演
4. 江原 郁也, 新田 浩幸. 獣医療における腹腔鏡下肝切除術の現状. 一般口演

北東北MICSセミナー2025, 盛岡, 2025/06/28

- * 八重樫 瑞典. minimally invasive colorectal surgery. 司会

第31回 侵襲サイトカイン研究会, 東京, 2025/07/03

1. 梅邑 晃, 佐々木 章, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 須藤 佑介, 安藤 太郎, 川島 到真, 新田 浩幸. 高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術前後の尿中メタボローム解析と炎症・代謝改善効果の関連. ワークショップ

東北LAC教室, Web開催, 2025/07/11

1. 八重樫 瑞典. ビデオカンファレンス. セミナー

Breast Cancer Web Seminar, 盛岡, 2025/07/22

1. 天野 総. 有害事象対策～口内炎と角膜炎～. 一般口演

Colorectal Cancer Surgeons Open Seminar, 仙台, 2025/07/25

1. 八重樫 瑞典. 大腸癌薬物療法の臨床の悩みどころ. 講演

胆道癌Web講演会 in 岩手, Web開催, 2025/08/01

- * 新田 浩幸. 胆道癌治療の新しい展開. 座長

12th Reduced Port Surgery Forum in Hachioji, 東京, 2025/08/01 - 08/02

1. 鈴木 信, 小山 亮太, 藤野 順子, 佐々木 章. 膀胱尿管逆流症に対する細径鉗子を用いた気膀胱下手術. 主題セッション
- * 鈴木 信. 主題セッション3: 伝えたい、見せたい我々の低侵襲【小児・肝胆膵・その他】. 座長

いわて消化器病セミナー，盛岡，2025/08/29

- * 佐々木 章 . 教育講演 . 座長
- * 新田 浩幸 . 特別講演 . 座長
- * 佐々木 章 . 教育講演 急性肝不全における凝固線溶系評価の意義 ～合併所予測の観点から～ . 座長

公開セミナー 重粒子線治療の実際と今後の可能性，盛岡，2025/09/08

1. 八重樫 瑞典 . 臓器別シンポジウム「重粒子線がん治療に期待すること」. シンポジウム

BTC Expert Seminar 2025 ～長期の治療コントロールを目指す～，Web 開催，2025/09/11

1. 武田 大樹 . 患者さんと共に歩む胆道癌治療 . ディスカッション

第 482 回八戸外科集団会，八戸，2025/09/19

1. 新田 浩幸 . 肝臓手術の最前線～若手肝胆膵外科医の手術はこうなる～ . 一般口演

第 1 回内視鏡外科フォーラム 教育セミナー，仙台，2025/09/20

1. 川島 到真 . 腹腔鏡下ヘルニア修復術 . ビデオクリニック

Colorectal cancer web seminar in Iwate, Web 開催，2025/09/22

1. 八重樫 瑞典 . 変わりゆく直腸癌治療 . 講演
- * 佐々木 章 . フリュゲラを有効に利用するための大腸癌薬物療法治療戦略 . 座長

北東北キャリアバス研究会 in 秋田 2025, 秋田，2025/09/27

- * 佐々木 章 . 特別講演① . 座長

第 188 回東北外科集談会 第 114 回日本胸部外科学会東北地方会 第 46 回日本血管外科学会東北地方会 第 103 回日本小児外科学会東北地方会，仙台，2025/09/27

1. 田金 恵, 佐藤 慧, 岩佐 友寛, 直島 君成, 菅野 将史, 柳川 直樹, 箱崎 将規 . 診断に難渋した充実性偽乳頭状腫瘍の一例 . 一般口演
2. 屋成 信吾, 八重樫 瑞典, 石井 勇吾, 岩崎 崇文, 瀬川 武紀, 佐々木 教之, 新田 浩幸, 佐々木 章 . 当院における腹腔鏡下骨盤内臓全摘術の導入と治療成績の検討 . 一般口演
- * 安藤 太郎 . 【外】小腸 . 座長

Interactive WebinAr for NexT GenEration, 盛岡，2025/09/29

1. 琴畑洋介 . 薬物療法に伴う副作用で治療に難渋した S 状結腸癌の一例 . パネルディスカッション
- * 八重樫 瑞典 . 大腸癌における集学的アプローチ . 座長

第 157 回南部地区病院消化器病研究会(NBS), 八戸，2025/09/3

1. 八重樫 瑞典 . 消化器内科医に知っていただきたい大腸がん治療～変わりゆく直腸がん治療～手足の神経障害に悩む患者さんのために～ . 特別講演

中外e-セミナー on Breast Cancer, 盛岡，2025/10/02

- * 石田 和茂 . Session2: 岩手エリア特別企画 . 司会

胃癌治療の未来を拓く，盛岡，2025/10/10

1. 馬場 誠朗 . 特別講演 座長 . 一般口演
2. 高橋 真人 . 胃癌一次治療と今後の治療戦略 . 一般口演

東日本肥満症・糖尿病チーム医療セミナー 2025, 盛岡，2025/10/11

1. 梅邑 晃 . MASLD/MASH に対する効果と今後の展望 . 一般口演

岩手肥満症・糖尿病オータムセミナー 2025 ～肥満症治療Up to Date～，盛岡，2025/10/17

1. 佐々木 章 . MASH に対する外科療法の効果 . 特別講演
- * 佐々木 章 . 肥満症治療の新展開 . 座長

第 19 回岩手骨盤外科研究会，盛岡，2025/10/24

1. 八重樫 瑞典 . 直腸癌 & Total Neoadjuvant Therapy . 一般口演

Gilead Breast Cancer Seminar in 岩手～トロデルビの適正使用を考える～，盛岡，2025/10/28

1. 石田 和茂 . 当院におけるトロデルビの使用経験 . セッション

北東北肝移植セミナー，Web 開催，2025/10/30

1. 新田 浩幸 . 腹腔鏡下ドナー肝切除術 . スポンサーセッション
- * 新田 浩幸 . 特別講演 . 座長
- * 井原 欣幸 . スポンサーセッション . 座長

第 44 回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会, 大阪, 2025/10/30 - 10/31

* 鈴木 信 . ポスターセッション 3 [泌尿生殖器 1]. 座長

第 81 回直腸肛門奇形研究会, 豊中, 2025/10/31

1. 藤野 順子, 小山亮太, 鈴木 信 . 直腸肛門奇形の術後管理 - 肛門形成後の股関節開排制限は必要か -. 要望演題

第 79 回手術手技術研究会, 大阪, 2025/11/07 - 2025/11/08

* 新田 浩幸 . エキスパートビデオ 3 肝臓 . 司会

食道癌Update WEB Seminar, Web 開催, 2025/11/10

* 馬場 誠朗 . エリアセミナー . 座長

* 高橋 真人 . 進行再発食道癌の治療戦略 . パネリスト

North Tohoku Kampo Forum ~ for Gastroenterological Surgery ~, Web 開催, 2025/11/11

* 佐々木 章 . クロージングリマークス . 座長

これからの臨床試験を考える会(JCOG-NEXUS), 仙台, 2025/11/21

1. 石田 和茂 . エンハーツから考える臨床試験 . 特別講演

第 17 回 北東北LAC 情報交換会, 盛岡, 2025/11/29

* 八重樫 瑞典 . エキスパートに学ぶ大腸がん手術の“今” . 司会

高質な糖尿病治療を目指す会 Final ~代謝から健康、長寿まで~, 西宮, 2025/11/6

1. 佐々木 章 . 異種移植の現状と期待~日本初の異種再生医療とは~ . 特別講演

胃癌Web 講演会in 岩手, 盛岡, 2025/12/05

1. 藤澤 良介 . 切除不能進行・再発胃癌に対する化学療法マネジメント . 講演

胃癌Web 講演会in 岩手, 盛岡, 2025/12/05

* 馬場 誠朗 . 胃癌 Web 講演会 in 岩手 . 座長

North Tohoku Kampo Forum ~ for Gastroenterological Surgery ~, 秋田, 2025/12/09

1. 藤野 順子 . 腹部手術後の諸症状に対する半夏瀉心湯の実効例 . 一般口演

第 18 回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会, 横浜, 2025/12/10

* 梅邑 晃 . ②基礎研究セッション 1. 基礎系脂肪 . 司会

第 21 回東邦大学医療センター佐倉病院内科学講座例会および第 18 回東邦医学会佐倉内科分科会, 佐倉, 2025/12/14

1. 佐々木 章 . 夢を追いかけて ~内科から外科への挑戦~ . 特別講演

岩手医科大学 外科学講座 スタッフ

役職	名前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
教授	佐々木 章	1988	内分泌代謝	外科学会指導医・専門医、消化器外科学会指導医・専門医、JSES 技術認定（食道）
	新田 浩幸	1993	肝胆膵	外科学会指導医・専門医、消化器外科学会指導医・専門医、JSES 技術認定（肝臓）、JHBPS 高度技能指導医、ロボット支援肝切除術プロクター、腹腔鏡下移植用部分肝採取術（生体）（外側区域グラフト）プロクター、移植認定医
准教授	鈴木 信	2000	小児外科	外科学会指導医・専門医、小児外科専門医、小児泌尿器科専門医、小児がん認定外科医、新生児認定外科医、消化器病専門医、日本消化器病学会消化器病指導医
	梅邑 晃	2005	肝胆膵・内分泌代謝	外科学会指導医・専門医、消化器外科学会指導医・専門医、JSES 技術認定（胆道）、移植認定医、肝臓専門医、日本消化器病学会消化器病指導医、膵臓部ヘルニア修復医、日本外科感染症学会外科局術前感染管理認定医、教育医、日本腹部救急医学会認定医、教育医、食道科認定医
講師	井原 欣幸	1998	肝胆膵	外科学会専門医、小児外科専門医、新生児認定外科医、肝臓専門医、移植認定医、小児栄養消化器肝臓認定医
	藤野 順子	1999	小児外科	外科学会専門医、小児外科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
	馬場 誠朗	2004	上部消化管	外科学会専門医、消化器外科学会指導医・専門医、食道科認定医、肥満症専門医
	石田 和茂	2005	乳腺	外科学会専門医、乳腺専門医、乳房再建責任医、早期乳癌ラジオ波焼灼術認定術者
	八重樫瑞典	2009	下部消化管	外科学会専門医、消化器外科学会指導医・専門医、JSES 技術認定（大腸）、ロボット支援手術認定プロクター（消化器・一般外科）、大腸肛門病専門医
助教	武田 大樹	2008	肝胆膵	外科学会専門医、消化器外科学会指導医・専門医
	二階 春香	2011	上部消化管	外科学会専門医、消化器外科学会指導医・専門医、食道科認定医
	安藤 太郎	2012	肝胆膵	外科学会専門医、消化器外科学会専門医
	佐々木教之	2012	下部消化管	外科学会専門医、消化器外科学会指導医・専門医
	天野 総	2013	乳腺	外科学会専門医、乳腺認定医
	瀬川 武紀	2013	下部消化管	外科学会専門医、消化器外科学会専門医
	天野 怜	2014	肝胆膵	外科学会専門医、消化器外科学会専門医
	菊地 晃司	2017	肝胆膵	外科学会専門医、消化器外科学会専門医
助教(任期付)	小山 亮太	2015	小児外科	外科学会専門医、小児外科専門医、新生児認定外科医
	木村 拓	2017	肝胆膵	外科学会専門医、消化器外科学会専門医
	高橋 真人	2017	上部消化管	外科学会専門医、消化器外科学会専門医
	藤澤 良介	2017	上部消化管	外科学会専門医、消化器外科学会専門医、食道科認定医
	屋成 信吾	2017	下部消化管	外科学会専門医
専門研修医	石井 勇吾	2019		外科学会専門医
	児玉 琢	2020		
4年	岩崎 崇文	2018	下部消化管	
	琴畑 洋介	2020		
3年	嶋田 拓明	2021		
2年	徐 光仁	2022		
	須藤 佑介	2022		
助教(任期付)・1年	川島 到真	2014	肝胆膵	外科学会専門医、消化器外科学会専門医
1年	川上亜紀子	2017		外科学会専門医
	菅野 正紀	2017		外科学会専門医

非常勤医師

非常勤講師	大森 浩明	雫石大森クリニック 院長
	富澤 勇貴	とみさわ甲状腺・乳腺と日帰り手術のクリニック盛岡 院長
非常勤医師	宇山 一郎	藤田医科大学医学部 先端ロボット・内視鏡手術学講座 主任教授
	篠原 尚	兵庫医科大学病院 上部消化管外科 主任教授
	島袋 誠守	東京ミッドタウン先端医療研究所 所長
	大塚 幸喜	藤田医科大学医学部 先端ロボット・内視鏡手術学講座 教授
	永川 裕一	東京医科大学 消化器・小児外科学分野 主任教授
	小島 正之	藤田医科大学医学部 総合消化器外科 講師
	須田 康一	藤田医科大学医学部 総合消化器外科 主任教授・診療科長
	高原 武志	藤田医科大学医学部 総合消化器外科 教授
	木村 聡元	函館五稜郭病院
	長谷川 康	慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科 専任講師
	三ツ井崇司	帝京大学医学部附属病院 外科 准教授
	片桐 弘勝	手稲溪仁会病院 消化器外科 副部長
	菅野 将史	盛岡市立病院
	小松 英明	こまつ乳腺クリニック 院長
	松尾 鉄平	松尾医院
	有末 篤弘	八戸赤十字病院
	外館 幸敏	一般財団法人脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院 外科 医長
	松井 雄介	岩手県立江刺病院
	畑中 智貴	岩手県立久慈病院
	棚橋 洋太	能代厚生医療センター
	松本 萌	東京医科大学 消化器・小児外科学分野 助教
	田金 恵	盛岡市立病院
	中村 侑哉	岩手県立二戸病院
	橋元 麻生	北上済生会病院
	伊藤 浩平	岩手県立軽米病院
	小泉 優香	岩手県立久慈病院
	佐々木智子	盛岡赤十字病院
大塚 観喜	岩手県立千厩病院	
口田 脩太	岩手県立二戸病院	
對馬 真緒	岩手県立二戸病院	

お知らせ

第20回肝臓内視鏡外科研究会のお知らせ

新田 浩幸

このたび第20回肝臓内視鏡外科研究会を2026年11月20日と21日に岩手県盛岡市のキオクシアアイーナ（いわて県民情報交流センター）において第18回膵臓内視鏡外科研究会と合同開催させていただきます。本研究会は腹腔鏡下肝切除の発展と安全性向上を目指して発足し、ハンズオンセミナーやビデオクリニックなども定期的開催するなど、国内における腹腔鏡下肝切除術の安全性向上に大きく寄与した会になります。

盛岡は2014年に第2回世界コンセンサス会議が開催された場所でもあります。同会議では腹腔鏡下肝切除の安全性と有用性が世界的に議論され、国際的な指針が示されました。その意義深い地において、第20回という記念すべき節目の研究会を開催できますことは、誠に感慨深いものがございます。

本会は初めての二日間開催となります。肝臓および膵臓の内視鏡外科の両者を深く学べるようプログラムを構成し、また、岩手・盛岡の地を堪能できるよう中村慶春先生と共に準備をすすめております。全国から肝臓および膵臓の内視鏡外科領域におけるトップリーダーが集う会でもあり、成功に導くべくみなさまのご協力とご支援を頂戴できれば有り難く思います。これまでの歩みを振り返るとともに、未来の外科医療を展望する機会となり、活発な討論と実り多い交流が生まれますことを心より祈念申し上げ、開催のご挨拶とさせていただきます。

第20回
肝臓内視鏡外科研究会

第18回
膵臓内視鏡外科研究会

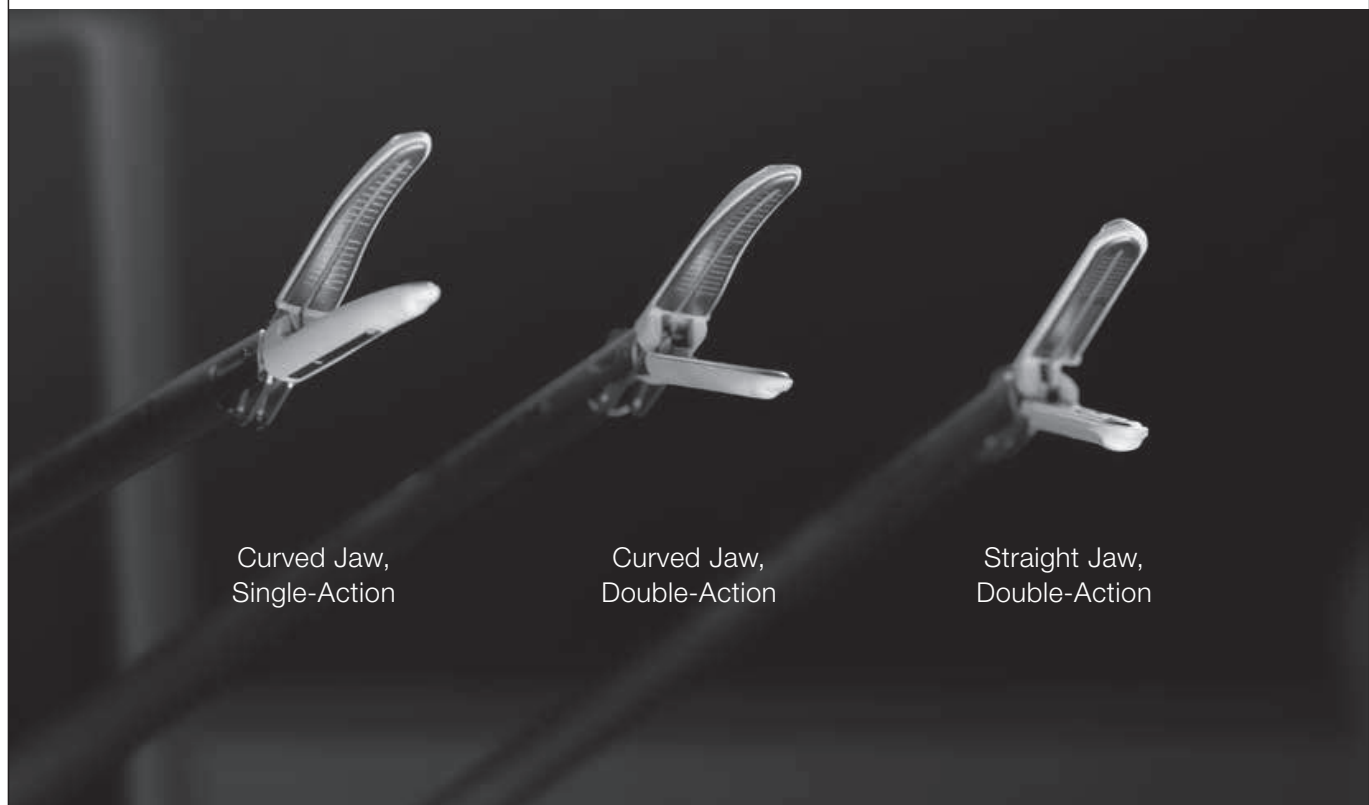
2026. 11.20(金) 21(土)

会場
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター)

事務局
第20回肝臓内視鏡外科研究会
岩手医科大学外科学講座 〒028-3695 岩手県盛岡市北町區大通二丁目1番1号
第18回膵臓内視鏡外科研究会
日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科 〒270-1694 千葉県印西市鎌刈1715

運営事務局 有限会社ヤマダプランニング 〒020-0857 岩手県盛岡市北町區1-5-5 TEL.019-635-6011 FAX.019-635-6033

OLYMPUS



Curved Jaw,
Single-Action

Curved Jaw,
Double-Action

Straight Jaw,
Double-Action

POWERSEAL Sealers/Dividers

Laparoscopic Portfolio

The Next Level of Advanced Bipolar Technology

- Confident vessel sealing.
- Multifunctional design.
- Ergonomic comfort.

The Choice Is Yours

- Three different jaw styles.
- Three shaft lengths.
- One common handle design.

For more information, please visit

➤ www.olympus.xx



OLYMPUS MEDICAL SYSTEMS CORP

2951 Ishikawa-cho, Hachioji-shi, Tokyo 192-8507, Japan | www.olympus-global.com

クオリティーの向上



人がいる、
心がある、
医療に貢献。



誠実・医療に奉仕

共立医科器械株式会社

●本社	〒020-0013	岩手県盛岡市愛宕町15-9	TEL (019) 623-1205 (代)	FAX (019) 653-5301
水沢支店	〒023-0826	岩手県奥州市水沢中田町4-38	TEL (0197) 25-6221 (代)	FAX (0197) 25-6223
八戸支店	〒039-1166	青森県八戸市根城3-18-3	TEL (0178) 43-2923 (代)	FAX (0178) 44-1957
矢巾営業所	〒028-3609	岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-12	TEL (019) 613-6771	FAX (019) 613-6772
さんりく営業所	〒026-0046	岩手県釜石市桜木町1-6-41	TEL (0193) 23-0491 (代)	FAX (0193) 23-0976
弘前営業所	〒036-8061	青森県弘前市大字神田5-8-5	TEL (0172) 55-5081	FAX (0172) 55-5082
青森営業所	〒030-0811	青森県青森市青柳1-8-19	TEL (017) 718-3205	FAX (017) 718-3206
秋田営業所	〒010-0041	秋田県秋田市広面字川崎107-3	TEL (018) 884-7464	FAX (018) 884-7465
共立サポートセンター ★ISO 9001 認証取得				
	〒020-0813	岩手県盛岡市東山2-3-12	TEL (019) 652-8988	FAX (019) 623-4161

■医療機器 ■医療情報システム ■病・医院諸設備 ■理化学分析機器
■バイオテクノロジー機器 ■環境分析機器 ■実験動物機器

<https://www.kmic.co.jp/>

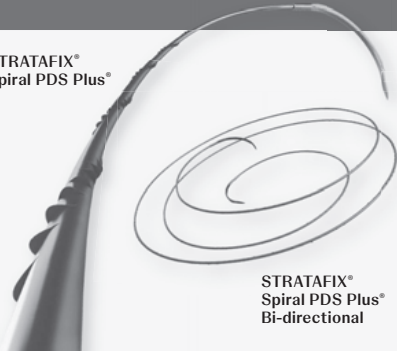
Johnson & Johnson MedTech

HARMONIC® 1100



ECHELON CIRCULAR®
Powered Stapler

STRATAFIX®
Spiral PDS Plus®



STRATAFIX®
Spiral PDS Plus®
Bi-directional

SURGICEL SNoW®
Absorbable Hemostat



SURGICEL®
ABSORBABLE HEMOSTAT

DERMABOND
PRINEO®



ENDOPATH®
XCEL Trocar series



SURGIFLO®

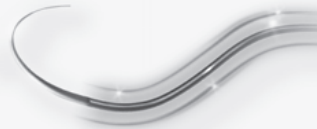


HARMONIC
FOCUS®+

SURGICEL® Powder
Absorbable Hemostat



PDS PLUS®



ENSEAL®
X1 Curved Jaw Tissue Sealer



Powered
ECHELON FLEX® 3000



製造販売元：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2 TEL.0120-160-834

JP_ETH_STAP_357792
©J&JKK 2024

販売名：エンドパス スタイプラー Powered ECHELON FLEX 3000
販売名：GSTカートリッジ
販売名：エシロン サーキュラー パワードスタイプラー
販売名：エンドパス トロカーステム
販売名：ハーモニック 1100 シアーズ
販売名：エンシール X1 ティシューシユラー
販売名：ハーモニック FOCUS プラス

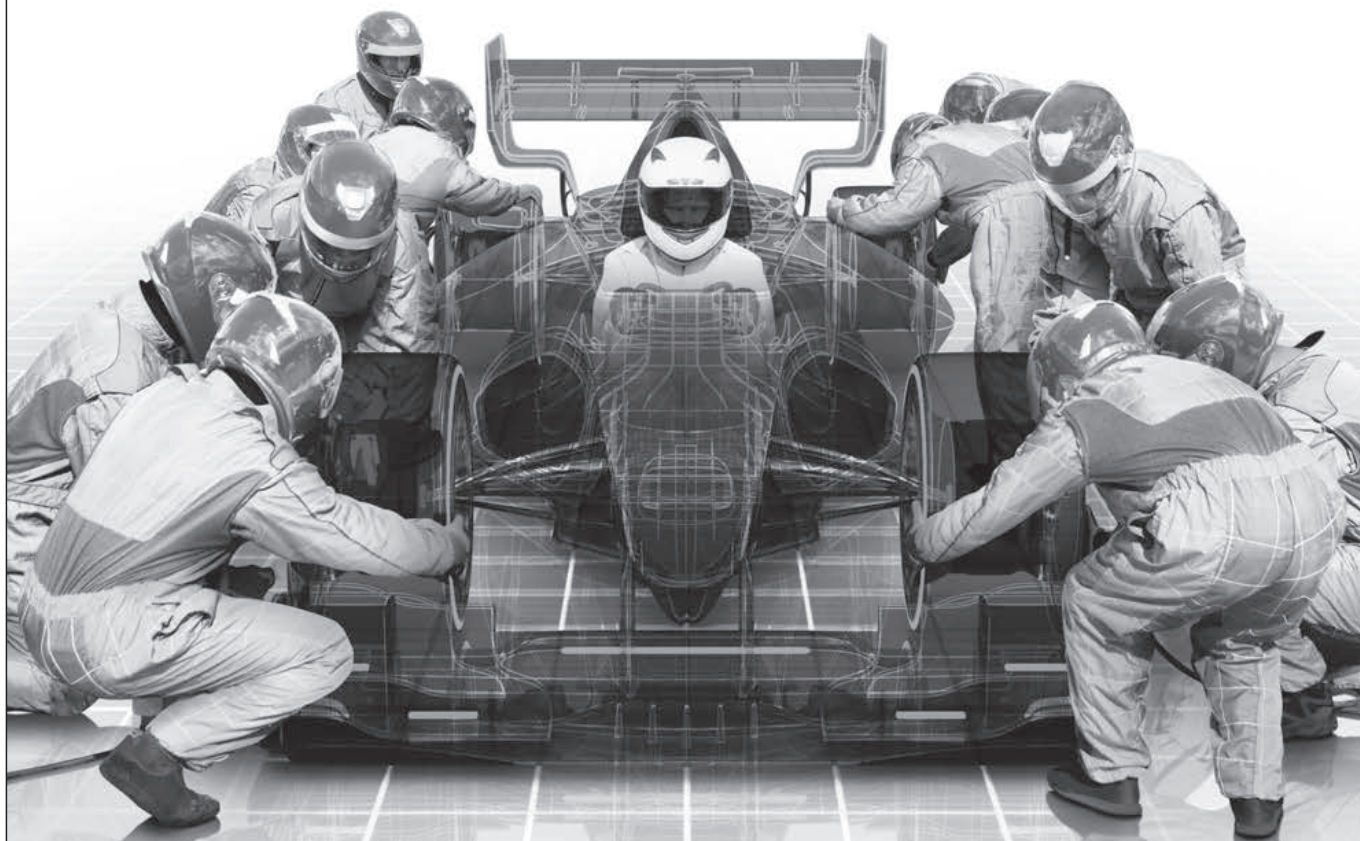
認証番号：304AABZX00060000
承認番号：22700BZX00155000
承認番号：30100BZX00156000
認証番号：21900BZX00882000
承認番号：30300BZX00138000
承認番号：30200BZX00391000
承認番号：22700BZX00411000

販売名：STRATAFIX Spiral PDS プラス
販売名：STRATAFIX Spiral PDS プラス Bidirectional
販売名：PDS プラス
販売名：ダーマボンドプリネオ
販売名：サージフロー
販売名：サージセル・パウダー・アブソーバブル・ヘモスタット
販売名：サージセル スノー・アブソーバブル・ヘモスタット
販売名：サージセル・アブソーバブル・ヘモスタットMD

承認番号：22900BZX00123000
承認番号：30400BZX00016000
承認番号：22300BZX00333000
届出番号：138100204ME0010
承認番号：23100BZX00112000
承認番号：30200BZX00082000
承認番号：30300BZX00042000
医療機器承認番号：30400BZX00112000

FUJIFILM
Value from Innovation

最高のチーム医療は、ここから始まる。

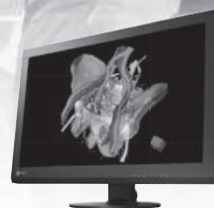


SYNAPSE VINCENTの
WEBサイトはこちらから



迅速に、的確なゴールを目指して。
— チーム医療を新たな次元に導く3D解析技術 —

「SYNAPSE VINCENT」は、高精度な3D画像を描出し、解析を行う3D画像解析システム。富士フィルムのメディカルAI技術ブランド「REiLI」による深層学習技術を設計に活用した術前支援機能なども拡充し、チーム医療の進化に貢献します。



REiLI

Medical AI Technology

SYNAPSE
VINCENT

販売名:富士画像診断ワークステーション FN-7941型 認証番号:22000BZX00238000

富士フィルム メディカル株式会社

<https://fujifilm.com/fms/>

国民の医療・健康・福祉に貢献する



アムコ会員サイト登録のご案内

ホームページ上に医療従事者限定の会員サイトを開設しております。
左記QRコードより、お問合せ内容に【会員登録希望】と入力し送信いただきますようお願い致します。
会員登録いただくと、製品に関するケースレポート、講演会やセミナー動画、学会・セミナー記録集などの情報がご覧いただけます。

 株式会社 **アムコ** www.amco.co.jp
本社 / 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-7 TEL: 03(3265)4263 FAX: 03(3265)2796

INTUITIVE

Da Vinci SP
Move surgery forward. Again.

詳細は以下のお問い合わせ先、または弊社営業担当へご確認ください。

お問い合わせ先
インテュイティブサージカル合同会社
東京都港区赤坂一丁目12番32号アーク森ビル

Tel. (03) 5575 - 1419 (営業部)
Tel. (03) 5575 - 1326 (マーケティング部)
Tel. (03) 5575 - 1362 (音声案内で3を選択)
(0120) 56 - 5635 (音声案内で3を選択) (カスタマーサービス)

販売名: da Vinci SP サージカルシステム (承認番号: 30400BZX00220000)

©2023 インテュイティブサージカル合同会社
無断複写・複製・転載を禁じます。製品名は各社の商標または登録商標です。

PN 1110236 JP Rev.A 12/22





hvc
human health care



患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

Septrafilm
ADHESION BARRIER



承認番号20900BZY00790000

高度管理医療機器 保険適用

癒着防止吸収性バリア

セプトラフィルム®

ヒアルロン酸ナトリウム/カルボキシメチルセルロース癒着防止吸収性バリア

- 禁忌・禁止を含む使用上の注意等については電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入) **バクスター・ジャパン株式会社**
東京都港区芝浦三丁目4番1号グランパークタワー30階

発売元
文献請求先
及び問い合わせ先



科研製薬株式会社

〒113-8650 東京都文京区本駒込二丁目28番8号
医薬品情報サービス室

JP-AS30-220198 V3.0
SPF08CP (2024年1月作成)

私たちのイノベーションを、
待っている人がいる。

ギリアドは、信じています。
不可能は、不可能ではない。
まだ見ぬ可能性の源であると。
そんな思いで私たちはHIV、肝炎、
炎症性疾患、そしてがんなどの疾病に
革新的なアプローチで挑み、患者さんのより良い生活を
実現するための治療薬を開発してきました。
新型コロナウイルス感染症の流行にもいち早く対応し、
世界で最初に承認された抗ウイルス薬を開発。
不可能へと挑む勇氣、そして患者さんを想う強い気持ちをもって、
一丸となり新たな可能性を生み出してきました。
多くの患者さん、それを支える人たちを守るという強い決意のもと、
日本法人を立ち上げて、10年を越えました。
まだまだ、私たちの創薬を待つ人がいる。
これからも、この日本で、一緒に。
イノベーションを起し続けることを誓います。
私たちは、ギリアド・サイエンシズ。
不可能は不可能ではないと、証明するために。



Medtronic

LigaSure™ XP Maryland
Sonicision™ 7

“次のステージ”へ



コヴィディエンジャパン株式会社
Tel:0120-998-971
medtronic.co.jp

販売名:Valleylab FT10Eプラットフォーム 医療機器承認番号:22800BZX00157000
販売名:ForceTriadEプラットフォーム 医療機器承認番号:21900BZX00853000
販売名:Sonicision 7 コードレスシステム 医療機器承認番号:30500BZX00058000

使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意等の情報につきましては製品の電子添文をご参照ください。
© 2024 Medtronic. Medtronic、メドトロニック及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。

SI-A1437

食事制限や減量が必要な方に。

MICRODIET

フォーミュラ食 マイクロダイエット

30年以上にわたる使用実績と豊富な臨床エビデンス！

お問い合わせ先 **サニーヘルス株式会社** メディカルチーム

〒380-0912 長野市稲葉1661番地
Phone 026-221-5550 Fax 026-221-1110

サンプル・資料のご用命は

通話料 無料 **0120-308-270** 受付時間/平日9:00~17:30
info-mdmedical@sunnyhealth.co.jp



私たちが扱う **医療機器** で
すべての人が健康で過ごせる社会を

私たち三櫻は病院、福祉などの現場に寄り添い、
医療をサポートする仕事をしています。
広い知識を元に、医療材料・機器の提案、
医療機器販売、製品に関するいち早い情報提供、
手術や治療に合わせた器械の搬入等、
医療に関する幅広い業務を承っております。

株式会社 三櫻 <https://san-ou.co.jp/>

盛岡営業所 岩手県盛岡市門2丁目18番8号 019(625)3030
秋田営業所 秋田県秋田市川尻新川町6番14号 018(824)6771
本社 岩手県盛岡市名須川町24番1号 019(624)1488



WEBサイト

Abraxane®

抗悪性腫瘍剤

薬価基準収載

特定生物由来製品、毒薬、処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

アブラキサン® 点滴静注用 100mg

Abraxane® I.V. Infusion パクリタキセル注射剤（アルブミン懸濁型）

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

文献請求先及び問い合わせ先
大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 <https://www.taiho.co.jp/>

製造販売元
TAIHO

提携先
Abraxis 米国
BioScience

2021年8月作成



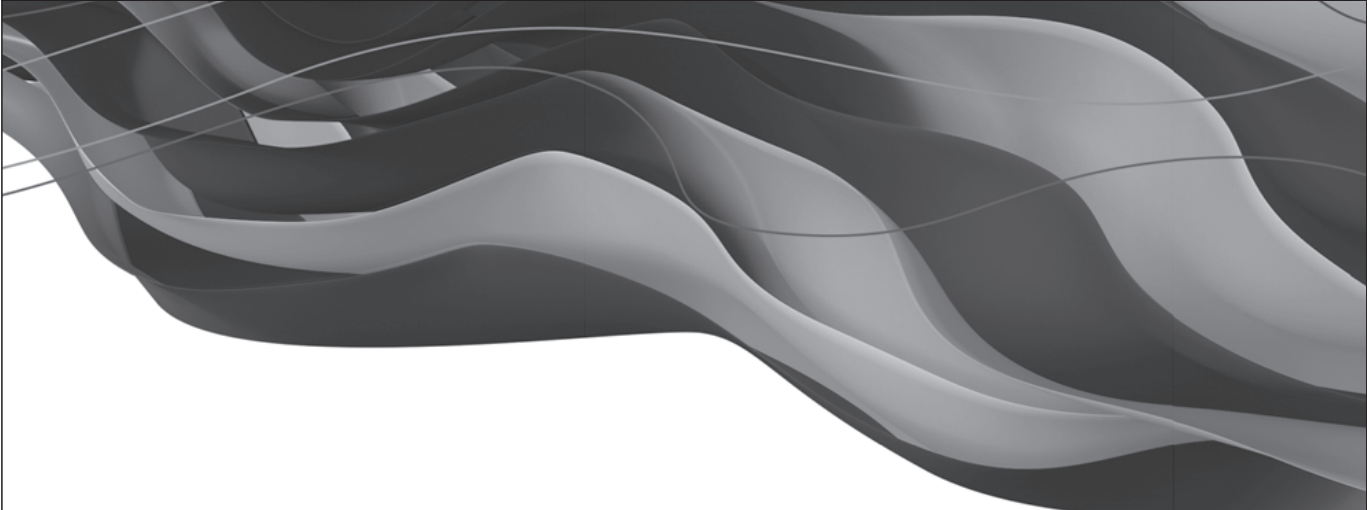
Better Health, Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献するために、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp





抗悪性腫瘍剤-抗HER2[※]抗体
トポイソメラーゼI阻害剤複合体

薬価基準収載



エンハーツ[®] 点滴静注用100mg

●「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む
注意事項等情報」等については電子添文をご参照
ください。

一般名/トラスツズマブ デルクステカン(遺伝子組換え)
(Trastuzumab Deruxtecan(Genetical Recombination))
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品・注意-医師等の処方箋により使用すること
※HER2:Human Epidermal Growth Factor Receptor Type 2
(ヒト上皮増殖因子受容体2型、別称:c-erbB-2)



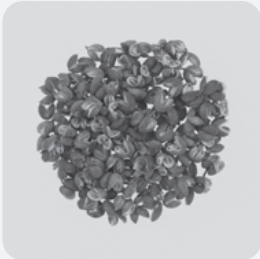
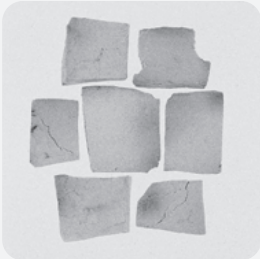
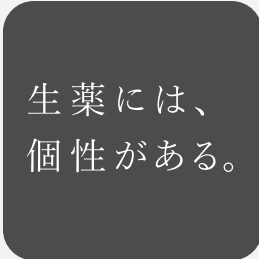
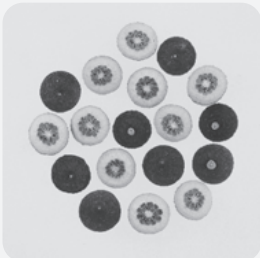
Daiichi-Sankyo

製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先を含む)

第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1

2024年7月作成



生薬には、
個性がある。

漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



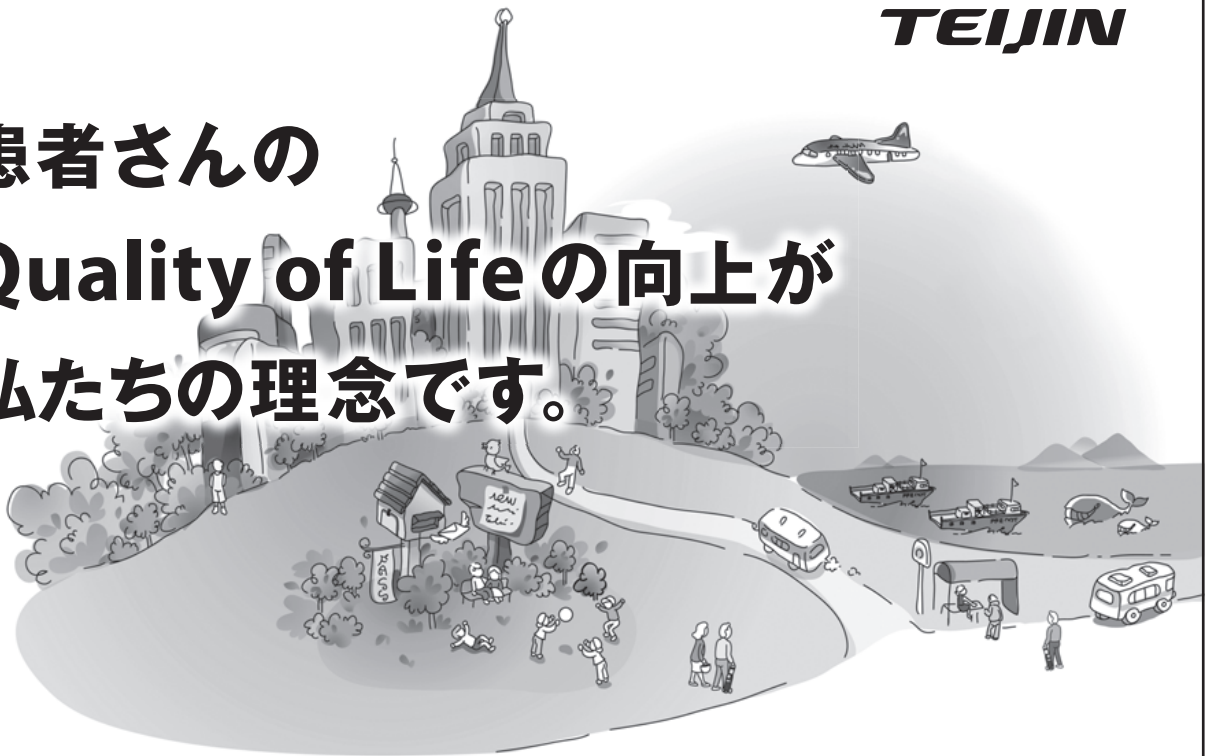
株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/> 資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。

医療関係者の皆様 tel.0120-329-970 患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く)

2021年4月制作 (審)

TEIJIN

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
私たちの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD003-TB-2505-2
2025年5月作成

世界中の人々の
より豊かな人生のため、
革新的医薬品に
思いやりを込めて


Lilly
A MEDICINE COMPANY

日本イーライリリーは製薬会社として
人々が健康で、より豊かな生活を送れるよう
がん、糖尿病、自己免疫疾患、
アルツハイマー病などの中枢神経系疾患を含む
幅広い領域で革新的な医薬品を提供し
日本の医療に貢献しています。

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通 5-1-28
<https://www.lilly.com/jp/>





これからも、 未来から発想。

日本化薬は、いつも想像している。
人と社会のよりよい未来を。そして、いつも考えている。
その未来にあって、今はまだない技術のことを。
日本化薬は設立以来、
世の中のニーズを先取りした独自の技術や製品で、
便利で健やかな暮らしや
安全安心な社会づくりに貢献してきました。
これからは今以上に、活発なコミュニケーション、
自由な発想、培ってきた技術に磨きをかけ、さらに成長していきます。
すべては、人と社会の持続可能な幸せとうれしさのために。

世界的すきま発想。

 日本化薬

血液凝固阻止剤

アコアラン[®] 静注用 **600**
1800

600国際単位、1800国際単位／バイアル
ACOALAN[®] Injection アンチトロンビン ガンマ(遺伝子組換え)静注用

生物由来製品 処方箋医薬品[※]

薬価基準収載

(注意)医師等の処方箋により使用すること

※効能又は効果、用法及び用量、
禁忌を含む注意事項等情報については
電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元

協和キリン株式会社

東京都千代田区大手町1-9-2

販売元

一般社団法人

JB 日本血液製剤機構

東京都港区芝浦3-1-1

ACO-202403

[文献請求先及び問い合わせ先]

日本血液製剤機構 くすり相談室 〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jbpo.or.jp/med/di/>



抗悪性腫瘍剤 (CDK4/6阻害剤)

イブランス® 錠

25mg
125mg

IBRANCE® 25mg・125mg Tablets パルボシクリブ錠

薬価基準収載

劇薬 処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等は、電子添文をご参照ください。

製造販売

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

文献請求先及び製品の問い合わせ先：
Pfizer Connect/メディカル・インフォメーション 0120-664-467
<https://www.pfizermedicalinformation.jp>

販売情報提供活動に関するご意見：

0120-407-947
<https://www.pfizer.co.jp/pfizer/contact/index.html>

2024年10月作成
IBN72K001G



血漿分画製剤 生物学的製剤基準 人血清アルブミン

献血

献血アルブミン20% 静注 10g/50mL 「KMB」

Kenketsu Albumin 20% I.V. Injection 10g/50mL “KMB”

献血アルブミン25% 静注 12.5g/50mL 「KMB」
25g/100mL 「KMB」

Kenketsu Albumin 25% I.V. Injection 12.5g/50mL, 25g/100mL “KMB”

特定生物由来製品、処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

健康にアイデアを

meiji

健康にアイデアを

kmb

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む注意事項等情報等については電子添文を参照ください。

製造販売元

KMバイオロジクス株式会社

熊本市北区大窪一丁目6番1号

販売元

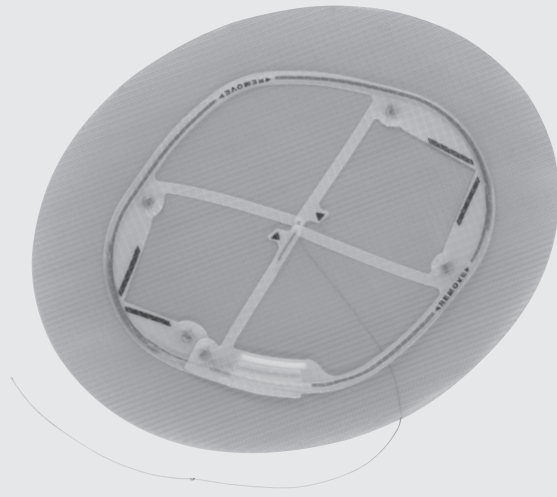
Meiji Seika ファルマ株式会社

東京都中央区京橋2-4-16

<文献請求先及び問い合わせ先>

Meiji Seika ファルマ株式会社 ぐすり相談室
〒104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
フリーダイヤル(0120)093-396
電話(03)3273-3539、FAX(03)3272-2438

2025年4月作成



バード® ベントラライト® ST with エコー2

メッシュ展開及び適正留置用ポジショニングシステム
セブラ技術を採用した、モノフィラメントポリプロピレンメッシュ

販売名：バード ベントラライトST with エコー2
承認番号：23000BZX00315000
クラス分類：[IV]高度管理医療機器
一般的名称：吸収性ヘルニア・胸壁・腹壁用補綴材
償還区分：繊維布・ヘルニア・腹膜欠損

製造販売元
株式会社メディコン
カスタマーサービス www.bdj.co.jp/s/cs/

bd.com/jp/

・事前に必ず電子添文(注意事項等情報)を読み、本製品の使用目的、禁忌・禁止、警告、使用上の注意等を守り、使用方法に従って正しくご使用ください。

・本製品の電子添文は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページで閲覧できます。



BD, the BD Logo, are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates. © 2025 BD. All rights reserved.

教室年報

岩手医科大学医学部外科学講座

発行年月日／令和8年4月吉日

発行責任者／佐々木 章

発行 行／岩手医科大学医学部外科学講座同門会

〒028-3695 紫波郡矢巾町医大通2丁目1-1

TEL 019-613-7111 (6220)

FAX 019-907-7344

編集 者／馬場 誠朗

制 作／株式会社 杜陵印刷

編集後記

今年も2025年の岩手医科大学外科学講座教室年報を発刊することができました。本年も多くの先生方よりご寄稿いただき、充実した内容となりました。ご執筆ならびに編集にご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

学会や研究会においても現地開催が定着し、直接顔を合わせて交流できる機会が増えたことで、学術的にも人的交流の面でも大変有意義な一年となりました。今後もこうしたつながりを大切にしながら、教室のさらなる発展につなげてまいりたいと考えております。

末筆ながら、同門会の先生方、ご執筆いただいた先生方、秘書の皆様、株式会社杜陵印刷の皆様、ならびにご協賛いただきました各社の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

編集委員長 馬場 誠朗

表紙の説明

三ツ石神社

東顕寺の裏手には、三個の巨大な花崗岩が立ち並ぶ三ツ石神社があり、その三ツ石に鬼の手形伝説があることから、それが岩手の名の起こりとされています。さんさ踊り発祥伝説の地でもあります。



醫藥